

平成 23 年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報



2013 年 3 月
国分寺市教育委員会

序

平成 23 年度の国庫補助事業による市内発掘調査の成果を報告いたします。

平成 23 年は東日本大震災が起こり、人と人とのつながりや地域の力が改めて問われた年でもありました。個人住宅はみなさまの生活の礎となるものであり、国や都から補助金をいただき継続的に発掘調査をしているものです。震災の影響により大規模開発が少ない年でしたが、調査の中には少ない面積ながら貴重な成果を挙げた国分寺（尼寺）にかかわる調査や、旧石器時代の調査があります。これらの成果や出土遺物が、広く学校教育や社会教育に活用されることを期待いたします。

最後になりましたが、この調査や報告にあたって、多大な御理解と御協力を賜りました事業者をはじめ関係者のみなさまに対し、心より御礼申し上げます。

平成 25 年 3 月 31 日

国分寺市教育委員会

教育長 松井 敏夫

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市において市教育委員会が平成23年度国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。調査対象遺跡は、当該年度に申請があった、個人住宅建設に伴う本発掘調査（以下、個人宅造）と、集合住宅建設等に伴う確認調査（以下、確認調査）が必要となった8遺跡12地点、および周知の埋蔵文化財包蔵地以外で実施した試掘調査1地点である。

2. 調査費（平成23年度）および出土品等整理・報告書作成費（平成24年度）は「国宝重要文化財等保存整備費補助金」を得て実施した。費用の負担割合は、国1/2・都1/4・市1/4である。

3. 発掘調査は国分寺市教育委員会が調査主体となり、国分寺市遺跡調査会（調査団長 坂詰秀一）に委託して調査を行った。調査担当は、国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長依田亮一、同係上敷領久、小野本敦（平成23年度末退職）、中道誠、寺前めぐみの5名で、中元幸二、野中太久磨、増井有真の協力を得た。

4. 発掘調査および遺物・資料整理作業、報告書作成業務は同課職員の他、下記の国分寺市遺跡調査会、国分寺市シルバー人材センターが従事した。（五十音順）

青山達夫・石井佳男・井口正利・伊藤直美・大塚敦子・大羽正子・小野祐子・桂弘美・倉田陽子・
小池和彦・佐々木徳明・佐々木義身・佐藤緋佐子・佐藤令・島田智博・相馬しのぶ・高橋より子・
平塚恵介・藤崎努・本村けい子・山口啓子

5. 本書の執筆は、寺前（第1章・第2章第1節（1）～（4））・依田（第3章）・上敷領（第1章第1節（5））が担当し、中道・中元・野中・増井がこれを補佐した。また、全体の編集は寺前が担当した。

6. 本書の挿図・表等の作成は、マイクロソフト社「ワード」・「エクセル」、アドビ社「イラストレーター」・「フォトショップ」・「インデザイン」の各ソフトを用いた。

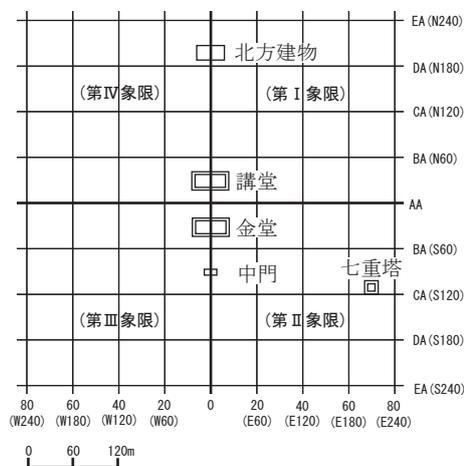
7. 発掘調査および整理作業、報告書作成の過程で、下記の方々からご教示やご協力を賜りました。記して感謝いたします。（五十音順・敬称略）

東京都教育庁地域教育支援部管理課・東京都建設局北多摩北部建設事務所・東京都埋蔵文化財センター
株式会社ミッド・マップ社

梅山伸二・小此木ヒサエ・上村雄三・佐々木義身・田中康敬（国分寺市ふるさと文化財愛護ボランティア）
黒尾和久・中山真治

凡 例

1. 国分寺市では、No.10・19遺跡である武蔵国分寺跡僧尼寺の広大な範囲を統一して調査するため、局地座標系を用いている。座標原点は、僧寺の伽藍中軸線を基準に、金堂中心の北26.276mの中軸線上の点（コンクリート埋設）である。僧寺中軸線は、それぞれ真北から7°07'01"、磁北から0°37'01"西偏する。この座標原点を中心に、象限をⅠ～Ⅳに大別し、中心点からの距離をN・S・E・Wで表す。さらに、本文中および図面のグリッド表示の数字は、南と西に接する基準線に与えた記号の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット2文字で表す。1文字目は原点をAとし、60mごとにB・C・D…とふり、2文字目はその内を3mごとに20区に分けA～Tとふった。南北基準線は数字で表し、原点を0とし、以下東西ともに3mごとに1・2・3…とふった。なお、遺跡記号はMKにⅠ～Ⅳの各象限を続けたものに調査次数を付して表示している。



武蔵国分寺跡の調査基準線

2. 上記以外の市内遺跡の座標は世界測地系の第9系を用いる。ただし、その基準点は平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の影響を受けて変動しているが、従来の測量成果を使用している。

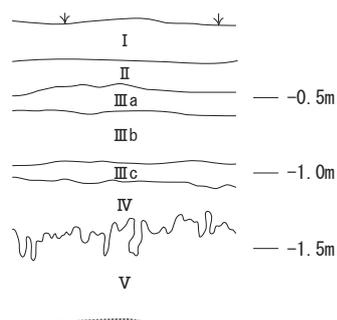
3. 国分寺市域で用いる層位区分は、表土（Ⅰ層）下の黒褐色土を、より黒色味が強い上層（Ⅱ層）と褐色味が強い下層（Ⅲa層）に細分している。今回報告する調査区は武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土は下記のとおりほぼ共通した層序を示す。

Ⅰ層 表土・近現代盛土および、耕作土。層厚30～50cm。

Ⅱ層 黒褐色土。粒子が粗い。しまりはやや弱い。粘性は弱い。古代～中世の遺物を包含し、古代の遺構堆積土に似る。層厚約10～15cmだが、市内ではすでに削平されていることが多い。

Ⅲa層 暗褐色土。粒子はやや粗い。粘性はやや弱い。層厚約10～15cm。遺存状況のよいところは本層上面で、古代の遺構が確認できる。

Ⅲb層 暗褐色土。Ⅲa層より明度が高く、褐色味が強くなる。軟質で粘性はやや弱い。Ⅲc層に近づくに連れて粘性が強くなる。縄文時代中期の遺物を包含する。層厚約30～40cm。



国分寺市内の平均的な層序

Ⅲc層 茶褐色土・暗黄褐色土。縄文時代早・前期の遺物を包含する。ローム層への漸移層で、赤色スコリアを多量に含む。層厚約10～15cm。

Ⅳ層 黄褐色土。ソフトローム。Ⅴ層との境は凹凸が激しい。層厚約15～25cm。

Ⅴ層 黄褐色土。ハードローム。

4. 調査における写真記録は、原則として2種類の35mmフィルム（カラーポジ・モノクロネガ）カメラとデジタルカメラを併用し撮影した。必要に

応じて中判フィルム（モノクロネガ）カメラも使用して記録した。No. 10・19 遺跡以外の測量における基準点は国分寺市公共基準点を使用した。

5. 図面については、原則として全体図 1/100, 遺構平面図 1/20, 断面図 1/20 のスケールで記録している。

6. 調査地位置図・遺構図面は図面上が座標北である。縮尺は適宜スケールバーで示した。調査地位置図は、株式会社ミッドマップ社より提供を受けた地形図に加筆を行った。第 2 章は、縮尺を 1/2,500 に統一し、第 3 章は個別に表記した。また、土層断面図および柱状図の縮尺は 1/40 に統一した。

7. 遺跡名については、No. 10・19 の以外の調査については、K に遺跡番号を続けたものに次数を付して表示している。

8. 遺構は遺跡ごとにほぼ発見順に連続番号を付し、下記の遺構記号を冠して表示する。縄文時代の遺構は遺構番号末尾に J を付して区別し、そのうち P は遺構記号の後ろに J を付して歴史時代の遺構と区別する。また、小穴は調査地ごとに個別に No. を振り分けている。

SB : 掘立柱建物 SI : 竪穴建物 SD : 溝 SK : 土坑 P : 小穴
ST : ブロック SR : 礫群

9. 遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

歴史時代

土器類 PH : 土師器 PK : 須恵器 PN : 灰釉陶器 PQ : 白磁
瓦 KA : 鏡瓦 KB : 宇瓦 KC : 男瓦 KD : 女瓦
石製品 GL : 砥石

縄文時代

土器類 JB : 早期前半 JE : 中期前半 JF : 中期後半 JG : 後期
土製品 DA : ミニチュア土器 DE : 土製円板
石器類 AG : 打製石斧 AH : 磨製石斧 AL : 磨石 AN : スタンプ形石器
旧石器時代 FA : ナイフ形石器 FJ : 石核 FL : 剥片

10. 遺物の縮尺は次のとおりに統一し、適宜スケールバーで示した。また、写真図版についても、おおむね下記のスケールに統一している。

土器類 1/3 瓦 1/4 縄文時代石器 1/3 旧石器時代石器 1/2

11. 遺物の記述については一覧表とし、原則として図面番号順に列記してある。遺物観察表における法量のうち、完存しているものは括弧なしで全長数値を表し、() は残存数値、(()) は復元数値を表す。「—」は計測できないものを表す。

本 文 目 次

序

例 言

凡 例

本文目次

挿図目次・写真目次・表目次

第 1 章	埋蔵文化財行政のあらまし	9
第 2 章	平成 23 年度に実施した発掘調査	18
第 1 節	本発掘調査（個人宅造）	18
(1)	武蔵国分寺跡第 673 次	18
(2)	武蔵国分寺跡（尼寺）第 675 次	23
(3)	恋ヶ窪遺跡第 88 次	32
(4)	恋ヶ窪遺跡第 89 次	33
(5)	花沢東遺跡第 13 次	50
第 2 節	確認調査	61
(1)	武蔵国分寺跡第 670 次	61
(2)	武蔵国分寺跡第 671 次	62
(3)	武蔵国分寺跡第 674 次	64
(4)	恋ヶ窪遺跡第 90 次	65
(5)	花沢西遺跡第 22 次	66
(6)	殿ヶ谷戸北遺跡第 3 次	68
(7)	殿ヶ谷戸遺跡第 13 次	72
第 3 節	試掘調査	74
(1)	東恋ヶ窪 6 - 23 - 2 地点（推定東山道武蔵路跡）	74
第 3 章	まとめ	79

挿 図 ・ 写 真 目 次

- 第1図 国分寺市の地形模式図
第2図 国分寺崖線と湧水
第3図 調査風景（インターン実習）
第4図 普及活動風景（拓本教室）
第5図 発掘調査面積の推移
第6図 平成23年度調査地位置図
第7図 MKⅢ-673 調査地位置図
第8図 MKⅢ-673 調査区配置図（1/500）
第9図 MKⅢ-673 調査区平面図（1/100）
第10図 MKⅢ-673 調査区土層柱状図
第11図 遺構断面図（1/40）
第12図 調査区全景東半（北から）
第13図 SK3430 南壁（北から）
第14図 SK3431・3432 完掘状況（南から）
第15図 調査風景（測量調査）
第16図 出土遺物実測図（土器1/3・瓦1/4）
第17図 出土遺物写真
第18図 MKⅢ-675 調査地位置図
第19図 MKⅢ-675 調査区配置図（1/800）
第20図 MKⅢ-675 調査区平面図（1/80）
第21図 MKⅢ-675 調査区壁断面図（1/40）
第22図 土層柱状図
第23図 遺構断面図（1/20）
第24図 周辺調査状況図（1/200）
第25図 Aトレンチ東部SD44 検出状況（北西から）
第26図 Aトレンチ東部SD44 完掘状況（北西から）
第27図 Aトレンチ西部SD44 完掘状況（北東から）
第28図 Aトレンチ西部SD44 西壁断面（南東から）
第29図 Aトレンチ東部SD44 東壁断面（南西から）
第30図 SB142 基壇土検出状況（南から）
第31図 SB142 基壇土検出状況（北から）
第32図 SB142 東壁版築土（南西から）
第33図 SB142 西壁断面（東から）
第34図 Bトレンチ全景（北東から）
第35図 調査風景（Aトレンチ西部掘削）
第36図 出土遺物実測図（土器1/3・瓦1/4）
第37図 出土遺物写真
第38図 K2-88 調査地位置図
第39図 K2-88 調査地全体図（1/200）
第40図 調査区全景（東から）
第41図 調査区土層断面（南から）
第42図 K2-89 調査地位置図
第43図 K2-89 調査区配置図（1/300）
第44図 調査区平面図および周辺調査状況（1/200）
第45図 SK204J 遺構断面図（1/40）
第46図 調査区土層柱状図
第47図 出土遺物実測図1（1/3）
第48図 出土遺物実測図2（1/3）
第49図 出土遺物実測図3（1/3）
第50図 調査区全景（東から）
第51図 調査区北壁断面（南から）
第52図 SK204J 完掘状況（南から）
第53図 SK204J 遺構断面（北から）
第54図 出土遺物写真1
第55図 出土遺物写真2
第56図 出土遺物写真3
第57図 出土遺物写真4
第58図 K54-13 調査地位置図
第59図 K54-13 調査区平面図（1/200）
第60図 遺物出土状況図（1/40, 1/20）
第61図 Aトレンチ全景（南から）
第62図 Bトレンチ全景（西から）
第63図 Cトレンチ全景（南から）
第64図 調査前風景A・B・Cトレンチ（東から）
第65図 調査前風景C・Dトレンチ（北から）
第66図 Aトレンチ石器出土状況（南東から）
第67図 Aトレンチ石器出土状況（東から）
第68図 Aトレンチ拡張部全景（東から）
第69図 Aトレンチ拡張部礫群出土状況（東から）
第70図 Aトレンチ拡張部礫群出土状況（北から）
第71図 出土遺物実測図1（1/2）
第72図 出土遺物実測図2（1/2）
第73図 出土遺物写真1
第74図 出土遺物写真2
第75図 出土遺物写真3
第76図 MKⅠ-670 調査地位置図
第77図 MKⅠ-670 調査区全体図（1/400）
第78図 調査区全景（東から）
第79図 MKⅢ-671 調査地位置図
第80図 MKⅢ-671 調査地全体図（1/200）
第81図 調査地全景（東から）
第82図 調査区土層断面（南から）
第83図 調査区北部（西から）
第84図 調査区西部（西から）
第85図 調査区南部（北から）

第 86 図	MKⅡ－674 調査地位置図	第 110 図	K 21－13 調査地位置図
第 87 図	MKⅡ－674 調査地全体図（1／200）	第 111 図	K 21－13 調査地全体図（1／200）
第 88 図	調査区全景（東から）	第 112 図	調査区南壁断面（北から）
第 89 図	調査区南部（北から）	第 113 図	調査区南壁断面図（1／40）
第 90 図	K 2－90 調査地位置図	第 114 図	調査地から近景を臨む（南から）
第 91 図	K 2－90 調査地全体図（1／200）	第 115 図	調査区近景（北から）
第 92 図	A トレンチ完掘状況（南西から）	第 116 図	東恋ヶ窪 6－23－2 地点調査地位置図
第 93 図	B トレンチ完掘状況（北東から）	第 117 図	東恋ヶ窪 6－23－2 地点調査地全体図 （1／300）
第 94 図	K 8－22 調査地位置図	第 118 図	C トレンチ西部平面図（1／40）
第 95 図	K 8－22 調査地全体図（1／200）	第 119 図	SD 5 北壁断面図（1／20）
第 96 図	K 8－22 調査区土層柱状図	第 120 図	SD 5 検出状況（南から）
第 97 図	SK29J 北壁土層断面図（1／40）	第 121 図	SD 5 完掘状況（南から）
第 98 図	調査地全景（北から）	第 122 図	試掘調査地点と都市計画道路 3・2・8 号線の計画路線調査地点位置図 （1/10,000）
第 99 図	No.2 トレンチ完掘状況（北西から）	第 123 図	A トレンチ全景（西から）
第 100 図	出土遺物実測図（1／3）	第 124 図	B トレンチ全景（西から）
第 101 図	出土遺物写真	第 125 図	C トレンチ全景（東から）
第 102 図	K 20－3 調査地位置図	第 126 図	調査前状況（西から）
第 103 図	K 20－3 調査区土層柱状図	第 127 図	SD 5 A 断面北壁（南から）
第 104 図	調査区全景（西から）	第 128 図	SD 5 B 断面北壁（南から）
第 105 図	遺物出土状況 1（西から）	第 129 図	SD 5 C 断面北壁（南から）
第 106 図	遺物出土状況 2（西から）		
第 107 図	K 20－3 調査地全体図（1／400）		
第 108 図	出土遺物実測図（1／3）		
第 109 図	出土遺物写真		

表 目 次

第 1 表	届出・通知および調査件数	第 8 表	MKⅢ－675 遺物観察表（瓦）
第 2 表	届出・通知の指示内容と割合	第 9 表	K 2－89 遺物観察表（土器）
第 3 表	発掘調査面積の推移	第 10 表	K 2－89 遺物観察表（石器）
第 4 表	平成 23 年度届出・通知一覧	第 11 表	K 54－13 遺物観察表（石器）
第 5 表	MKⅢ－673 遺物観察表（土器）	第 12 表	K 8－22 遺物観察表（土器）
第 6 表	MKⅢ－673 遺物観察表（瓦）	第 13 表	K 20－3 遺物観察表（土器）
第 7 表	MKⅢ－675 遺物観察表（土器）	第 14 表	K 20－3 遺物観察表（石器）

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境として、地形的に北と南に分けられています。国分寺崖線は、古多摩川が武蔵野台地を10万年以上の歳月をかけて削り取って形成された河岸段丘の連なりを指し、東西の長さは約30kmにわたります。北と南の標高差（崖高）は10～20mをはかります。崖面には樹林や湧水などの豊かな自然環境が見られ、この崖線上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼んでいます。立川段丘は約4～5万年前に形成されましたが、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷のようにいくつもの溺れ谷が残っているため、崖線下から湧く水はこれらの谷を通して集まり野川となります。

こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、野川を中心に市内には人類が日本列島に住み始めた旧石器時代以来の生活痕跡が多く残されています。そして、奈良時代には、市名の由来となった武蔵国分寺が国分寺崖線を背にして建立されました。

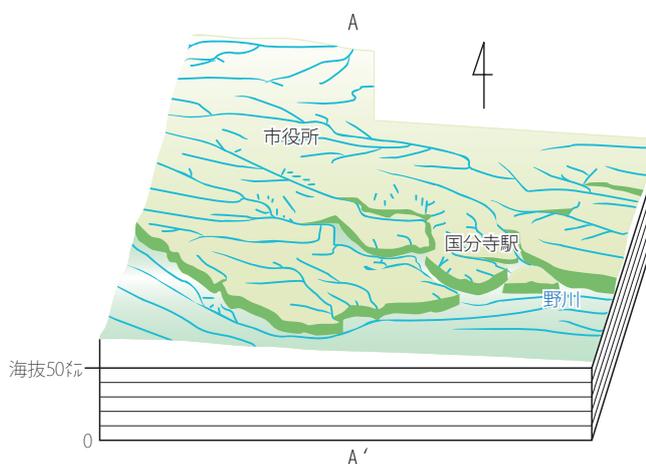
先人がこの地域に残した遺構や遺物（埋蔵文化財）を保存・活用し、現在を生きる私たちの文化的向上に役立てていくことは大切なことです。「文化財保護法」（以下「法」という）では、国や地方公共団体に対し、遺跡である「埋蔵文化財を包蔵する土地」（以下「包蔵地」という）を的確に把握し、周知の徹底に努めるように求めています（法第95条第1項）^{*1}。

国分寺市では、現在58か所の包蔵地が確認されています。そのうち、武蔵国分寺跡の中核部周辺と、東山道武蔵路跡の一部については、国の史跡に指定されています。

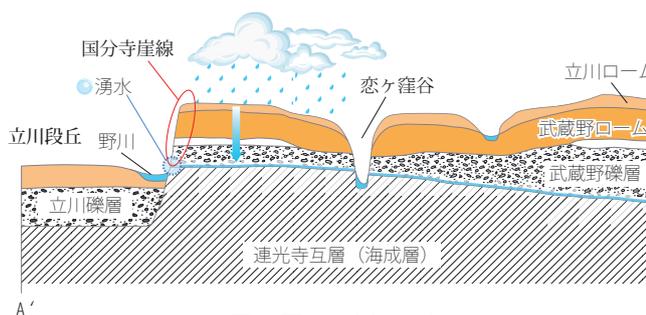
包蔵地の範囲内で土木工事を行う場合には、埋蔵文化財保護の観点から、法に基づいて、着手しようとする日の60日前までに届出（法第93条第1項）^{*2}、もしくは通知（法第94条第1項）^{*3}を行う必要があります。

届出（通知）は国分寺市教育委員会を通して東京都教育委員会に進達され、工事が埋蔵文化財に与える影響を考慮して必要な措置が都から届出者に対して指示されます。

市内では、地表からおよそ40～100cm下に遺構が眠っており、工事がこれより深い場合は埋蔵文化財の保存に影響が及ぶ可能性があります。その影響が軽微な場合には、市職員の立会のもとに工事を行います（立会調査）。埋蔵文化財が壊される



第1図 国分寺市の地形模式図



第2図 国分寺崖線と湧水

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

可能性があると判断される場合、遺跡の状況を探る確認調査を行い、その結果、事業者と協議の上でやむを得ず開発により遺跡を壊すことになった場合には、事前に記録保存調査を行います（本調査・事前調査）。その費用については原因者に負担をお願いしています。

国指定史跡（武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡）内で工事などによって現状を変更する場合については、文化庁長官の許可を受けなければなりません（法第125条）^{※4}。また、同工事によって地下を掘削する場合は、さらに埋蔵文化財発掘の届出もしくは通知の提出が必要となります。

※文化財保護法抜粋（昭和25年5月30日法律第214号・最終改正 平成23年5月2日法律第37号）

※1（埋蔵文化財包蔵地の周知）第95条第1項

国及び地方公共団体は、周知の埋蔵文化財包蔵地について、資料の整備その他その周知の徹底を図るために必要な措置の実施に努めなければならない。

※2（土木工事等のための発掘に関する届出及び指示）第93条第1項

土木工事その他埋蔵文化財の調査以外の目的で、貝塚、古墳その他の埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地（以下「周知の埋蔵文化財包蔵地」という。）を発掘しようとする場合には、前条第1項の規定を準用する。この場合において、同項中「30日前」とあるのは、「60日前」と読み替えるものとする。

（調査のための発掘に関する届出、指示及び命令）第92条第1項

土地に埋蔵されている文化財（以下「埋蔵文化財」という。）について、その調査のため土地を発掘しようとする者は、文部科学省の定める事項を記載した書面をもって、発掘に着手しようとする日の30日前までに文化庁長官に届け出なければならない。

※3（国の機関等が行う発掘に関する特例）法第94条第1項

国の機関（中略）が、前条第1項に規定する目的で周知の埋蔵文化財包蔵地を発掘しようとする場合においては、同条の規定を適用しないものとし、当該国の機関等は、当該発掘に係る事業計画の策定に当たって、あらかじめ、文化庁長官にその旨を通知しなければならない。

※4（現状変更等の制限及び原状回復の命令）第125条

史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置（中略）、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。

第1表 届出・通知および調査件数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
93条	163	141	152	151	146
94条	22	27	20	38	42
125条	12	5	5	4	2
計	197	173	177	193	190
調査	18	19	15	22	20

※平成23年度届出・通知のうち93条1件は事業中止、94条1件は事業延期

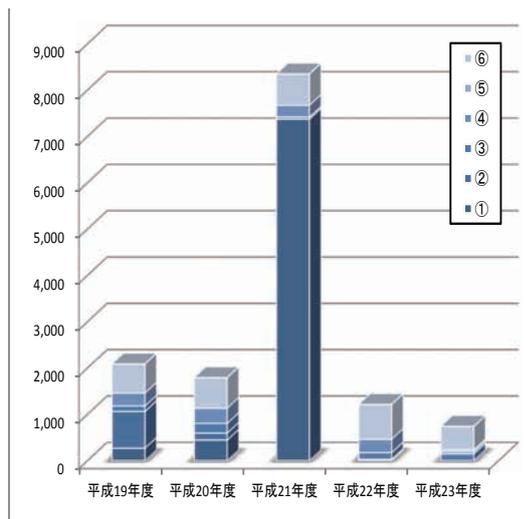
第2表 届出・通知の指示内容と割合

指示内容内訳	件数	割合
事前調査	5	3%
確認調査	6	3%
立会調査	175	94%
慎重工事	0	0%

埋蔵文化財の届出（通知）は、平成18・19年度の約190件を境に、ここ3年ほどはおおむね年間約170件で推移してきました。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災を受け、年度下半期にライフラインの点検整備や住宅等の開発が例年より多く計画されたことにより、平成23年度は186件の提出がありました。なお、史跡の現状変更許可申請書（法第125条）は、いずれも国分寺市教育委員会が史跡内の事前遺構確認調査や整備工事として申請したものです。

第3表 発掘調査面積の推移

			平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
土木工事等に伴う調査	事業者負担による調査	①民間企業	271	445	7374	28	0
		②公共機関	792	153	0	0	0
	補助金による調査	③事前調査	121	208	46	146	146
		④確認調査	276	328	254	290	50
		⑤試掘調査	0	0	0	0	40
学術的調査	⑥遺構確認調査	629	659	676	749	505	



第5図 発掘調査面積の推移

平成21年度を除き、平成15年度より調査面積の減少傾向は続いています。同時に開発工事による発掘調査件数も減少しており、特に平成23年度は11件と近年で最も少なく、民間の大型開発に伴う発掘調査はありませんでした。これは震災の影響による上半期の調査件数が大きく関係しているとみられます。本書では③・④にあたる国庫補助金支出の調査成果をまとめています。

なお、国分寺市では現在、法第125条の申請に基づき、史跡武蔵国分寺跡（僧寺）の規模や配置、構造を追究し、歴史公園整備のために事前遺構確認調査や工事を進めています。

また、こうした文化財を保護し、後世に伝えていくために発掘調査以外にも、文化財の調査成果の公開、普及活動など様々な事業を行っています。発掘調査によって出土した土器や瓦は、武蔵国分寺跡資料館や文化財資料展示室（市立第四中学校内）、国分寺駅に隣接する駅ビルのショーウインドウ（8階）などで展示を行っています。また、市で刊行した報告書や普及書は、武蔵国分寺跡資料館や市立図書館、市役所オープナー等で閲覧することができます。



第3図 調査風景（インターン実習）



第4図 普及活動風景（拓本教室）

第4表 平成23年度届出・通知一覧

No.	年月日	条	申請地	申請工事内容	指示内容	調査回数
1	H23.4.6	93条	西恋ヶ窪 1-25-40	個人住宅	事前調査	K 2-88
2	H23.4.8	93条	南町 2-284-66	集合住宅・店舗・事務所	確認調査	K 21-13
3	H23.4.11	94条	西恋ヶ窪 1-28-15	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
4	H23.4.20	94条	東元町 3-16	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
5	H23.4.21	93条	南町 2-10-15	ガス・水道・電気等（支線新設）	立会調査	
6	H23.4.25	93条	東元町 3-16	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
7	H23.4.26	93条	西元町 3-28-15	集合住宅	立会調査	
8	H23.4.22	93条	西元町 3-28-15	個人住宅	立会調査	
9	H23.4.20	93条	西恋ヶ窪 1-17-16	個人住宅	立会調査	
10	H23.4.20	93条	東元町 3-16	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
11	H23.4.15	93条	西恋ヶ窪 1-49-7	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
12	H23.4.21	94条	南町 2-5	ガス・水道・電気等（消火栓設置）	立会調査	
13	H23.4.15	93条	西元町 3-2160-14	分譲住宅	立会調査	
14	H23.5.11	93条	泉町 1-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
15	H23.5.9	93条	南町 3-27-5	集合住宅	立会調査	
16	H23.5.12	94条	西元町 2-11-43 先	電話（支柱撤去）	立会調査	
17	H23.5.13	93条	東元町 3-1-1	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
18	H23.5.17	93条	南町 3-27-5	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
19	H23.5.20	94条	西元町 2-15-36	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
20	H23.5.24	93条	光町 1-1-57	個人住宅	立会調査	
21	H23.5.18	93条	泉町 1-8-12	個人住宅	立会調査	
22	H23.5.19	93条	西恋ヶ窪 1-13	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
23	H23.5.19	93条	光町 1-1-12	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
24	H23.5.31	93条	西元町 3-1-2	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
25	H23.6.2	93条	西元町 3-28-2	ガス・水道・電気等（電柱）	立会調査	
26	H23.6.2	93条	東元町 3-20-41	ガス・水道・電気等（電柱）	立会調査	
27	H23.6.14	93条	西元町 3-3-31	ガス・水道・電気等（ガス）	立会調査	
28	H23.5.20	93条	西元町 2-15-36 付近	ガス・水道・電気等	立会調査	
29	H23.6.16	94条	西元町 3-10-7	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
30	H23.6.17	93条	西元町 2-7	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
31	H23.6.8	93条	西元町 4-6-9	集合住宅	確認調査	MKⅢ -671
32	H23.6.20	94条	西恋ヶ窪 1-25-40	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
33	H23.6.30	93条	南町 3-26-24	ガス・水道・電気等（水道）	立会調査	
34	H23.6.30	94条	光町 1-1-57	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
35	H23.7.7	93条	東恋ヶ窪 1-250	店舗	立会調査	
36	H23.7.12	93条	南町 3-26-25	電話	立会調査	
37	H23.7.12	93条	南町 2-370-13・14・15, 372-6・7・8・9	集合住宅・店舗・事務所・ガス水道電気等	立会調査	
38	H23.7.14	94条	西元町 3-2160-7	ガス・水道・電気等（下水道）	立会調査	
39	H23.7.27	94条	日吉町 2-9	電話	立会調査	
40	H23.8.1	93条	東元町 3-1400-6	集合住宅	立会調査	
41	H23.8.1	93条	西恋ヶ窪 1-13-12	ガス・水道・電気等	立会調査	
42	H23.7.13	93条	南町 2-9-13	ガス・水道・電気等	立会調査	
43	H23.8.3	93条	泉町 1-14-3	ガス・水道・電気等	立会調査	
44	H23.7.20	93条	東元町 3-5-9	ガス・水道・電気等	立会調査	
45	H23.8.4	93条	西恋ヶ窪 1-13-12	分譲住宅	立会調査	

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

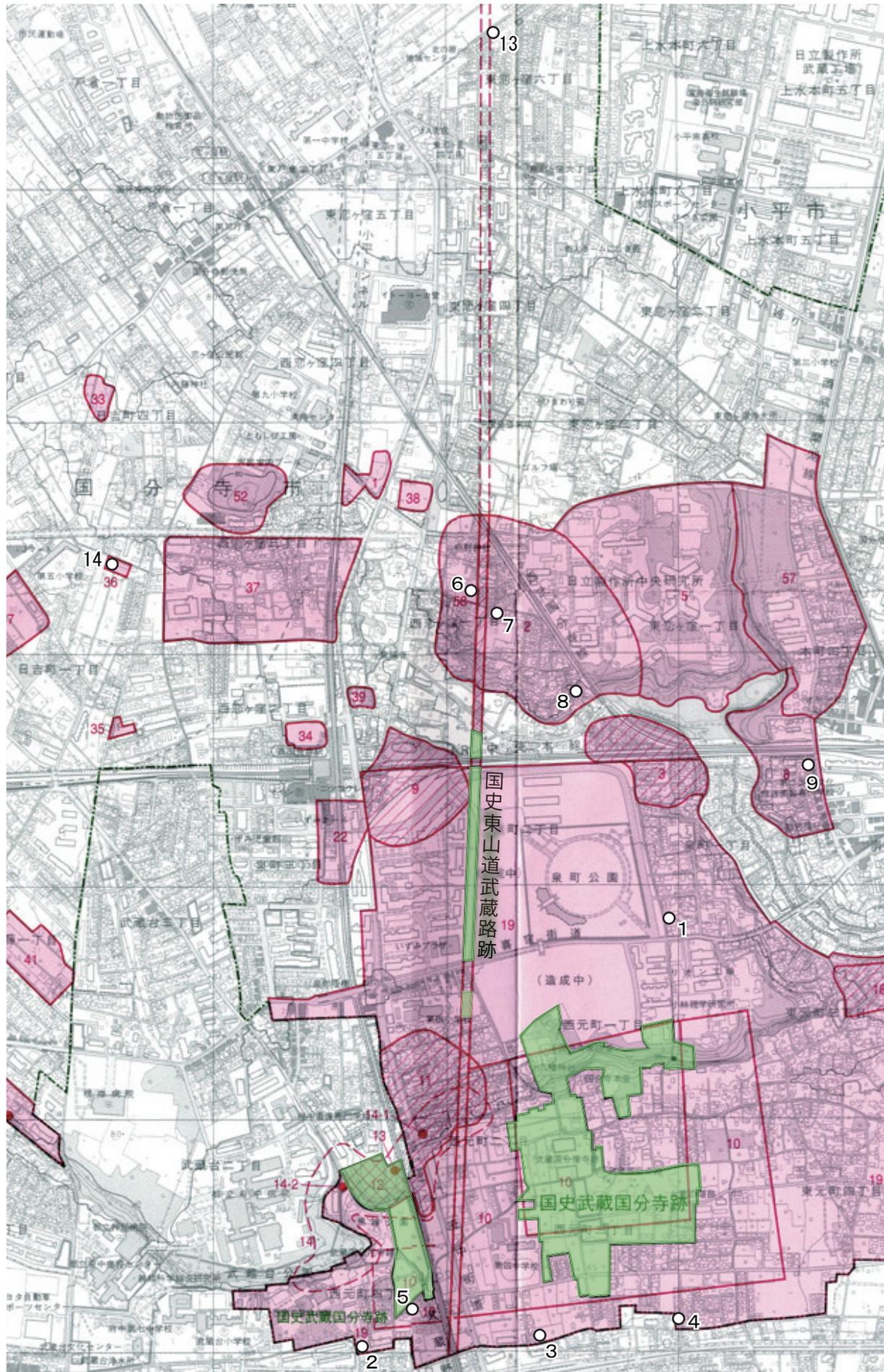
46	H23. 8. 12	93 条	西恋ヶ窪 1-18-6	個人住宅	事前調査	K 2-89
47	H23. 8. 11	94 条	光町 1-1-59	ガス・水道・電気等	立会調査	
48	H23. 8. 12	94 条	西恋ヶ窪 3-3-19 他	ガス・水道・電気等	立会調査	
49	H23. 8. 12	93 条	光町 1-1-59	ガス・水道・電気等	立会調査	
50	H23. 8. 22	93 条	東恋ヶ窪 2-1・6	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
51	H23. 8. 22	93 条	西元町 4-9-5	個人住宅	立会調査	
52	H23. 8. 22	93 条	光町 1-5-2	学校建設	立会調査	
53	H23. 8. 22	94 条	泉町 1-9-17	ガス・水道・電気等	立会調査	
54	H23. 8. 30	93 条	西恋ヶ窪 1-12-24	分譲住宅	確認調査	K 2-90
55	H23. 9. 1	94 条	東恋ヶ窪 2-1 付近	道路	立会調査	
56	H23. 9. 1	93 条	西恋ヶ窪 1-13-12	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
57	H23. 7. 28	94 条	西恋ヶ窪 1-11-25	個人住宅	立会調査	
58	H23. 9. 2	94 条	南町 2-8-9	ガス・水道・電気等 (下水道)	立会調査	
59	H23. 9. 5	93 条	光町 1-1	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
60	H23. 9. 6	93 条	東元町 2-7-4	個人住宅	立会調査	
61	H23. 9. 12	93 条	東元町 1-38-52	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
62	H23. 9. 15	93 条	東元町 4-13-9	ガス・水道・電気等 (電気)	立会調査	
63	H23. 9. 22	93 条	泉町 1-8-12	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
64	H23. 9. 22	93 条	泉町 1-8-8	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
65	H23. 9. 26	93 条	東元町 3-16-6	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
66	H23. 9. 28	93 条	南町 2-8-9	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
67	H23. 10. 4	93 条	西元町 4-2294-2	地盤改良	立会調査	
68	H23. 10. 4	93 条	東元町 3-5-9	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
69	H23. 10. 4	93 条	泉町 1-10-8	個人住宅	立会調査	
70	H23. 10. 4	93 条	東元町 3-12-16	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
71	H23. 10. 5	94 条	東元町 3-5-9	ガス・水道・電気等 (下水道)	立会調査	
72	H23. 10. 11	94 条	泉町 1-8-8	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
73	H23. 10. 12	94 条	西恋ヶ窪 3-29-19	個人住宅	立会調査	
74	H23. 10. 18	94 条	泉町 1-18-8	ガス・水道・電気等 (下水道)	立会調査	
75	H23. 10. 18	94 条	南町 3-26-4	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
76	H23. 10. 18	93 条	東元町 3-14-4	分譲住宅	立会調査	
77	H23. 10. 18	93 条	南町 3-26	L 形設置	立会調査	
78	H23. 10. 18	93 条	西恋ヶ窪 1-5-1 外	宅地造成	立会調査	
79	H23. 10. 19	93 条	南町 3-26	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
80	H23. 10. 19	93 条	南町 3-26	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
81	H23. 10. 28	93 条	東元町 3-6-18	個人住宅	立会調査	
82	H23. 10. 28	93 条	泉町 1-18-19	分譲住宅	立会調査	
83	H23. 10. 28	94 条	西恋ヶ窪 2 丁目他	ガス・水道・電気等 (水道)	立会調査	
84	H23. 10. 28	94 条	南町 3-26	下水道工事	立会調査	
85	H23. 10. 28	94 条	東元町 2-17 先	電柱支線撤去	立会調査	
86	H23. 10. 31	93 条	西元町 3-27-15	接地棒取付	立会調査	
87	H23. 10. 31	93 条	西元町 2-11-10	劣化柱立替	立会調査	
88	H23. 10. 31	93 条	南町 2-18-36	鋼管埋設	立会調査	
89	H23. 11. 1	93 条	光町 1-1-59	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
90	H23. 11. 1	93 条	東元町 3-5-9	ガス・水道・電気等 (ガス)	立会調査	
91	H23. 11. 2	93 条	西恋ヶ窪 3-6-1	個人住宅	立会調査	
92	H23. 11. 7	93 条	本町 2-4-5	ガス・水道・電気等 (劣化柱立替)	立会調査	

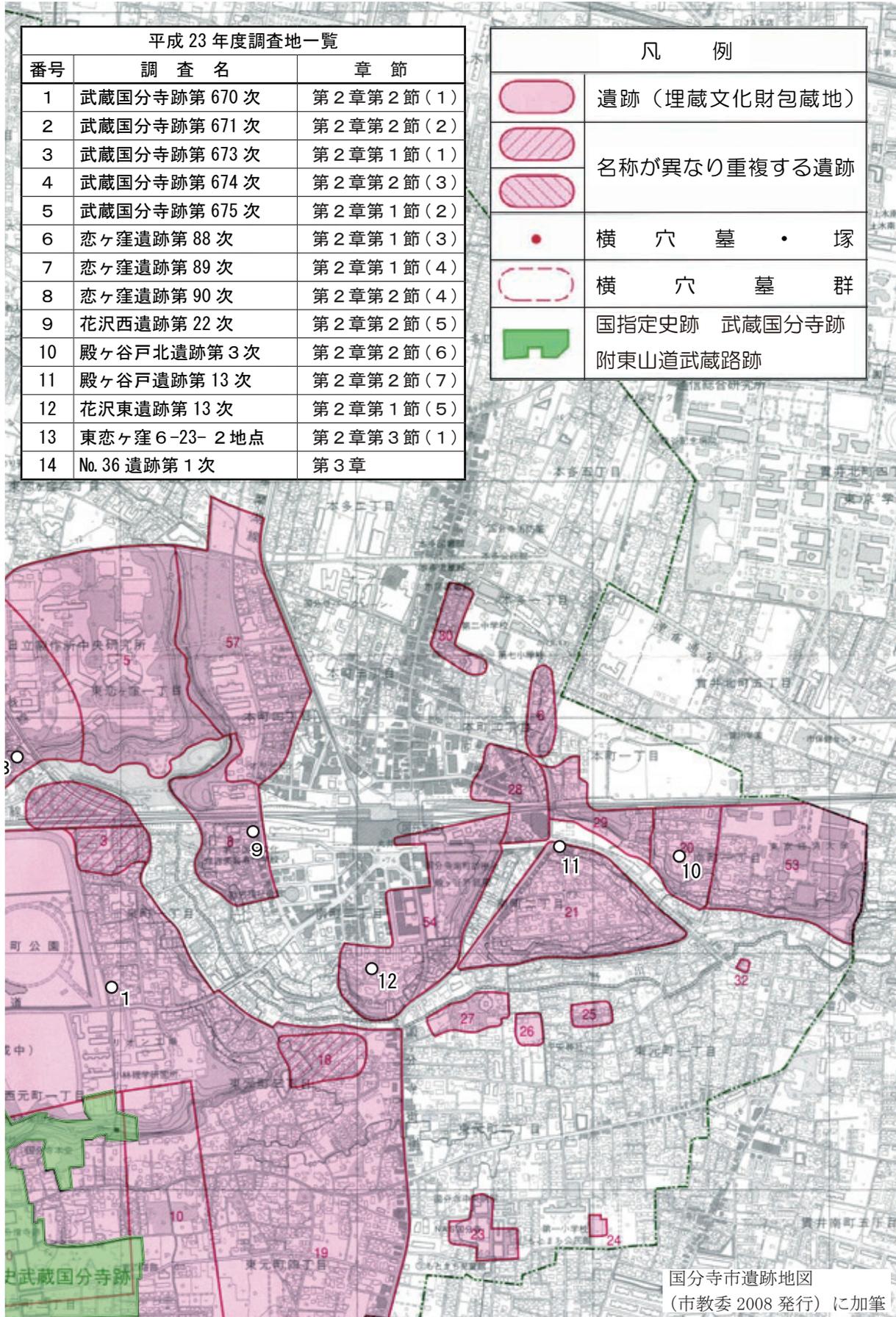
第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

93	H23.11.7	93条	西元町3-8	ガス・水道・電気等(劣化柱立替)	立会調査	
94	H23.11.7	93条	東元町2-12-16	ガス・水道・電気等(本柱新設撤去,支線撤去)	立会調査	
95	H23.11.8	93条	東元町2-771-2他	ガス・水道・電気等(水道管理設)	立会調査	
96	H23.11.9	93条	東恋ヶ窪1-280	耐震補強工事のための調査	立会調査	
97	H23.11.18	93条	西恋ヶ窪1-25	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
98	H23.11.11	93条	泉町2-13	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
99	H23.11.18	93条	泉町1-19-5	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
100	H23.11.14	93条	東元町3-34-3	集合住宅	立会調査	
101	H23.11.15	94条	泉町1-8-2	雨水浸透ます設置	立会調査	
102	H23.10.25	94条	東元町4-10-14	公共汚水ます設置工事	立会調査	
103	H23.11.24	93条	南町3-28-8	集合住宅	立会調査	
104	H23.11.28	93条	西元町3-12-8	本柱建替	立会調査	
105	H23.11.22	93条	西元町3-5	個人住宅	事前調査	MKⅢ-673
106	H23.11.16	93条	南町3-28-8	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
107	H23.12.1	93条	南町3-2796-1	分譲住宅(2棟)	立会調査	
108	H23.12.1	93条	南町3-2796-1	分譲住宅(1棟)	立会調査	
109	H23.12.1	93条	南町3-2796-9	集合住宅	立会調査	
110	H23.12.5	93条	泉町2-13	ガス・水道・電気等(水道)	立会調査	
111	H23.12.6	94条	西恋ヶ窪1丁目内	公共汚水ます設置工事	立会調査	
112	H23.12.6	94条	西恋ヶ窪1-2-41	公共汚水ます設置工事	立会調査	
113	H23.12.6	94条	西恋ヶ窪3丁目地内	公共汚水ます設置工事	立会調査	
114	H23.12.6	94条	日吉町1-33-2	公共汚水ます設置工事	立会調査	
115	H23.12.2	93条	東元町1-38-48	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
116	H23.12.2	93条	南町3-26-24	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
117	H23.12.9	93条	東元町2-7	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
118	H23.12.9	93条	南町1-12	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
119	H23.12.9	93条	西恋ヶ窪1-5	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
120	H23.12.9	93条	西元町3-1897-8・9・10	分譲住宅(1号棟)	確認調査	MKⅡ-674
121	H23.12.9	93条	西元町3-1897-8・10	分譲住宅(2号棟)	立会調査	
122	H23.12.13	93条	南町3-26-24	公共汚水ます設置工事	立会調査	
123	H23.12.15	94条	西元町1-13-31	消防訓練棟建築	立会調査	
124	H23.12.19	93条	泉町3-2597-1	集合住宅建設	立会調査	
125	H23.12.21	93条	本多1-4-18	個人住宅	立会調査	
126	H23.12.7	93条	南町3-2796-19	分譲住宅A棟	立会調査	
127	H23.12.7	93条	南町3-2796-20	分譲住宅B棟	立会調査	
128	H23.12.7	93条	南町3-2796-20	分譲住宅C棟	立会調査	
129	H23.12.7	93条	南町3-2796-20	分譲住宅D棟	立会調査	
130	H23.12.26	94条	西元町3-3-3	公共汚水ます設置工事	立会調査	
131	H24.1.5	93条	西恋ヶ窪1-5-1	本柱移設工事	立会調査	
132	H24.1.5	93条	西元町3-26	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
133	H24.1.10	93条	西元町3-3	給水管・公共汚水枳	立会調査	
134	H24.1.6	94条	泉町2-102-9	残存基礎調査	立会調査	
135	H24.1.17	93条	南町1-309-1の一部	宅地造成	確認調査	K20-3
136	H24.1.17	93条	南町3-28-6	集合住宅建設	確認調査	K8-22
137	H24.1.17	93条	西元町4-13804-11・13	個人住宅	事前調査	MKⅢ-675
138	H24.1.17	93条	西恋ヶ窪1-11-25	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
139	H24.1.19	93条	東元町4-2-11	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	

第1章 埋蔵文化財行政のあらまし

140	H24.1.23	93条	南町2-9-6	給水管新設	立会調査	
141	H24.1.19	94条	泉町2-内	公園整備	立会調査	
142	H24.1.25	93条	東元町2-7-4	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
143	H24.1.26	93条	西元町3-15-16	分譲住宅	立会調査	
144	H24.1.26	93条	泉町1-18-19	水道管理設	立会調査	
145	H24.1.20	93条	南町3-2681-14	個人住宅	事前調査	K 54-13
146	H24.1.27	93条	西恋ヶ窪1-5-1の一部	分譲住宅	立会調査	
147	H24.1.31	94条	西元町2-15-9	ガス・水道・電気等(電柱)	立会調査	
148	H24.2.2	93条	本町1-7-3	コンクリート地際補強工事	立会調査	
149	H24.2.6	93条	東元町4-1713-5	個人住宅	立会調査	
150	H24.2.10	93条	本町4-21	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
151	H24.2.10	93条	西恋ヶ窪3-6-1	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
152	H24.2.10	93条	東元町3-6-18	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
153	H24.2.10	93条	南町2-9-6	個人住宅	立会調査	
154	H24.2.13	93条	南町2-9	個人住宅	立会調査	
155	H24.2.14	94条	泉町1-19-5	公共汚水ます設置工事	立会調査	
156	H24.2.14	94条	東元町3-16-10	公共汚水ます設置工事	立会調査	
157	H24.2.14	93条	本町4-15	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
158	H24.2.14	93条	東元町3-6-13	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
159	H24.2.14	93条	東元町3-12-26	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
160	H24.2.14	93条	西元町1-1	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
161	H24.2.14	93条	東元町3-11	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
162	H24.2.14	93条	本町1-3他	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
163	H24.2.17	93条	西元町3-5	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
164	H24.2.17	93条	西恋ヶ窪1-26-3他	会館	立会調査	
165	H24.2.20	93条	泉町1-18-14	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
166	H24.2.20	93条	泉町1-5-21	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
167	H24.2.20	93条	泉町3-2	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
168	H24.2.20	93条	東元町3-16-10	造成・給排水	立会調査	
169	H24.2.22	93条	南町3-26	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
170	H24.2.22	94条	西恋ヶ窪1-20-31	雨水浸透ます設置	立会調査	
171	H24.2.22	94条	西恋ヶ窪3-15-3	雨水浸透ます設置	立会調査	
172	H24.2.22	94条	東元町3-16-10	公共汚水ます設置工事	立会調査	
173	H24.2.24	93条	南町3-30	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
174	H24.2.24	93条	南町3-30	ガス・水道・電気等(水道)	立会調査	
175	H24.3.2	94条	西恋ヶ窪3-3-17	雨水浸透ます設置	立会調査	
176	H24.3.1	93条	西元町3-14-9	個人住宅	立会調査	
177	H24.2.24	93条	東元町4-1793-5	個人住宅	立会調査	
178	H24.3.7	93条	西恋ヶ窪3-29	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
179	H24.3.7	93条	日吉町1-43-65	個人住宅	立会調査	
180	H24.3.7	93条	西元町3-3-47	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
181	H24.3.2	93条	西元町3-8先	電気(ケーブルテレビ)	立会調査	
182	H24.3.9	93条	西元町3-16	ガス・水道・電気等(ガス)	立会調査	
183	H24.3.16	93条	南町2-284-66	集合住宅	立会調査	
184	H24.3.16	93条	本町4-23-4	個人住宅	立会調査	
185	H24.3.16	93条	西恋ヶ窪3-9-10	個人住宅	立会調査	
186	H24.3.21	93条	西元町2-18-10	倉庫	立会調査	





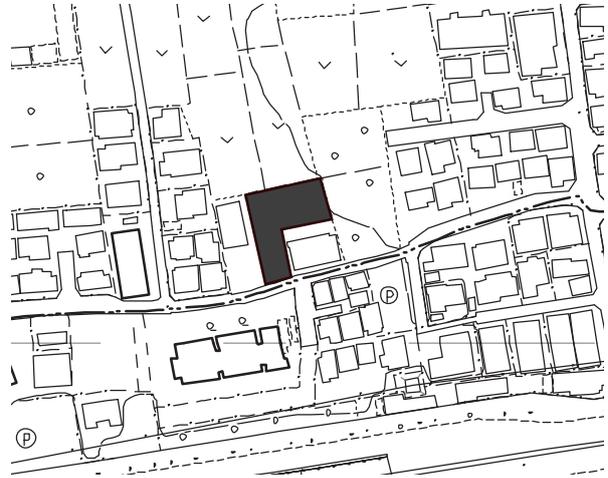
第 6 図 平成 23 年度調査地位置図

第2章 平成23年度に実施した発掘調査

第1節 本発掘調査（個人宅造）

(1) 武蔵国分寺跡第673次

所在地	国分寺市西元町3-2186-2		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成23年12月2日～12月8日		
調査面積	25.15 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SK3430～3432, P-1～4		
主な遺物	土器・瓦・白磁		
調査員	小野本・依田		



第7図 MKⅢ-673 調査地位置図

調査地は武蔵国分寺跡の中心から南西に約380mに位置し、奈良・平安時代の遺構が分布する武蔵国分寺跡（No.19）に該当する。南側の道路を挟んで府中市と隣接し、現況標高は約65.5mを測り、立川段丘面に立地する。

周辺の既往調査は、隣接地の調査例はないものの、調査地の西・北西・北東で多く調査されている。調査地の西約50mに位置する第347次調査地点では、竪穴建物とともに、掘立柱建物が確認されている（1990年・未報告）。北東約50mの第488次調査においても、竪穴建物等が確認されている（1999年・未報告）。

また、府中市万作の木公園（府中市栄町三丁目）では、武蔵国分僧寺中枢部方向と武蔵国分尼寺方向に分かれる参道口にあたる道路跡と門柱状遺構が検出されており（府中市教育委員会・府中市遺跡調査会2009『武蔵国分寺跡調査報告6』）、今次調査地の南西約100mには、参道口から尼寺方向へと続く道路状遺構が確認されている。市内においては、調査地の東約80mに位置する第447次調査地点で僧寺中枢部方向へと続く道路状遺構や竪穴建物が確認されている（1997年・未報告）。

以上の状況から、当該地においても遺構の検出が予測されることから、地中鋼管杭の打ち込みによって遺構に影響が及ぶ可能性のある範囲を対象に、その一部について確認調査を行った。

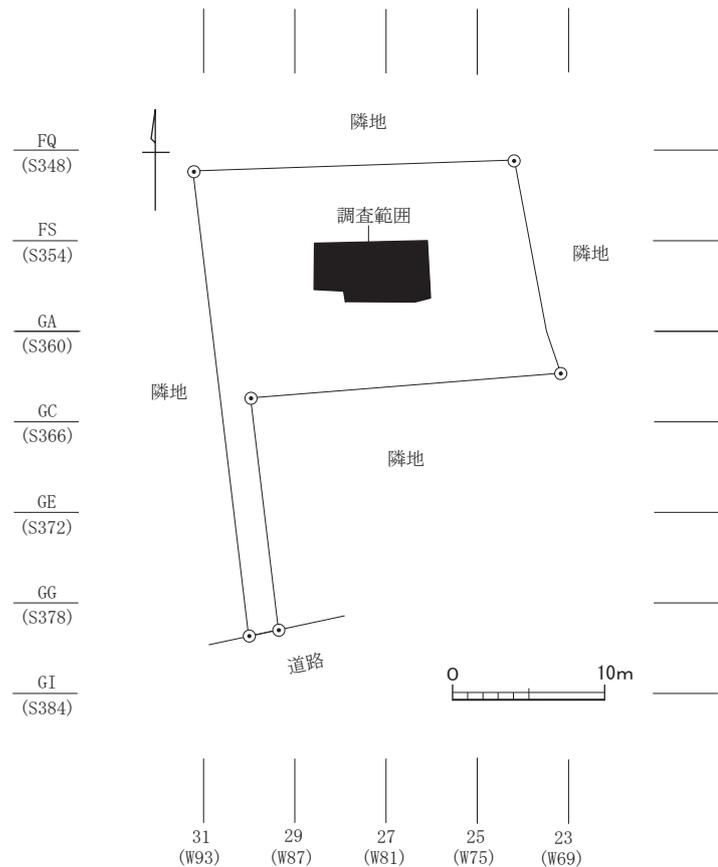
調査区内は、盛土部分を除き地表面から約55cmの深さで地山Ⅲb層が遺存しており、その面で奈良・平安時代の遺構確認を行ったところ、土坑3基（SK3430～3432）、小穴4基（P-1～P-4）を検出した。

SK3432は長辺1.45m、短辺0.9m、深さ55cmで平面形は隅円方形を呈する。SK3431も現存長で長辺1.1m、短辺1.3mを測り、一部が調査区外にかかる。両者は重なって検出されたため、その切り合い関係を確認するために断ち割りを行ったところ、SK3432の方が古く、調査区外へと続くSK3431が新しいものであることが判明した。この両者はほぼ同規模の土坑で

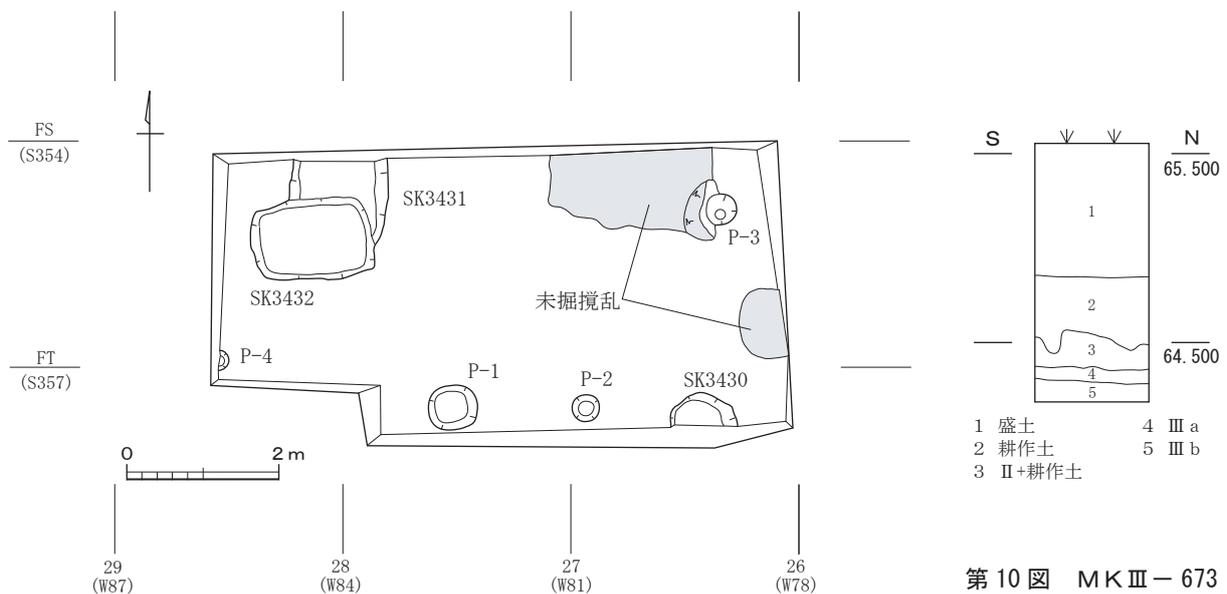
あると考えられる。SK3431 と SK3432 の覆土はⅡ層である黒色土が主体であった。SK3432 の覆土からは比較的多くの土器・瓦片が出土しており、特に国分寺市域では類例の少ない白磁碗の出土が注目される。

小穴 4 基のうち P-2 と P-3 は規模が類似しており、柵列等の可能性が指摘できる。P-1 は深さが非常に浅かったが、上面から女瓦が 1 点出土している。

調査は小規模面積ながら、既往調査の遺構検出密度と変わらない 7 基の遺構を検出したことは、今後周辺遺構の性格を知る上で貴重な情報の一つとなった。



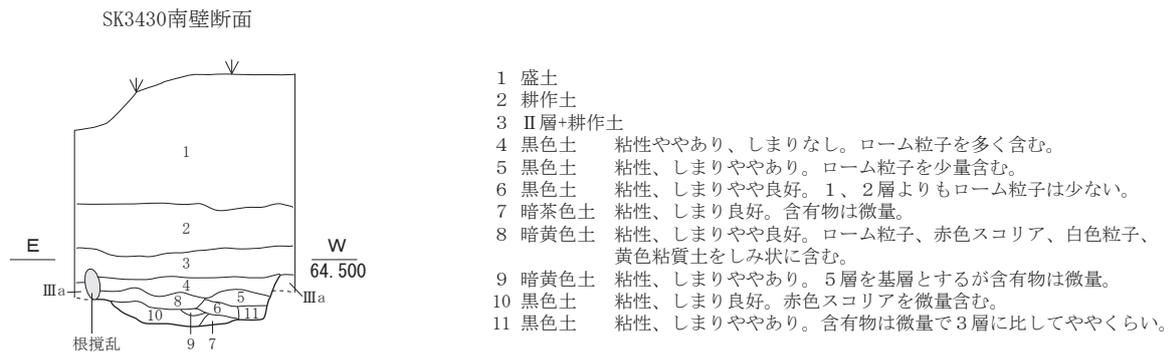
第 8 図 MKⅢ-673 調査区配置図 (1 / 500)



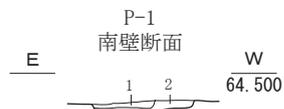
第 9 図 MKⅢ-673 調査区平面図 (1 / 100)

第 10 図 MKⅢ-673 調査区土層柱状図

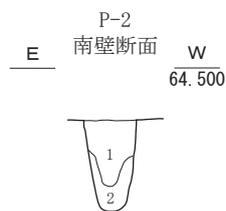
第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）



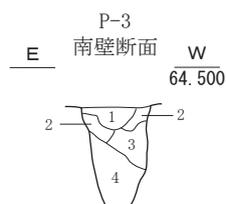
- SK3431
- ① 黒色土 粘性なし、しまりややあり。ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。
 - ② 黄色土 粘性なし、しまり良好。ロームの埋土。



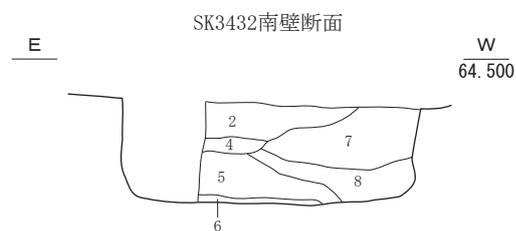
- 1 黒色土 粘性、しまりなし。スコリアを少量含む。
- 2 暗茶色土 粘性、しまりややあり。含有物は微量。



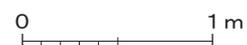
- 1 暗茶色土 粘性、しまりなし。ローム粒子を少量含む。
- 2 暗茶色土 粘性、しまりややあり。黄色粘質土をしみ状に含む。



- 1 黒色土 粘性、しまりなし。赤色スコリアを微量含む。
- 2 黒色土 粘性、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子を少量含む。
- 3 暗黄色土 粘性、しまりなし。黄色粘質土粒子を多く含む。
- 4 暗黄色土 粘性、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子、黄色粘質土粒子を多く含む。



- SK3432
- 1 黒色土 粘性なし、しまりややあり。ロームブロックを多く含む。
 - 2 黒色土 粘性、しまりなし。黄色粘質土ブロックをしみ状に含む。
 - 3 黒色土 粘性、しまりなし。黒色土とロームブロックとの互層。
 - 4 黒色土 粘性、しまりなし。ローム粒子を少量含む。
 - 5 黒色土 粘性なし、しまりややあり。ロームブロックを多く含む。
 - 6 黒色土 粘性、しまりややあり。ローム粒子を多く含む。
 - 7 黒褐色土 2層とほぼ同じ。粘性なし、しまりややあり。φ 2cm大までのロームブロックを非常に多く、焼土粒を極微量含む。
 - 8 黒褐色土 4層とほぼ同じ。粘性なし、しまりややあり。φ 1cm大までのロームブロックを少量含む。



第11図 遺構断面図（1/40）



第 12 図 調査区全景東半 (北から)



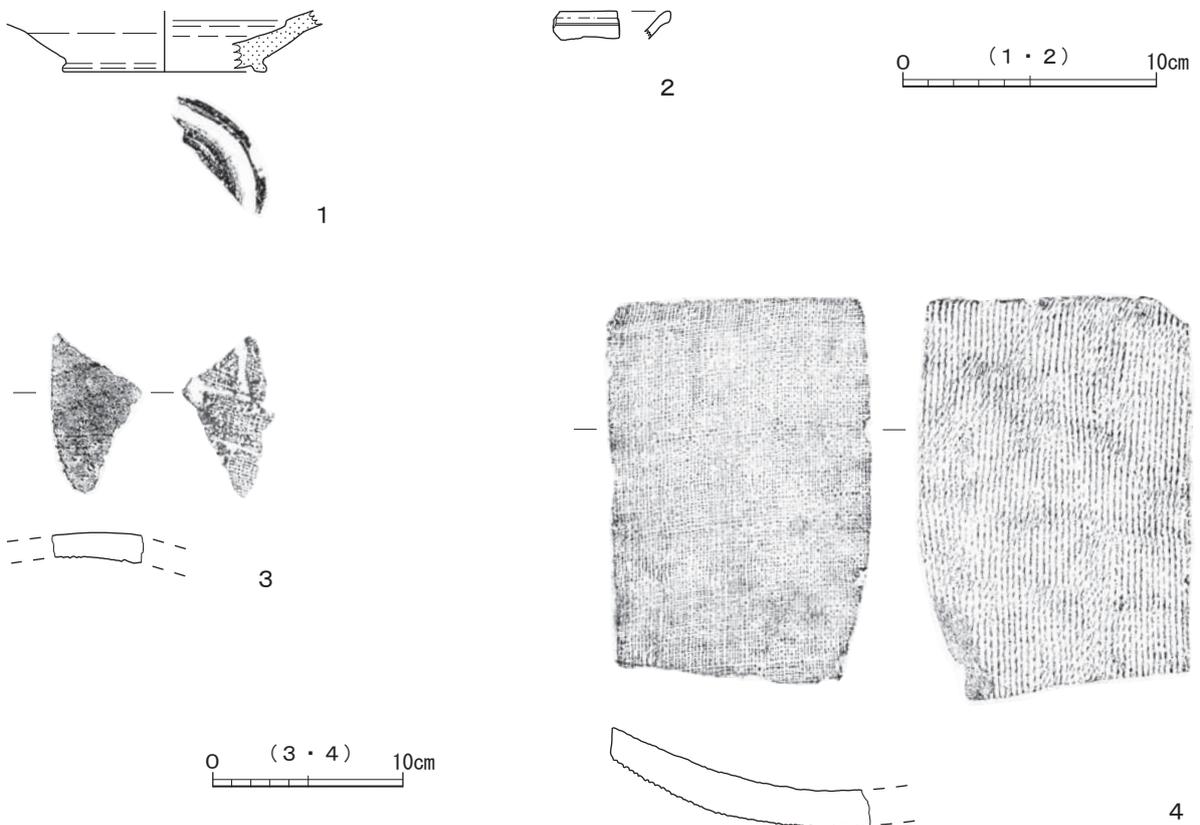
第 13 図 SK3430 南壁 (北から)



第 14 図 SK3431・3432 完掘状況 (南から)



第 15 図 調査風景 (測量調査)



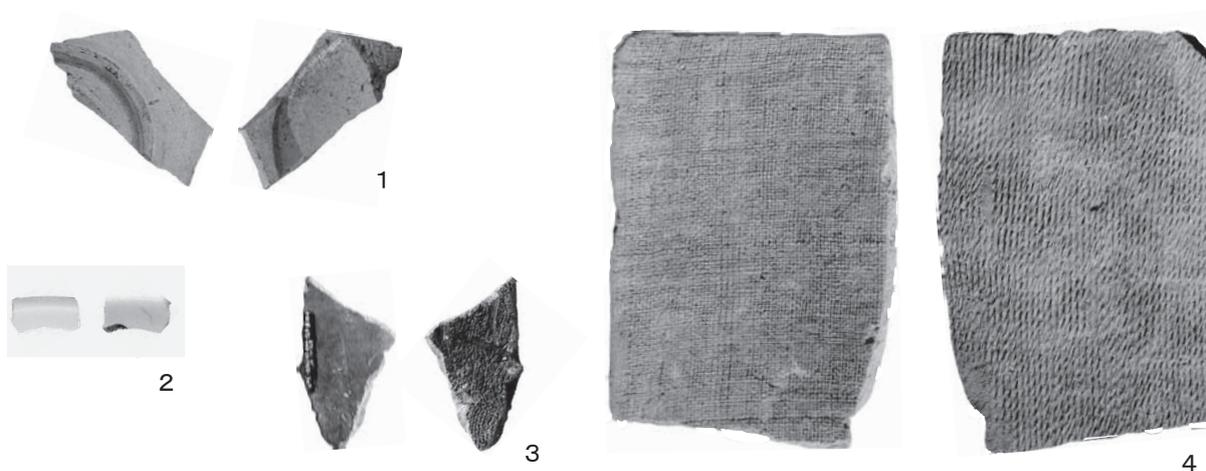
第 16 図 出土遺物実測図 (土器 1 / 3・瓦 1 / 4)

第5表 MKⅢ－673 遺物観察表（土器）

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成形・整形 の特徴	残存量 (部位)	焼成 色調 胎土	備考
第16図1 第17図1	PN01	灰釉 陶器 段皿	SK 3432	— (2.4) ((8.0))	肉厚な胎土で、高台はやや低めの角高台形を呈する。	高台の内側は回転ナデ。見込みには淡緑色の降灰釉が付着。	体部下半 ～底部 1/5	焼成良好。素地の色調は明灰色。砂粒・石英を少量含む。	黒笹14号 窯式 9世紀前半
第16図2 第17図2	PQ01	白磁 碗	SK 3432	— (1.2) —	小さな玉縁口縁を呈し、器壁はやや薄い。	素地は明灰色で緻密だが、空洞あり。	口縁部 小片	釉調は均一で表面は滑らか。乳白色。	大宰府分類 白磁碗Ⅰ類

第6表 MKⅢ－673 遺物観察表（瓦）

図面 図版	遺物 番号	出土 位置	狭端 広端 全長 厚さ	成形・整形の特徴			残存量	焼成 色調 胎土	備考	
				素材 技法	凹面 布目 特徴	凸面 叩き 特徴				端面 特徴
第16図3 第17図3	KC01	SK 3432	— — (8.2) 1.3	不明	縦15 横12	横位調整。		小片	焼成やや良好。色調黒灰色。内側赤褐色。胎土は密。2mm弱の海綿骨針含む。	凹面に不明へラ書きあり。南比企窯跡群産か。
第16図4 第17図4	KD01	P-1	(13.3) — (21.5) 2.0	粘土紐か一枚作り	縦17 横18 凹面側縁へラケズリ。端縁無調整。	縄目L10本縦位の縄タタキ。	側面・端面ともにへラケズリ	2/3	焼成良好。色調灰色。胎土砂質。	南多摩窯跡群産か。



第17図 出土遺物写真

(2) 武蔵国分寺跡（尼寺）第 675 次

所在地	国分寺市西元町 4-13804-11・13		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成 24 年 3 月 6 日～3 月 23 日		
調査面積	41.51 m ²	遺物箱数	2 箱
検出遺構	SB142・SD44		
主な遺物	須恵器・土師器・瓦		
調査員	中道・小野本		

調査地は、武蔵国分寺跡（No. 10・19）の尼寺伽藍地内に該当し、中門跡（SB142）や中枢部を区画する掘立柱塀（SA19）・南辺溝（SD44）などが位置する地点である。

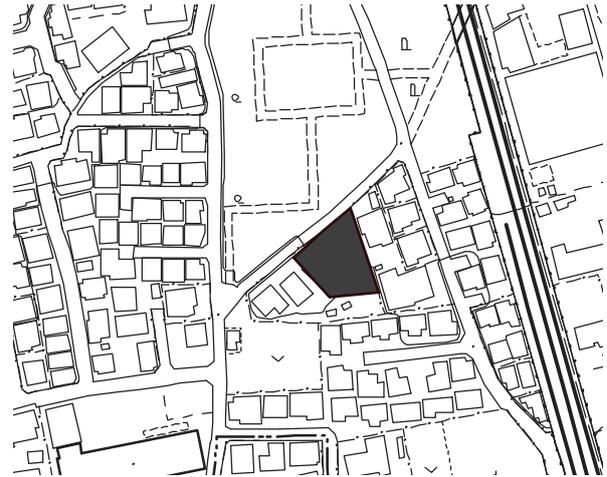
中門跡の北西部分は、国史跡に指定された公有地で、史跡環境整備事業に伴って発掘調査されている（国分寺市教育委員会 1995『武蔵国分尼寺Ⅱ 平成 5 年度発掘調査概報』）、現在では金堂・尼坊跡などとともに市立歴史公園として平成 15 年度より開園している。この公園と本調査地の間にある市道では、公共下水敷設に伴って調査が行われており（第 143 次調査）、すでに『武蔵国分寺跡発掘調査概報 X X I』にて市教委が 1996 年に報告をしている。

届出は、文化財保護法第 93 条第 1 項に基づき、平成 24 年 1 月 16 日付で土地所有者より市教委に提出された。これを受けて平成 24 年 1 月 17 日付 国教教ふ収第 745 号にて、市の意見を「事前調査（1）工事等により埋蔵文化財が掘削されるため。」と決定し、協議代理人への連絡を行った。平成 24 年 1 月 20 日に、市教委と同代理人との協議が行われ、調査地周辺および調査地の状況を説明し、合意に至った。また、同日上記について東京都への進達を行った。東京都からは、平成 24 年 1 月 26 日付 24 教地管理第 2562 号で事前の発掘調査の通知があった。

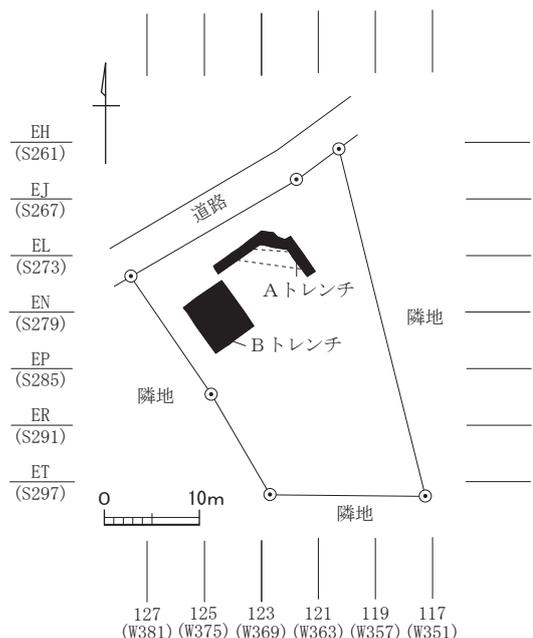
これらの経緯から、平成 24 年 3 月 1 日に市教委が発掘調査の委託を行っている市遺跡調査会に指示し、本発掘調査を行ったものである。

調査や以下に述べる現地保存にあたっては、土地所有者のご理解とご協力をいただき、施工業者とも調整を行いながら進めた。調査区は、計画建物や給排水管等によって遺構が損壊する可能性がある範囲に A トレンチ、また、中門中軸線上で、通路状の遺構が発見される可能性がある部分に B トレンチを、植栽を避けてそれぞれ設定した。敷地面積 628.25 m² に対し、調査面積は 41.51 m²、現地調査は平成 24 年 3 月 6 日から 3 月 23 日で、実働 13 日である。

その後、武蔵国分寺跡尼寺の中門基壇の一部（南東隅）が発出されたことから、現地保存にかかる

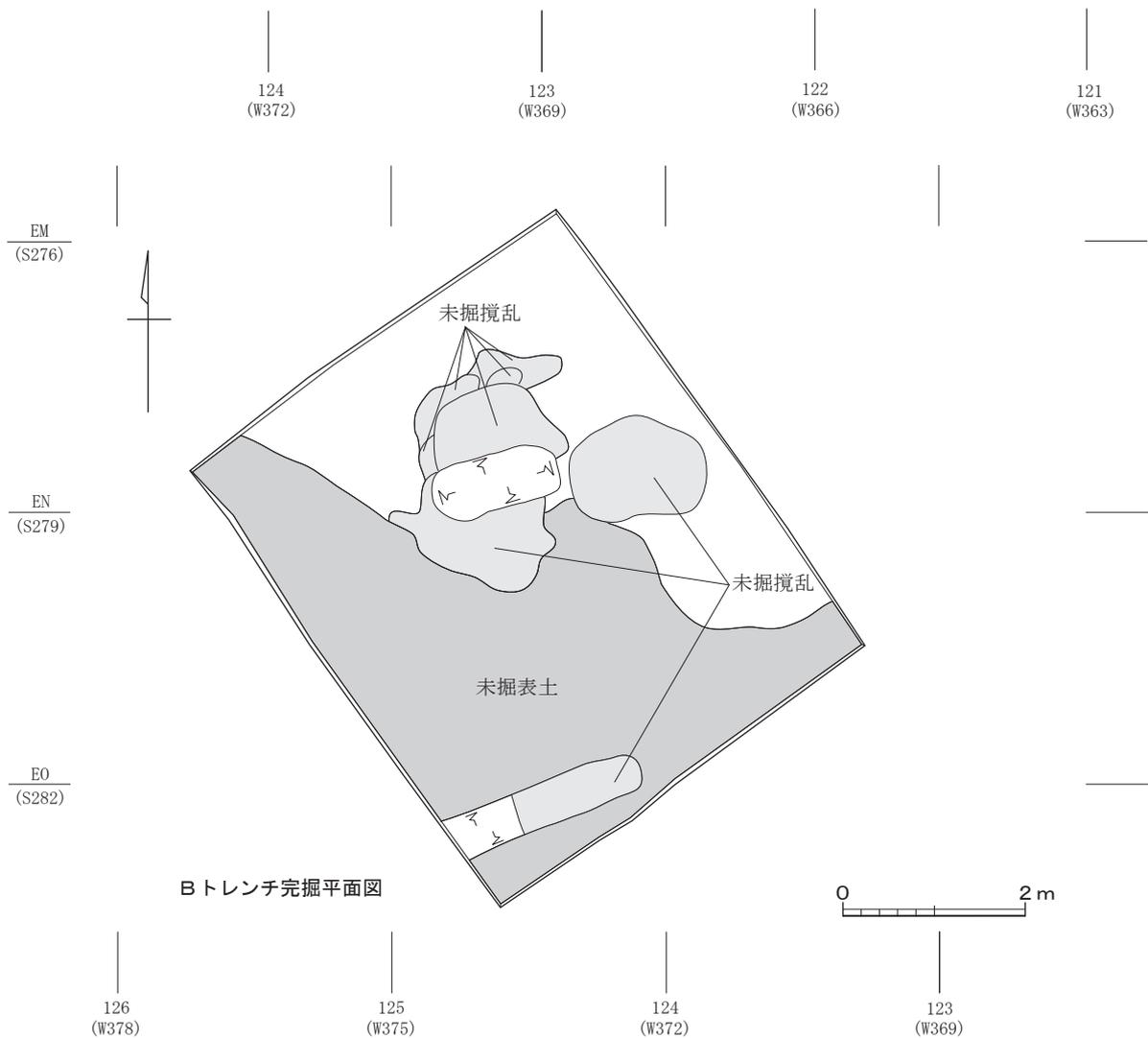
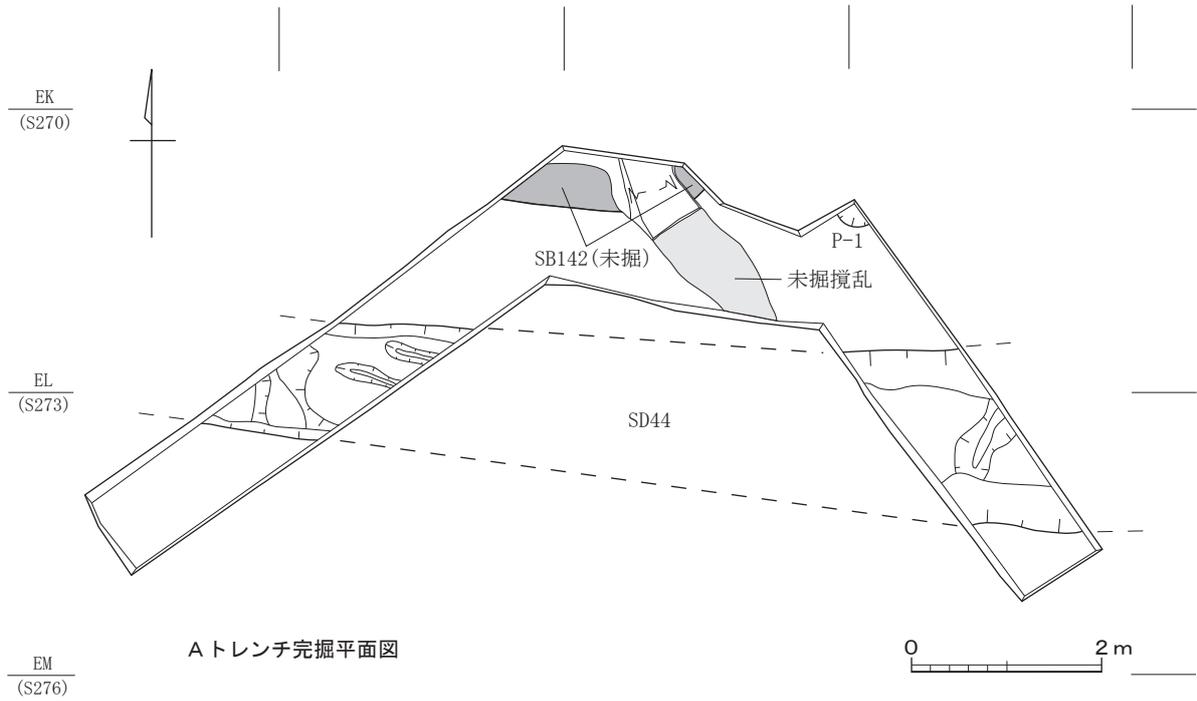


第 18 図 MKⅢ-675 調査地位置図

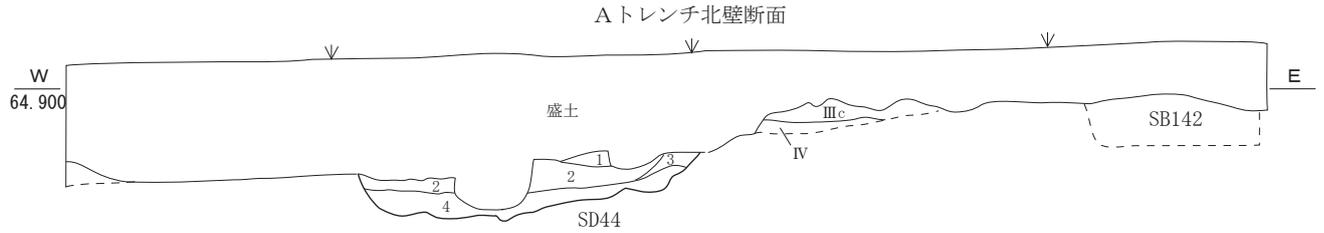


第 19 図 MKⅢ-675 調査区配置図 (1 / 800)

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）

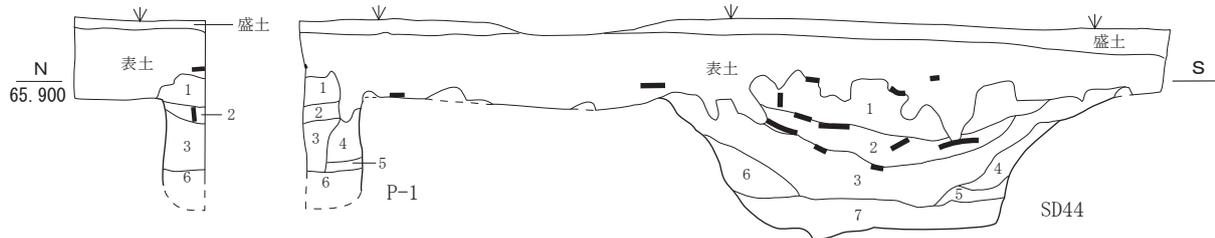


第20図 MKⅢ-675調査区平面図（1/80）



- 1 黒褐色土 黒褐色10YR3/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ロームやや多い。
- 2 黒褐色土 黒褐色10YR3/1、黒色2/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム、ロームブロック0.5cm少量。白色粘土粒微量。
- 3 灰暗褐色土 黒褐色10YR3/2、褐灰色4/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム多い。
- 4 黄褐色土 明黄褐色10YR6/6 しまりあり。すきま少し。粘性あり。ローム土(ロームブロック)からなる。すきまに黒褐色土少量。

Aトレンチ東壁断面



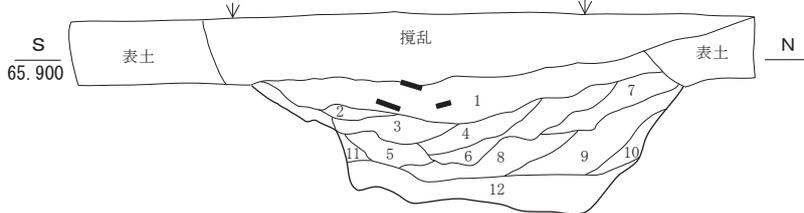
SD44

- 1 黒褐色土 黒褐色10YR3/1、黒色2/1 しまり良い。すきま少し。粘性ややあり。ロームやや多い。ロームブロック0.5~2cm少量。白色粘土粒、炭化粒微量。
- 2 黒褐色土(褐色味) 黒褐色10YR3/2、黒褐色3/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム(微粒子)やや多い。白色粘土粒を微量。瓦多く出土。
- 3 黒褐色土 黒褐色10YR3/1、黒色2/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム少量。ロームブロック0.5cm・白色粘土粒極微量。
- 4 灰暗褐色土(黄味) 黒褐色10YR3/2、灰黄褐色4/2 しまりややあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム多い。ロームブロック0.5cm少量。
- 5 黒褐色土 黒褐色10YR3/1 しまり良い。すきま少し。粘性あり。ロームやや多い。
- 6 暗褐色土 黒褐色10YR3/2、黒褐色3/1 しまりややあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム少量。ロームブロック微量。
- 7 黄褐色土 明黄褐色10YR6/6 しまり硬い。すきま少し。粘性あり。ロームブロック主体。黒褐色土少量すきまに混じる。

P-1

- 1 灰暗褐色土 黒褐色10YR3/2、灰黄褐色4/2、黒褐色3/1 しまりやや硬い。すきま少し。粘性有り。ローム少量。白色粘土粒を微量。灰黄褐色の粘性土まじり。抜穴。
- 2 黒褐色土(褐色味) 黒褐色10YR3/1、黒褐色3/2 しまり良い。すきま少し。粘性ややあり。ローム少量。白色粘土粒微量。ローム、白色粘土粒少量。抜穴。
- 3 黒褐色土(褐色味) 黒褐色10YR3/1、黒褐色3/2 しまり良い。すきま少し。粘性ややあり。抜穴。
- 4 黒褐色土 黒褐色10YR3/1 しまりやや硬い。すきま少し。粘性やや有り。ローム少量。白色粘土粒微量。1~3より密でしめる。埋土。
- 5 暗褐色土 黒褐色10YR3/2 しまりやや良い。すきま少し。粘性やや有り。ローム微量。埋土。
- 6 灰白黄褐色土 灰白色2.5Y8/2、浅黄色Y7/4 しまりやや硬い。すきまわずか。粘性強い。白色粘土まじりの粘性土。

SD44南北断面

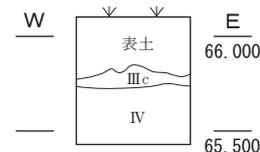
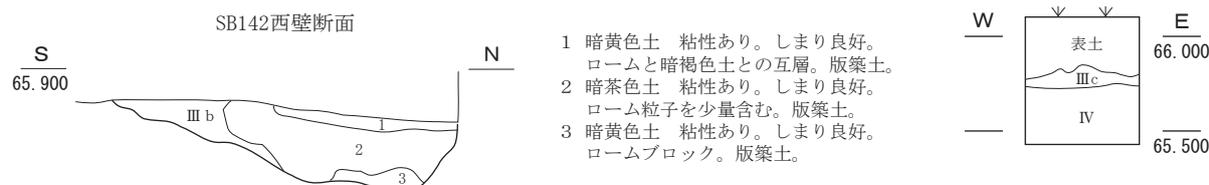


- 1 黒褐色土(褐色味) 黒褐色10YR3/2、黒褐色3/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム(微粒子)やや多い。白色粘土粒を微量。瓦多く出土。
- 2 黒褐色土 黒褐色10YR3/1、黒褐色3/2 しまりややあり。すきま少し。粘性ややあり。ロームやや多い。
- 3 黒褐色土 黒褐色10YR3/1、黒褐色3/2 しまりややあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム少量。白色粘土粒微量。

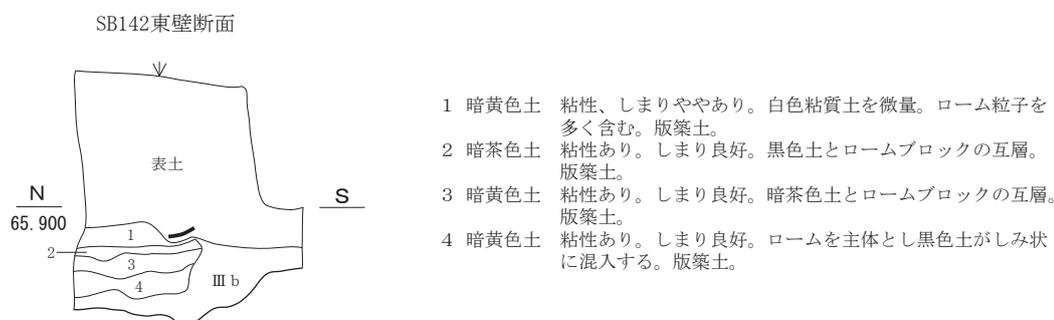
- 4 灰暗褐色土 黒褐色10YR3/2、灰黄褐色4/2 しまりややあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム(微粒)多い。白色粘土粒微量。
- 5 黒褐色土 黒褐色10YR3/1 しまり硬い。すきま少し。粘性ややあり。ローム少量。
- 6 灰黄褐色土 黄褐色2.5Y5/4、黄褐色5/6 しまりあり。すきま少し。粘性あり。ローム、ロームブロック多い。白色粘土粒少量。くすんだ土。ややこなれ硬くない。密ではない。
- 7 暗茶褐色土 黒褐色10YR3/2、暗褐色3/3 しまり良い。すきま少し。粘性あり。ローム、ロームブロック少量。III層(b~c)ブロック含む。
- 8 茶褐色土 黒褐色7.5YR3/1 しまりやや良い。すきま少し。粘性ややあり。ローム多い。ロームブロック0.5cm少量。ガラガラする。
- 9 黒褐色土 黒色10YR2/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム少量。ロームブロック0.5~1cm部分的に入る。白色粘土粒極微量。
- 10 黒褐色土 黒褐色10YR3/2、黒色2/1 しまりあり。すきま少し。粘性ややあり。ローム含む。ロームブロック0.5cm少量。
- 11 黒褐色土 黒褐色10YR3/1 しまりややあり。すきま少し。粘性ややあり。ロームやや多い。
- 12 黄褐色土 明黄褐色10YR6/6 しまり硬い。すきま少し。粘性あり。ロームブロック主体。黒褐色土少量すきまに混じる。

第21図 MK III-675調査区壁断面図(1/40)

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）



第22図 土層柱状図



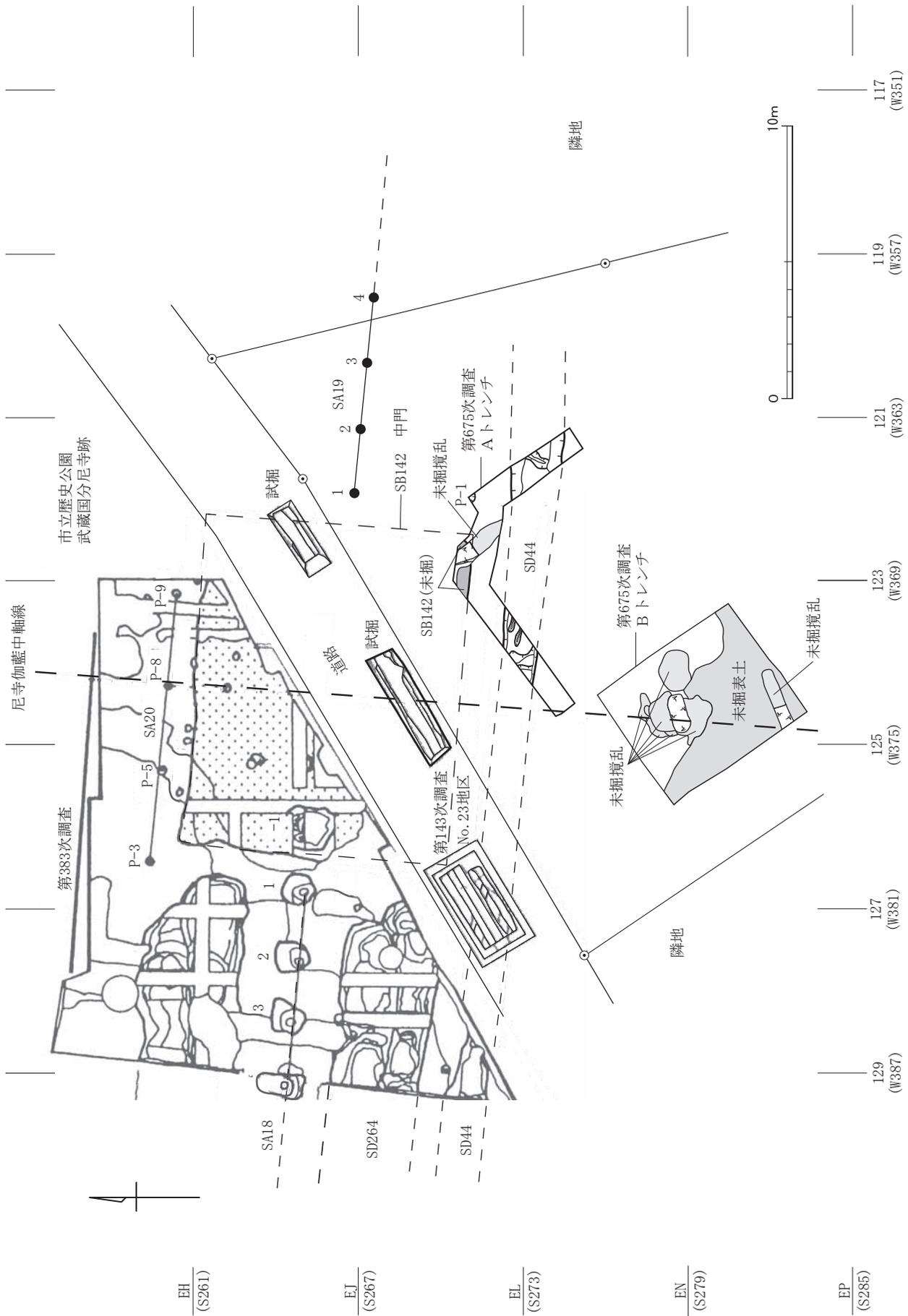
第23図 遺構断面図（1/20）

協議を実施した。平成24年3月13日付事務連絡「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（協議）」にて市教委ふるさと文化財課長より土地所有者2名に対して、工事施工範囲内で尼寺中門基壇の南東隅部分（版築土）が検出されたことから、工事において当該遺構を破壊しないよう配慮して頂くよう依頼した。その結果、事業者のご理解・ご協力を得て設計変更を行い、中門基壇を避けて敷設することとなった。また、給排水管敷設により壊される南辺区画溝（SD44）については、今次の発掘調査で記録保存の措置をとることとなった。なお、発掘調査終了後、保護対象の中門遺構上面にはブルーシートによる養生を施した。

Aトレンチ内では、地表面から30cm～60cmの深さにおいて、IIIc層やIV層が遺存していたことから、その面において遺構確認を行った。その結果、尼寺中門基壇跡（SB142）、溝跡1条（SD44）、小穴1基（P-1）を検出した。

SB142 尼寺中門跡はAトレンチの北端に位置し、IIIb層に対して暗黄褐色土の硬質面の広がりとして平面プランを確認した。遺構確認面の標高は、約65.85mであった。検出された範囲は東西2.15m、南北0.55mを測り、北・西側はさらに調査区外へと広がっている模様だが、硬質面の一部は旧水道管で攪乱され、攪乱坑覆土および付近の表土には細かいローム粒や黒色土粒が多く含まれていた。この攪乱を挟んだ西側は、硬質面南縁がほぼ東西方向を示すのに対し、東側硬質面の縁はやや北東を向いており、検出した硬質面はその南東隅部分に相当することが考えられる。なお、攪乱掘方で硬質面の厚みを観察したところ、深さ約20cm程の掘り込みを伴うことが判明し、さらに4層の版築が確認された。また、掘方の底面は凹凸に富んでいるが、南壁はやや直立気味に立ち上がっている。

さて、平成5年度に市道を挟んだ北側で実施した発掘調査においても、SB142の延長部分が確認されている。その時の遺構確認面の標高は66.15mで、今次調査で検出した硬質面上面よりも約30cm程高い。また、掘り込みの深さは35cmを測り、掘り方の底面レベルも今次調査地点より相対的に約25cm程高いことになる。従って、中門基壇に伴う掘り込み地業は、北西に比べて南東側の方が低いと想定されるが、いずれの地点においても基壇部を含む掘り込み地業の上半は後世の造成等によって削平されていることが伺える。



第24図 周辺調査状況図 (1/200)



第25図 Aトレンチ東部 SD44 検出状況（北西から）



第26図 Aトレンチ東部 SD44 完掘状況（北西から）



第27図 Aトレンチ西部 SD44 完掘状況（北東から）



第28図 Aトレンチ西部 SD44 西壁断面（南東から）



第29図 Aトレンチ東部 SD44 東壁断面（南西から）



第30図 SB142 基壇土検出状況（南から）



第31図 SB142 基壇土検出状況（北から）



第 32 図 SB142 東壁版築土 (南西から)



第 33 図 SB142 西壁断面 (東から)



第 34 図 B トレンチ全景 (北東から)



第 35 図 調査風景 (A トレンチ西部掘削)

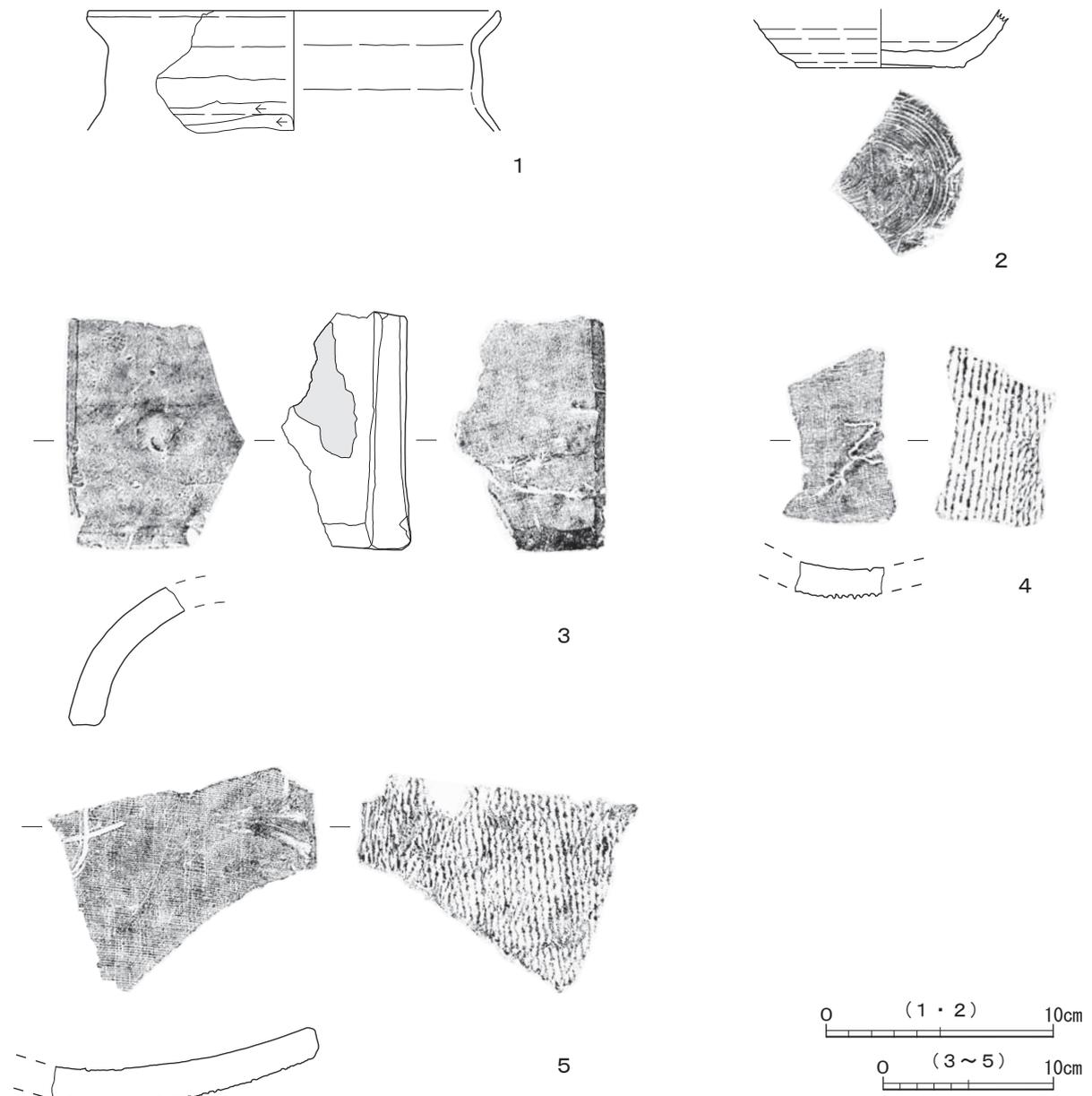
なお、両地点の成果を付き合わせると、中門基壇に伴う掘り込み地業の規模は、東西 12.5 m、南北 9.7 m を測ることが確認された。

SD44 溝跡は、尼寺の伽藍中枢部を区画する南辺溝で、SB142 および SA19 の外側をめぐる。その規模は上面幅が約 1.8 m、底面幅が約 1.1 m、遺構確認面からの深さは約 70 cm を測る。覆土上層からは瓦や土器が出土した。今回の調査によって、溝は SB142 の前面も途切れずに掘り込まれていることがほぼ確実となった。このため、中門前面に橋状の施設 (土橋・木製の橋) が設置された可能性が想定されたが、溝の覆土中において一部かたく締まる層が確認されたものの、調査区内では橋にかかわる明確な痕跡は確認されなかった。

その他に SB142 の東側では、P-1 が検出された。平成 5 年度調査では、中門北縁に沿って小穴が検出され、「掘り込み地業基壇地上部積み上げ土の崩落防止用の枠板を固定する小柱跡 (堰板添柱) の可能性」が想定されている。検出された P-1 も柱穴と考えられることから、今後の検討課題として、中門跡に伴う遺構の可能性を考えておきたい。

B トレンチ内は、地表面から約 50 cm の深さにおいて、Ⅲ b 層上面にて遺構確認を行った。トレンチの南西部分は表土層で遺構確認面に達していないが、工事によって遺跡に影響が及ばないものと判断し、更なる掘削は行わなかった。なお、調査地の旧地形については、A・B トレンチにおける地山層位のレベルから、南西に向かって落ち込んでいることが確認された。

今次調査は、尼寺の主要建物の一つである中門跡が確認され、貴重な調査成果を得た。それとともに、多くの方のご理解・ご協力を得て、中門遺構を現地保存することができた事例として重要な意味をもつ調査となった。



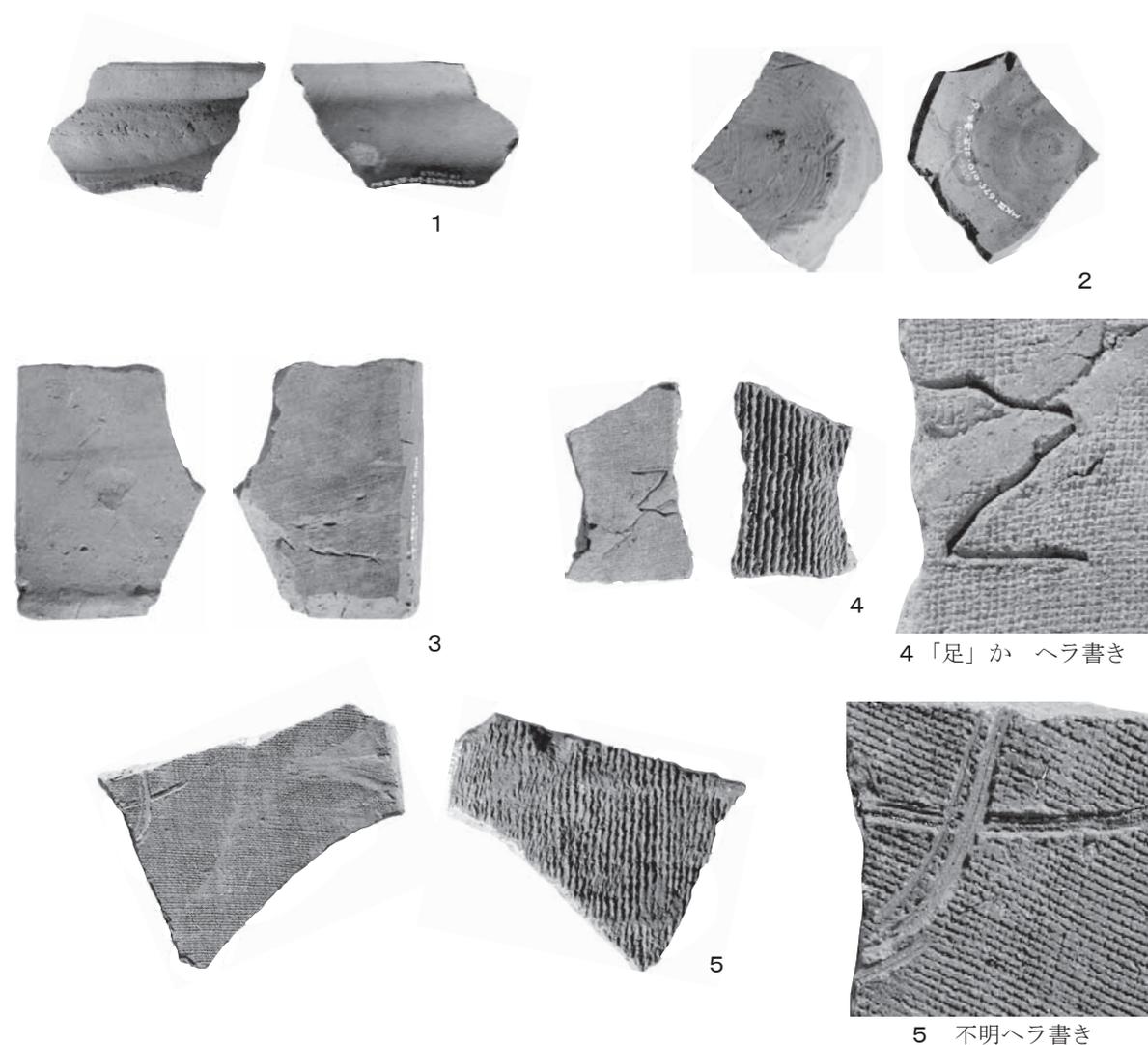
第36図 出土遺物実測図（土器1／3・瓦1／4）

第7表 MKⅢ－675 遺物観察表（土器）

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形 の特徴	成形・整形 特徴	残存量 (部位)	焼成 色調 胎土	備考
第36図1 第37図1	PH01	土師器 甕	SD44 上層	((18.0)) (5.4) —	「コ」の 字状口縁	口縁部内外面 ともにヨコナ デ。胴部上半 は横方向のヘ ラケズリ。	口縁部 ～頸部	焼成良好。 色調橙褐色。 胎土は砂粒・ 雲母を微量 に含む。	武蔵型甕 9世紀末 ～10世 紀前半
第36図2 第37図2	PK01	須恵器 坏	表土	— (2.6) ((7.2))	体部はや や内湾気 味に立ち 上がる。	回転ナデ後、 回転糸切り後 無調整。	体部下半 ～底部 1／3	焼成良好。 色調明灰褐 色。胎土は 砂粒・石英・ 角閃石を含 む。	東金子窯 跡群産。 9世紀前 半。

第8表 MKⅢ-675遺物観察表(瓦)

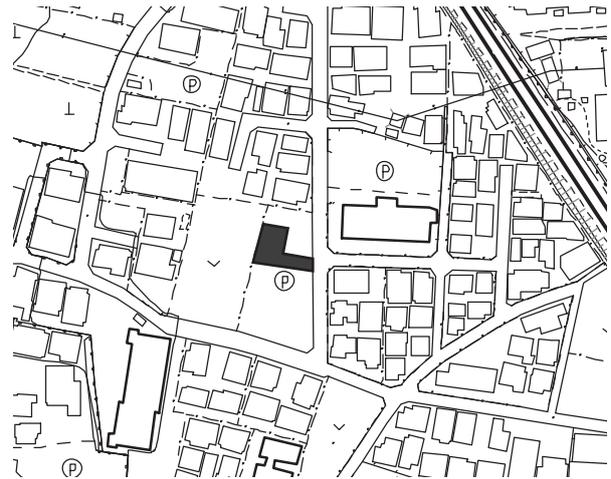
図面 図版	遺物 番号	出土 位置	狭端 広端 全長 厚さ	成形・整形の特徴			残存量	焼成 色調 胎土	備考	
				素材 技法	凹面 布目 特徴	凸面 叩き				端面 特徴
第36図3 第37図3	KC01	表土	— — (14.1) 1.9	粘土紐	縦42 横46 側縁・端縁 へラケズリ。	横位調整。 側縁と端 縁にへラ ケズリ。	側面は へラケ ズリ。	1/10	焼成良好。 色調暗灰 色。胎土 緻密。	凹面に不明 朱墨あり。
第36図4 第37図4	KD01	SD44 上層	— — (10.1) 1.7	一枚 作り	縦28 横27	縄目L7 縦位の縄 目タタキ。		1/12	焼成やや 不良。色 調淡灰 色。胎土は粗 雑で砂質。	凹面にへラ 書き「足」 か。 東金子窯跡 群産か。
第36図5 第37図5	KD02	南区 表土	— — (13.5) 2.1	一枚 作り	縦25 横24 側縁ナデ。	縄目L7 縦位の縄 目タタキ。 側縁ナデ。	側面へ ラケズ リ。	1/10	焼成良好。 色調暗灰 色。	凹面に不明 へラ書きあ り。



第37図 出土遺物写真

(3) 恋ヶ窪遺跡第88次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪1-25-40		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成23年5月12日～5月13日		
調査面積	7.40 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		

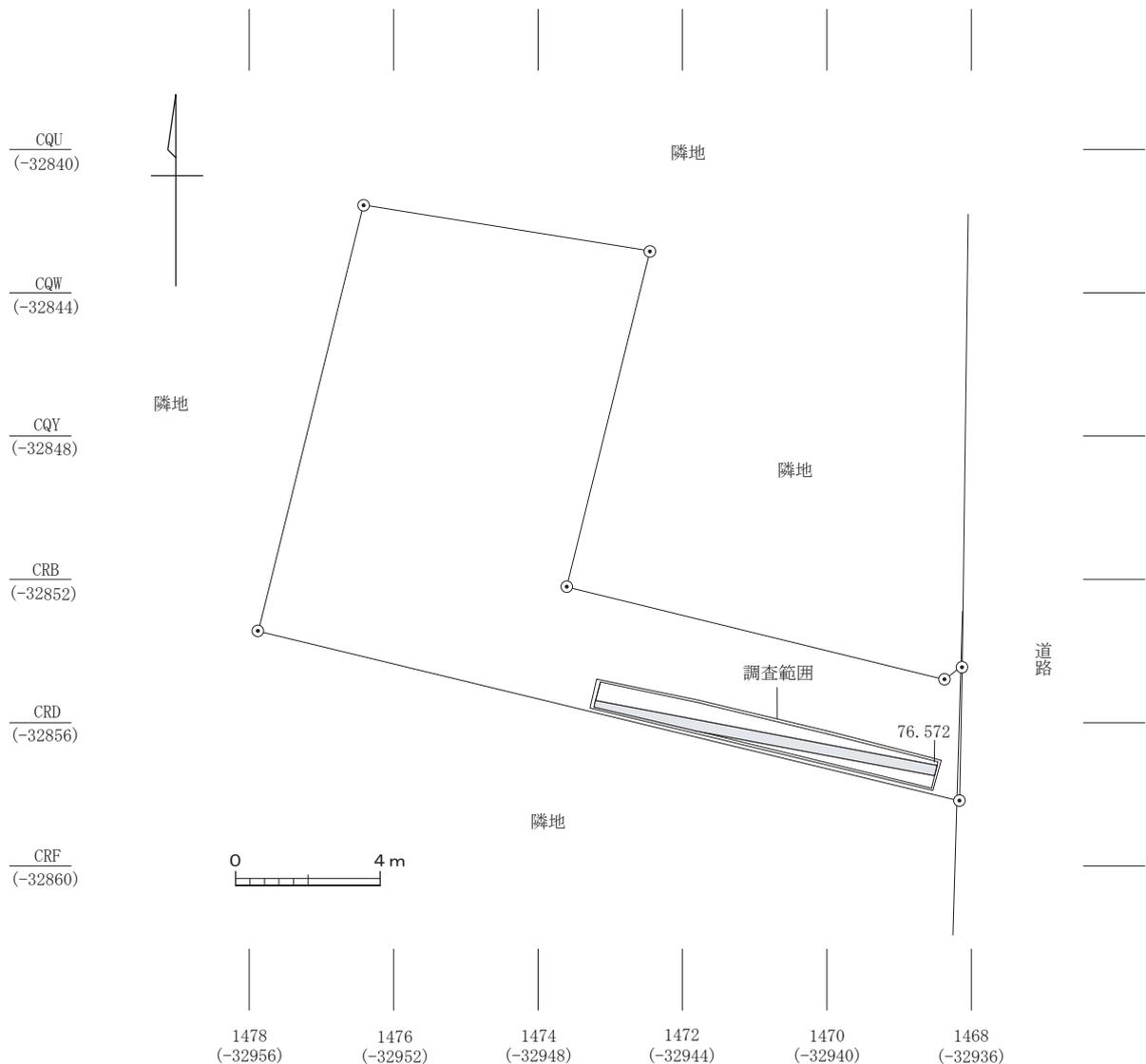


第38図 K2-88 調査地位置図

調査地は、恋ヶ窪遺跡（No.2）に該当する。

恋ヶ窪遺跡は西恋ヶ窪一丁目に展開する遺跡で、野川を見下ろす武蔵野台地上に立地する。この付近ではかつて多くの湧水が確認

されており、そのような地理的条件から縄文時代中期の一大集落が形成されている。また、遺跡範囲内のやや西よりを南北に古代の東山道武蔵路（No.58 遺跡）が通過している。



第39図 K2-88 調査地全体図 (1 / 200)

当該地は、遺跡の中心から北西に位置し、縄文時代と古代の遺構が検出される可能性があったことから、計画建物の給排水管理設部にあたる範囲を対象として、記録保存調査を行った。

調査区内は、地表面から40～50cmまで表土に覆われており、その下層において、遺構確認面であるⅢb層を検出したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。



第40図 調査区全景（東から）



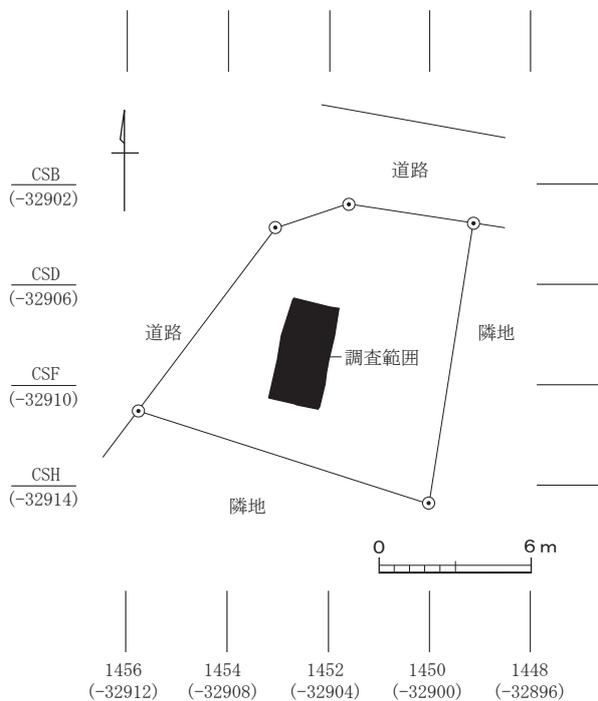
第41図 調査区土層断面（南から）

(4) 恋ヶ窪遺跡第89次

所在地	国分寺市西恋ヶ窪1-18-16		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成23年8月24日～9月5日		
調査面積	7.96 m ²	遺物箱数	2箱
検出遺構	SK204J		
主な遺物	縄文土器・石器		
調査員	寺前		



第42図 K2-89 調査地位置図



第43図 K2-89 調査区配置図 (1/300)

調査地は、恋ヶ窪遺跡 (No. 2) に該当する。恋ヶ窪遺跡は、東西南の三方向を谷によって囲まれた舌状台地南西縁に広がっており、この周辺には本遺跡同様に縄文時代中期を中心とした遺跡が多数存在する。調査地は遺跡の中心にあたる西武国分寺線沿いの通称「三角土地」(第14・16～19・21・26次調査) から南西にわずか50mに位置している。

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）

さらに、当該地とその南東にかけての一带（西恋ヶ窪1-18-9～12）は、平成元年に市による遺跡確認調査（第34次調査）、平成5年2月から3月にかけては開発による調査（第44次調査）を行っている地点である。いずれも未報告であるが、とくに第44次調査は、規模の大きい調査であった。また、調査地の北側を東西に走る市道中77号線上では公共下水道の埋設に伴い本調査を行っている（第36次調査）ほか、調査地西側を走る道路上でも調査を行っており（第40次調査）、ともに『恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅷ』（国分寺市遺跡調査会1997）に報告されている。

ここで第44次調査の内容に触れておく。調査では、縄文時代中期の遺構が密集しており、遺構13基、遺物20箱が検出されている。そのうち、竪穴建物7棟からは、炉や埋甕が確認されている。その覆土から出土した土器は、勝坂Ⅲ式から加曾利E式にかけてのものが中心で、勝坂式期の竪穴建物が濃密に分布する「三角土地」よりやや時期が後出する結果となった。竪穴建物以外では、土坑が3基確認され、その形態から落とし穴と類推できる。遺物は勝坂式期のものは全体的に少なく、縄文のみの深鉢形土器や連弧文土器、沈線による懸垂文をもつ埋甕、耳栓、土偶、石鏃などが出土した。

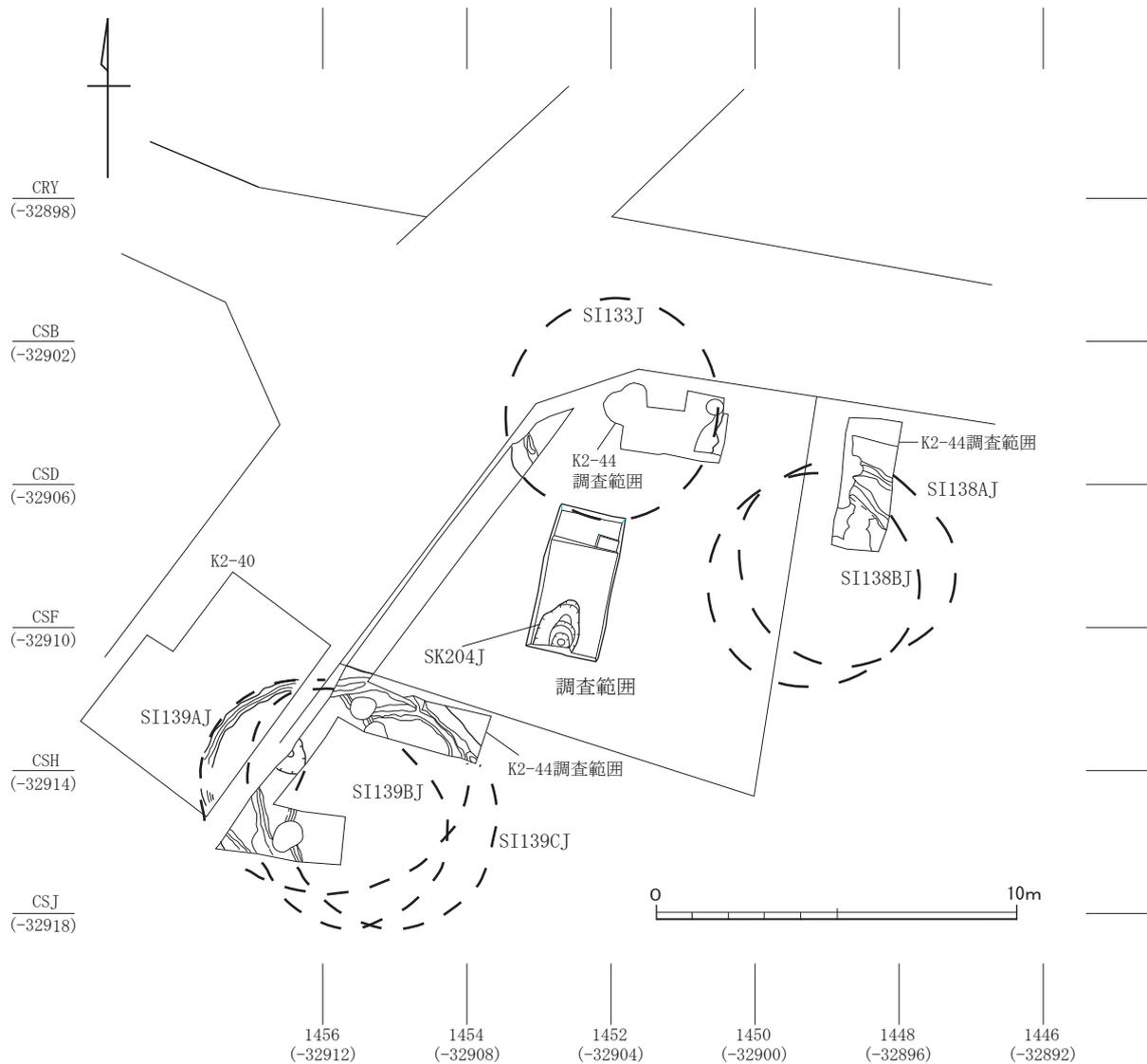
さて、本次調査では、計画建物の範囲がこれらの既往調査の間隙であったため、遺構に影響が及ぶと判断される当該範囲を対象とした記録保存調査を行ったものである。調査地は北面および西面の道路から盛土をしてあったが、その現地表面から慎重に重機で掘削し、約50cmで縄文時代の遺物包含層（Ⅲb層）が遺存していたため、その上面にて止めた。Ⅲb層を人力で掘削したところ、勝坂Ⅱ式～加曾利E3式の縄文土器や石器が多く出土し、その中心時期は勝坂Ⅲ式～加曾利E2式であった。

さらに現地表面下約75cmにあたるⅢc層上面で土坑1基（SK204J）を検出した。SK204Jは、平面は楕円形を呈し、短軸1.1m、長軸1.5m、深さ55cmを測る。遺構の南端は調査区外へ延び、最大幅や最深部の位置を考慮するとおおよそ2m前後になるとみられる。第44次調査で確認された土坑よりも大型であるが、長軸に沿って段状に平坦面が形成されている形態は類似している。その形態から落とし穴である可能性もあるが、明確な痕跡は確認できなかった。SK204J覆土中の遺物は上層・中層に最も多く、最深部を含む下層からはほとんど出土しなかった。遺物はⅢb層と同じ様相を示し、勝坂Ⅰ式1点、勝坂Ⅱ式数点のほか、勝坂Ⅲ式から加曾利E2式にかけてが中心となる。

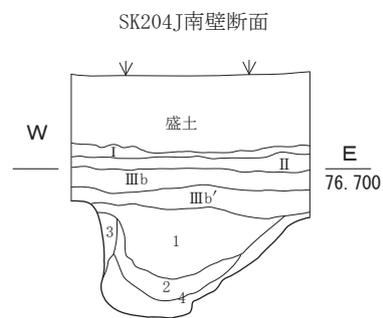
さらに、第44次調査で確認されたSI133Jの南端が調査区北端で検出される可能性があったが、平面での確認は困難であった。ただし、調査区北壁断面においてⅢb層が周囲よりも窪む箇所があったこと、この付近の掘削時に縄文土器の出土が多かったことから、この窪みがK2-44調査におけるSI133Jの一部である可能性が考えられる。

なお、調査区北側の1m×2m四方をV a層まで人力掘削したが、この範囲の中では縄文時代前期以前の遺構・遺物は検出されなかった。

以上のことから、当該調査では、縄文時代中期後半から後期初頭に比定される土坑が検出され、第34・44次調査と同時期のものであることがわかった。当該地では幾度となく調査が行われ、また遺構のあり方も集落の中心からはややはずれた様相を示すものの、敷地内の未調査の部分には遺構が遺存している可能性が高いことが追認された。

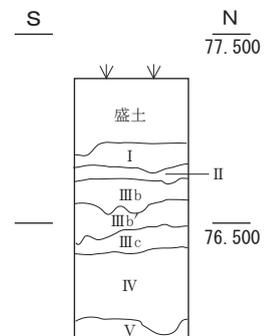


第44図 調査区平面図および周辺調査状況 (1/200)



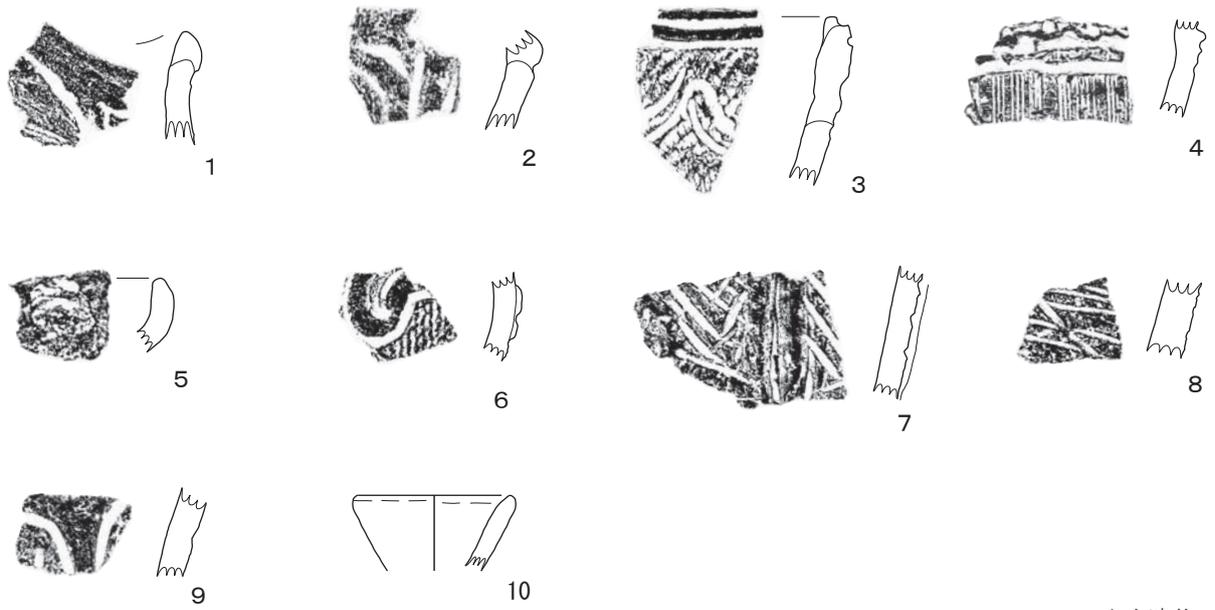
- 1 黒褐色粘質土 7.5YR3/2黒褐色極細粒砂。しまり良し。IIIc層と同程度の赤スコリア(褐色味の強いもの、黄味の強いものあり)を含む。炭化物は含まず。根攪乱も多い。この土坑中で、下層が最も土器を包含する。なおSK204Jの上部(IIIb'層中)も土器の出土が多い。
- 2 1層より暗いが、よく似た土質。赤スコリアの含有率が1層より高い。極細粒砂～細粒砂。ロームブロックが混じる。
- 3 黄褐色～褐色土 10YR5/6黄褐色～10YR4/4褐色 極細粒砂～細粒砂。色味は4層より暗く、しまりは2層より悪い。赤スコリア(褐色味の強いもの、黄味の強いものあり)を含む。根攪乱多い。
- 4 褐色土 10YR4/6褐色 ほぼローム由来土で粘性高い。極細粒砂。しまりやや悪い。根攪乱や有機質まじりで汚い。土器等遺物の出土はなし。赤スコリアの含有率は他層より高い。

第45図 SK204J遺構断面図 (1/40)

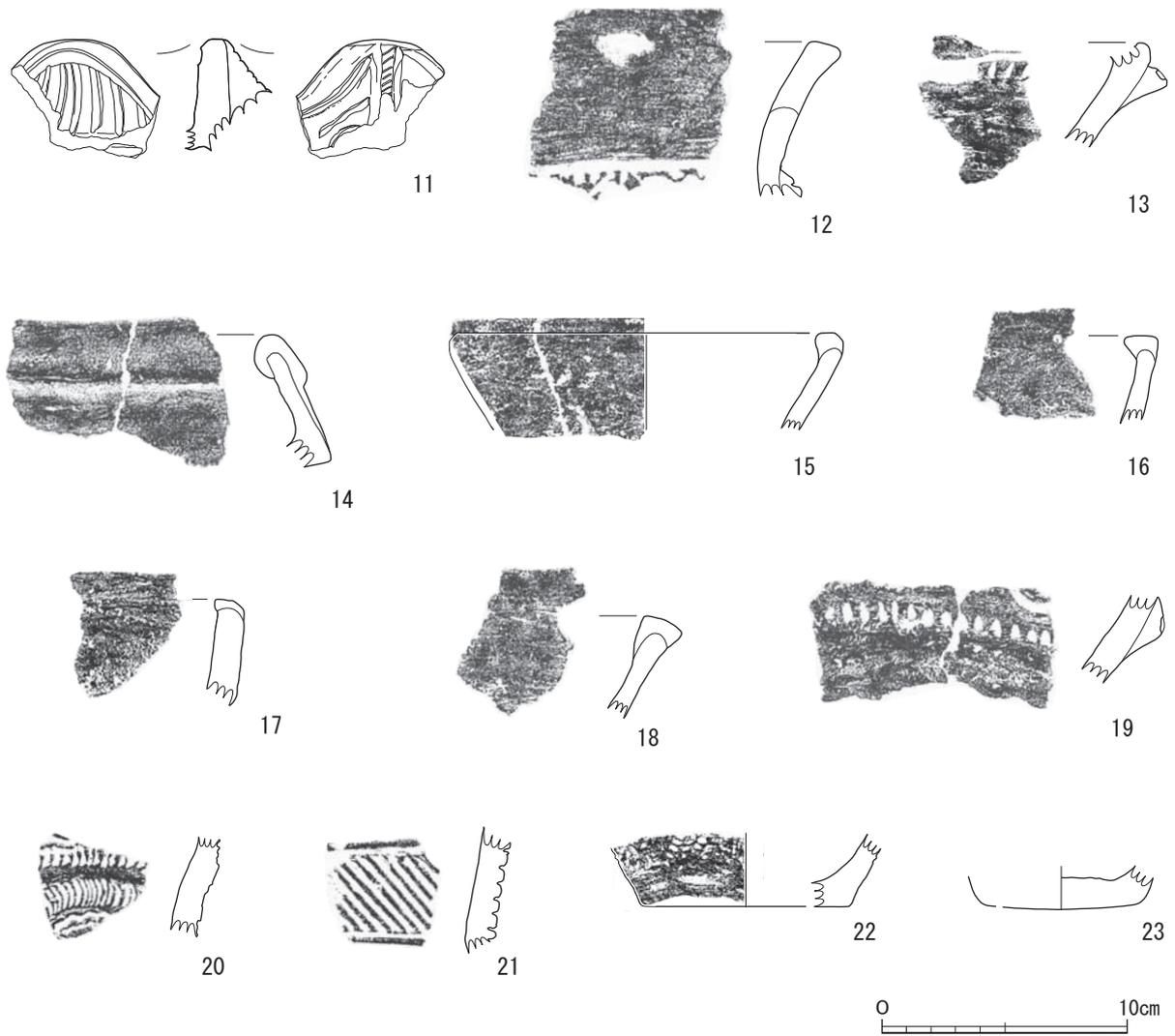


第46図 調査区土層柱状図

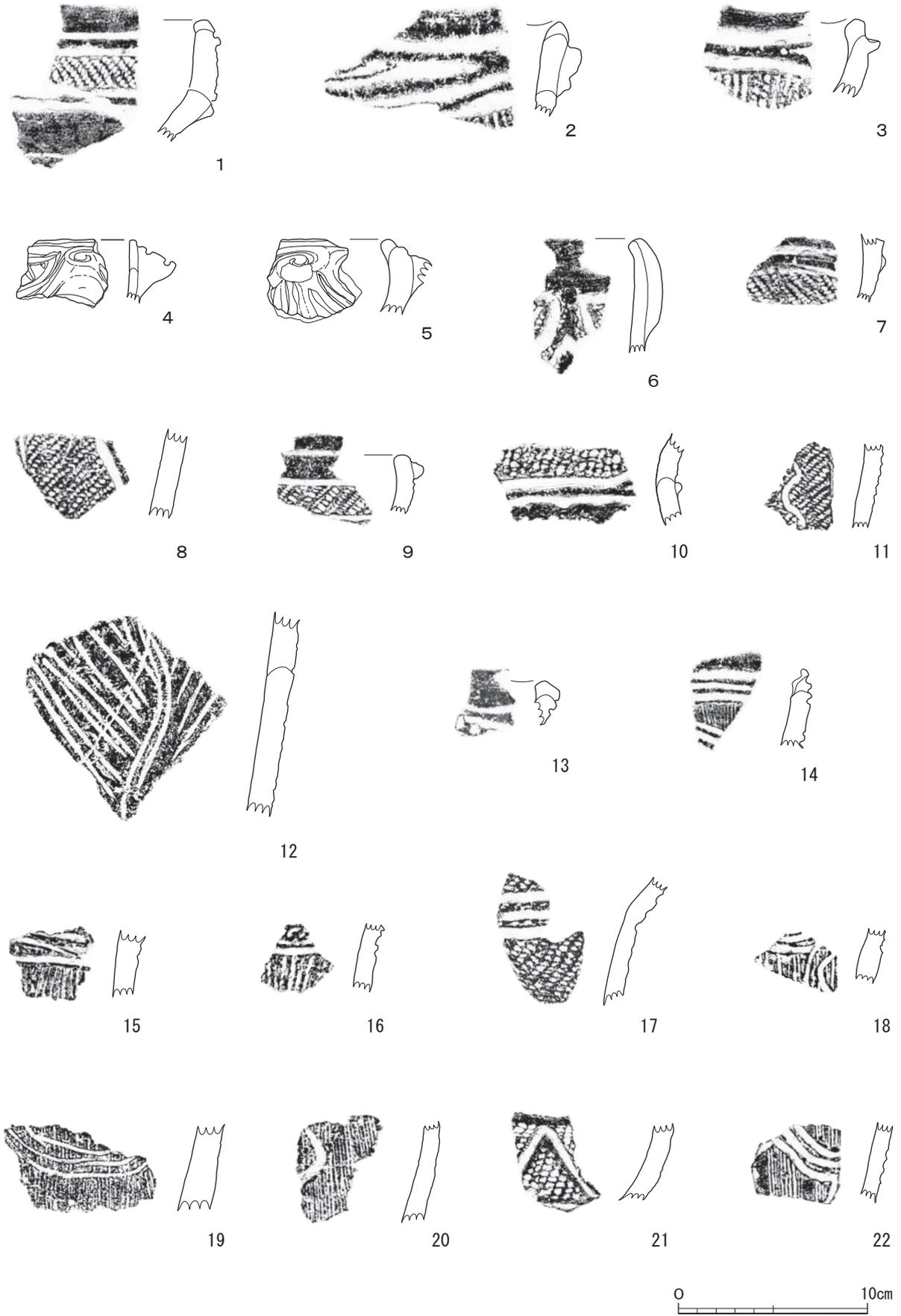
第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）



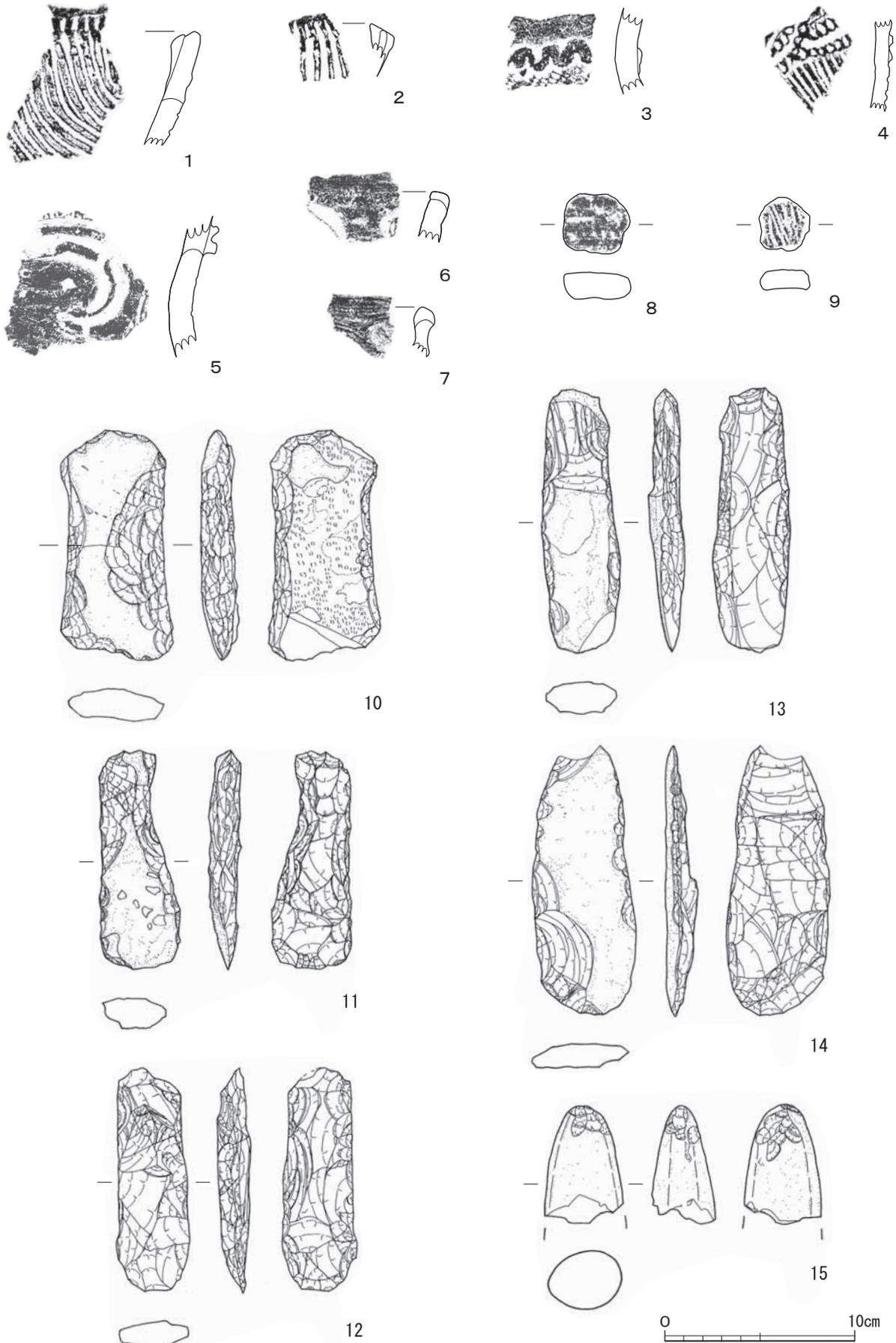
SK204J 出土遺物



第47図 出土遺物実測図1（1／3）



第48図 出土遺物実測図2 (1/3)



第49図 出土遺物実測図3（1/3）

第9表 K2-89 遺物観察表(土器)

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形 の特徴	成形・整形 の特徴	残存量 (部位)	焼成 色調 胎土	備考
第47図1 第54図1	JE01	深鉢	SK204J 上層	— (4.8) —	波状口縁 の波頂部。	沈線による区 画。区画の内側 は無文。内面調 整は行われて いない。	口縁部	焼成やや良 好。赤褐色。 胎土はやや 粗く、砂粒 を多く含む。	勝坂I 式
第47図2 第54図2	JE02	深鉢	SK204J 上層	— (4.0) —	欠損部が 多く、全 容不明。	沈線で区画し、 内側をナデる。 内面は粗い磨 き。	口縁部	焼成は不 良。外面は 褐色、内面 は黒色。胎 土は粗く、 砂粒を多く 含む。	勝坂III 式
第47図3 第54図3	JF09	深鉢	SK204J 上層	— (6.9) —	連弧文土 器。欠損部 が多く、全 容不明。	口縁部に2本 の沈線を廻ら す。RLの縄文 を地文とし、2 本の沈線によ る弧線文を施 す。	口縁部	焼成やや良 好。暗褐色。 胎土は白色 砂粒を多く 含む。	
第47図4 第54図4	JF15	深鉢	SK204J 上層	— (3.9) —	連弧文系 土器。欠損 部が多く、全 容不明。	櫛描状の条線 を地文とし、細 い貼付隆帯列 点を施す。1条 の沈線を廻ら す。内面は丁寧 な磨き。	胴部	焼成良好。 暗茶褐色。 胎土は緻密 で砂粒を多 く含む。	加曽利 E2式
第47図5 第54図5	JF22	深鉢	SK204J 上層	— (3.0) —	湾曲する 波状口縁。 外面中央 部欠損。	内外面ともに 粗いナデ。	口縁部	焼成不良。 胎土は粗 く、白色砂 粒を多く含 む。	加曽利 E2式
第47図6 第54図6	JF29	深鉢	SK204J 上層	— (3.6) —	欠損部が 多く、全 容不明。	縄文を地文と し、貼付隆帯 による渦巻文 を施す。内面 は比較的丁寧 な磨き。	胴部	焼成やや良 好。赤褐色。 胎土はやや 粗く、白色 砂粒を多く 含む。	曾利II 式
第47図7 第54図9	JF32	深鉢	SK204J 上層	— (5.3) —	欠損部が 多く、全 容不明。	2本1組の垂 下する貼付隆 帯。沈線によ る綾杉文を施 す。内面はや や粗い磨き。	胴部	焼成良好。 赤褐色。胎 土は粗く、 白色砂粒を 多量に含 む。	加曽利 E2式
第47図8 第54図7	JF35	深鉢	SK204J 上層	— (3.2) —	欠損部が 多く、全 容不明。	交叉する粗い 集合沈線。内 面は粗い磨 き。	胴部	焼成良好。 赤褐色。胎 土はやや粗 く、1~2 mm大の砂 粒を多く含 む。	曾利III 式
第47図9 第54図8	JF36	深鉢	SK204J 上層	— (3.5) —	欠損部が 多く、全 容不明。	縄文を地文と し、磨り消し 後に沈線を2 本施す。内面 は丁寧な磨 き。	胴部	焼成不良。 胎土は粗 く、2mm大 の砂粒を多 く含む。	加曽利 E3式

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）

第47図10 第54図10	DA01	ミニチュア 土器	SK204J 上層	(6.0) (3.1) —	欠損部が 多く、全 容不明。	無文。内外面と もに粗い磨き。	口縁部	焼成良好。 暗灰色。胎土はやや緻密。	
第47図11 第54図11	JE03	深鉢	Ⅲb層	— (4.9) —	波状口縁 の把手部 分。	外面は二条の 沈線と刻目を 施す。内面は沈 線で区画し、内 側に集合沈線 を施す。	口縁部	焼成良好。 内外面とも に暗褐色。 胎土は粗く、 白色砂粒、2mm大 の小石を多く 含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図12 第54図15	JE04	浅鉢	Ⅲb層	— (6.4) —	口縁部から 頸部にか けて、「く」 の字状に 屈曲する。	内外面ともに 丁寧な磨き。 口縁部は無文。 頸部は貼付隆 帯上に刻目を 施す。	口縁部 ～頸部	焼成良好。 赤褐色。胎土 は粗く、1～2mm 大の小石を多 く含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図13 第54図12	JE05	浅鉢	Ⅲb層	— (4.3) —	「く」の字 状の頸部。	内外面ともに 丁寧な磨き。 頸部は貼付隆 帯上に刻目を 施す。	頸部	焼成良好。 外面は赤褐 色。内面は黒 色。胎土には 白色砂粒を多 く含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図14 第54図14	JE06	浅鉢	Ⅲb層	— (5.4) —	欠損部が 多く、全 容不明。	口唇部を肉状 に貼り付けて 肥厚させ、内 傾させる。無 文。内外面と もに丁寧な磨 き。丹塗り。	口縁部	焼成良好。 赤褐色。胎土 は緻密で、砂 粒を多く含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図15 第54図16	JE07	浅鉢	Ⅲb層	((15.4) (4.0) —	口縁部は 外傾する。	口唇部を著し く屈曲させる。 無文。外面は 比較的丁寧な 磨き。内面は 粗いナデ。	口縁部	焼成やや良 好。暗褐色。 胎土はやや粗 い。白色砂粒 を多く含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図16 第54図13	JE08	浅鉢	Ⅲb層	— (3.7) —	口縁部は ほぼ垂直。	口唇部を肥厚 させ、内側に 突出させる。無 文。内外面と もに比較的丁 寧な磨き。	口縁部	焼成良好。 外面は黒色、 内面は茶褐色。 胎土は粗く、 2mm大の小石・ 白色砂粒を多 く含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図17 第54図17	JE09	浅鉢	Ⅲb層	— (4.4) —	口縁部は ほぼ垂直。	口唇部を肉状 に貼り付けて、 わずかに肥厚 させる。無文。 内外面ともに やや丁寧な磨 き。	口縁部	焼成良好。 暗褐色。胎土 は緻密で、白 色砂粒を多く 含む。	勝坂Ⅲ 式
第47図18 第54図18	JE10	浅鉢	Ⅲb層	— (4.3) —	口縁部は やや外反 する。	口唇部を肉状 に貼り付けて 肥厚させ、外 側に張り出さ せる。無文。内 外面ともに丁 寧な磨き。	口縁部	焼成良好。 外面灰褐色。 内面暗褐色。 胎土は粗く、 白色砂粒を多 く含む。	勝坂Ⅲ 式

第47図19 第55図1	JE11	浅鉢	Ⅲb層	— (3.6) —	「く」の字 状の頸部。	頸部上の貼付 隆帯に刻目を 施す。内外面と もにやや丁寧 な磨き。	頸部	焼成やや良 好。黄橙色。 胎土は緻密 で、白色砂 粒を多く含 む。	勝坂式 期
第47図20 第55図3	JE12	深鉢	Ⅲb層	— (4.2) —	欠損部が 多く、全 容不明。	キャタピラ文 を施す。内面は 粗いナデ。	胴部	焼成やや良 好。暗褐色。 胎土は粗く、2～ 3mm大の小 石を多く含 む。	勝坂Ⅱ 式
第47図21 第55図2	JE13	深鉢	Ⅲb層	— (5.2) —	欠損部が 多く、全 容不明。	集合沈線によ るパネル文。内 面調整は粗い ナデ。	胴部	焼成やや良 好。黄橙色。 胎土は比較 的緻密だが、2mm大 の小石を微 量に含む。	勝坂Ⅱ 式
第47図22 第55図4	JE14	浅鉢	Ⅲb層	— (3.0) (8.4)	欠損部が 多く、全 容不明。	RLの縄文を 地文とし、内外 面ともに比較 的丁寧な磨き。	底部 1/3	焼成やや良 好。外面黄 橙色。内面 灰黒色。胎 土は粗い。	勝坂期
第47図23 第55図5	JE15	浅鉢	Ⅲb層	— (1.8) (6.2)	欠損部が 多く、全 容不明。	外面は比較的 丁寧な磨き。内 面調整は行わ れていない。	底部 2/3	焼成やや良 好。外面褐 色。内面黒 色。胎土は やや粗く、 2mm大の小 石を少量含 む。	勝坂期
第48図1 第55図6	JF01	深鉢	Ⅲb層	— (6.5) —	キャリ パー形の 深鉢。	内外面ともに 比較的丁寧な 磨き。沈線と隆 帯で区画し、そ の内側にRL の縄文を施す。 内面調整は粗 い磨き。	口縁部 ～ 胴部上 半 1/3	焼成やや良 好。暗茶褐 色。胎土は 緻密。	加曽利 E1式
第48図2 第55図7	JF02	深鉢	Ⅲb層	— (5.0) —	波状口縁 の深鉢。 欠損が多 く、全容 不明。	太い貼付隆帯。 内面調整は行 われていない。	口縁部	焼成やや良 好。黄橙 色。胎土は 粗く、2～ 3mm大の小 石を多く含 む。	加曽利 E1式
第48図3 第55図9	JF05	深鉢	Ⅲb層	— (4.2) —	波状口縁 の深鉢。	内外面ともに 丁寧な磨き。口 唇部直下に貼 付隆帯を廻ら す。楕円区画 の中に横位の RL縄文を施す。	口縁部	焼成良好。 外面黒色。 内面褐色。 胎土は緻 密。胎土は 白色砂粒を 多く含む。	加曽利 E1式
第48図4 第55図8	JF03	深鉢	Ⅲb層	— (3.6) —	深鉢の把 手。	貼付隆帯に よって肥厚さ せた部分に渦 巻文と楕円区 画を施す。内 面調整は丁寧 な磨き。	口縁部	焼成良好。 赤褐色。胎 土は緻密。	加曽利 E1式

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）

第48図5 第55図10	JF04	深鉢	Ⅲb層	— (4.5) —	深鉢の把手。	貼付隆帯によって肥厚させた部分に渦巻文を施す。内面調整は丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。黄橙色。胎土は粗く、2～3mm大の小石を多く含む。	加曽利E1式
第48図6 第55図11	JF06	深鉢	Ⅲb層	— (6.1) —	ほぼ垂直に立ち上がる口縁で、口唇部がわずかに内傾する。	内面に丁寧な磨き。表面は貼付隆帯によって区画し、内側に縄文を施す。	口縁部	焼成やや良好。黄褐色。胎土は粗く、2～3mm大の小石を多く含む。	加曽利E1式
第48図7 第55図13	JF08	深鉢	Ⅲb層	— (3.8) —	欠損部が多く、全容不明。	貼付隆帯による楕円区画内に横位のLR縄文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。暗黄褐色。胎土は白色砂粒を多く含む。	加曽利E1式
第48図8 第55図12	JF07	深鉢	Ⅲb層	— (4.8) —	欠損部が多く、全容不明。	2本の沈線間を縦位のRL縄文を施す。内面調整はやや丁寧な磨き。	胴部	焼成良好。暗灰色。胎土は緻密。	加曽利E1式
第48図9 第55図14	JF21	深鉢	Ⅲb層	— (3.2) —	やや湾曲する口縁部。	口唇部に貼付隆帯による突起文を廻らせ、横位のLR縄文を地文とし、沈線で区画する。内面は比較的丁寧な磨き。	口縁部	焼成良好。赤褐色。胎土は粗く、2mm大の砂粒を少量含む。	加曽利E2式
第48図10 第55図15	JF23	深鉢	Ⅲb層	— (4.9) —	欠損部が多く、全容不明。	「く」の字状に屈曲する頸部。沈線の楕円区画内に縦位のRL縄文を施す。内面は丁寧なナデ。	頸部	焼成不良。胎土は粗く、1～2mm大の砂粒を多く含む。	加曽利E2式
第48図11 第55図16	JF24	深鉢	Ⅲb層	— (4.4) —	欠損部が多く、全容不明。	横位のRL縄文を地文とし、「S」の字状沈線を垂下する。内面調整は行われていない。	胴部	焼成不良。胎土は粗く、1～2mm大の砂粒を多く含む。	加曽利E2式
第48図12 第56図1	JF31	深鉢	Ⅲb層	— (10.5) —	欠損部が多く、全容不明。	2本1組の蛇行沈線が垂下し、沈線による綾杉文を施す。内面はやや粗い磨き。	胴部	焼成不良。赤褐色。胎土は粗く、白色砂粒と2～3mm大の小石を多く含む。	加曽利E2式
第48図13 第56図2	JF11	深鉢	Ⅲb層	— (2.4) —	波状口縁。欠損部が多く、全容不明。	口縁下に2本の沈線を廻らす。沈線下に列点を施す。	口縁部	焼成良好。暗灰色。胎土は緻密。	連弧文土器。

第48図14 第56図3	JF10	深鉢	Ⅲb層	— (4.2) —	欠損部が多く、全容不明。	口縁部に3本の沈線を廻らす。条線を地文とし、2本の沈線による弧線文を施す。	口縁部	焼成良好。暗褐色。胎土は緻密。	連弧文土器。
第48図15 第56図4	JF18	深鉢	Ⅲb層	— (3.6) —	欠損部が多く、全容不明。やや括れる頸部。	粗い櫛描状の条線を地文とし、3本の沈線を廻らす。内面調整は行われていない。	頸部	焼成不良。暗褐色。胎土は粗く、砂粒を多く含む。	連弧文系土器。
第48図16 第56図5	JF20	深鉢	Ⅲb層	— (3.7) —	欠損部が多く、全容不明。	Rの捺糸文を地文とし、1本の沈線を廻らす。さらに上方に細い隆帯を波状に貼り付けて廻らす。内面調整は行われていない。	頸部	焼成やや良好。赤褐色。胎土はやや緻密。	連弧文系土器。
第48図17 第56図6	JF14	深鉢	Ⅲb層	— (6.9) —	欠損部が多く、全容不明。	頸部から胴部上半にかけて「く」の字状に括れる。RLの縄文を地文とし、頸部付近に3本の沈線を廻らす。内面は粗い磨き。	頸部～胴部上半	焼成やや良好。暗褐色。胎土は粗く、2～3mm大の小石を多く含む。	連弧文系土器。
第48図18 第56図7	JF19	深鉢	Ⅲb層	— (3.0) —	欠損部が多く、全容不明。	粗い条線を地文とし、2本の沈線を廻らせ、2本一組の沈線による弧線文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。外面は暗茶褐色。内面は茶褐色。胎土は緻密。	連弧文土器。
第48図19 第56図8	JF12	深鉢	Ⅲb層	— (4.6) —	円筒形。	条線を地文とし、3本の沈線による弧線文を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。外面黄橙色。内面赤褐色。胎土は粗く、1～2mm大の砂粒を多量に含む。	連弧文土器。
第48図20 第56図9	JF13	深鉢	Ⅲb層	— (5.5) —	欠損部が多く、全容不明。	櫛描状の条線を地文とし、「S」字状の沈線を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成はやや良好。暗褐色。胎土は緻密。白色砂粒を少量含む。	連弧文土器。
第48図21 第56図10	JF16	深鉢	Ⅲb層	— (4.1) —	欠損部が多く、全容不明。やや膨らむ胴部。	RLの縄文と地文とし、1本の沈線による弧線文を施す。内面は炭素吸着により黒色で、研磨されている。	胴部	焼成不良。暗赤褐色。胎土は粗く、2～3mm大の砂粒を少量含む。	連弧文系土器。

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）

第48図22 第56図11	JF17	深鉢	Ⅲb層	— (4.3) —	欠損部が多く、全容不明。	櫛描状の条線を地文とし、3本の沈線による弧線文を施す。内面は丁寧な磨き。	胴部	焼成良好。暗灰色。胎土はやや粗く、3mm大の小石を少量含む。	連弧文土器。
第49図1 第56図12	JF25	深鉢	Ⅲb層	— (6.0) —	折り返し口縁。	口縁部から胴部にかけて棒状工具による重弧文の沈線を施す。内面は比較的丁寧なナデ。	口縁部～胴部	焼成良好。黄橙色。胎土は緻密。	曾利系
第49図2 第56図13	JF26	深鉢	Ⅲb層	— (2.8) —	折り返し口縁。	口縁部に棒状工具による重弧文の沈線を施す。	口縁部	焼成良好。黄橙色。胎土は緻密。	曾利系
第49図3 第56図14	JF27	深鉢	Ⅲb層	— (4.6) —	欠損部が多く、全容不明。	細い隆帯を波状に貼り付ける。隆帯の上は無文、下方は横位のRL縄文を施文する。内面調整は行われていない。	頸部	焼成やや良好。赤褐色。胎土は粗く、砂粒を多量に含む。	曾利Ⅱ式
第49図4 第57図1	JF28	深鉢	Ⅲb層	— (4.9) —	欠損部が多く、全容不明。	細い隆帯を貼り付け、その上を刻目状につぶす。沈線下に棒状工具による縦方向の沈線を施す。内面調整は行われていない。	胴部	焼成やや良好。赤褐色。胎土は粗く、2～3mm大の小石を多く含む。	曾利系
第49図5 第57図2	JF30	深鉢	Ⅲb層	— (7.5) —	大型。頸部で括れ、胴部上半でやや膨らむ。	条線を地文とした上に、貼付隆帯による渦巻状の意匠文を表出する。内面は丁寧な磨き。	頸部	焼成良好。暗茶褐色。2～3mm大の小石を多く含む。	曾利Ⅱ式
第49図6 第57図3	JF33	深鉢	Ⅲb層	— (2.6) —	欠損部が多く、全容不明。	口唇部を肥厚させ、僅かに内側に張り出す。口唇部下に沈線による楕円区画を施す。内面調整は行われていない。	口縁部	焼成やや良好。赤褐色。胎土はやや粗く、白色砂粒を多く含む。	加曾利E3式
第49図7 第57図4	JF34	深鉢	Ⅲb層	— (2.7) —	欠損部が多く、全容不明。	口唇部を肥厚させる。口唇部下に指頭による圧痕が施される。内面調整は行われていない。	口縁部	焼成やや良好。黄橙色。胎土は緻密。	加曾利E3式
第49図8 第57図5	DE01	土製円板	Ⅲb層	径3.5cm 厚1.3cm 重15.5g		沈線と押し引き文。	完形	黄橙色。全周よく磨耗する。	
第49図9 第57図6	DE02	土製円板	Ⅲb層	径2.6cm 厚1.0cm 重8.8g		撚糸文。	完形	赤褐色。全周よく磨耗する。	

第10表 K2-89 遺物観察表(石器)

図面 図版	遺物 番号	種別 細分類	出土 位置	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	残存量 残存状態	石材	備考
第49図10 第57図7	AG01	打製 石斧	SK204J 上層	12.1	5.9	1.7	175.7	ほぼ完形	砂岩	短冊形。両刃であるが、裏面刃部は欠損している。部分的に被熱している。表面に自然面を残す。
第49図11 第57図8	AG02	打製 石斧	Ⅲb層	11.5	4.2	1.6	96.8	完形	ホルンフェルス	右側縁を折り、左右非対称。片刃。表面に自然面を残す。
第49図12 第57図10	AG03	打製 石斧	Ⅲb層	11.8	3.9	1.6	99.7	ほぼ完形	グリーンタフ	片刃でほぼ完形。両面調整で自然面を除去している。
第49図13 第57図9	AG04	打製 石斧	Ⅲb層	13.9	4.2	1.8	125.9	ほぼ完形	砂岩	両刃の表面刃部を一部欠損する。基部厚をやや薄く仕上げている。表面に自然面を残す。
第49図14 第57図11	AG05	打製 石斧	Ⅲb層	14.2	5.5	1.5	135.1	ほぼ完形	砂岩	片刃で基部端を一部欠損する。表面に自然面を残す。
第49図15 第57図12	AH01	磨製 石斧	Ⅲb層	6.2	4.0	3.2	102.6	刃部欠損	砂岩	基部のみ残存。断面は楕円形を呈す。部分的に被熱している。基部端々に剥離痕を残す。



第50図 調査区全景(東から)



第51図 調査区北壁断面(南から)

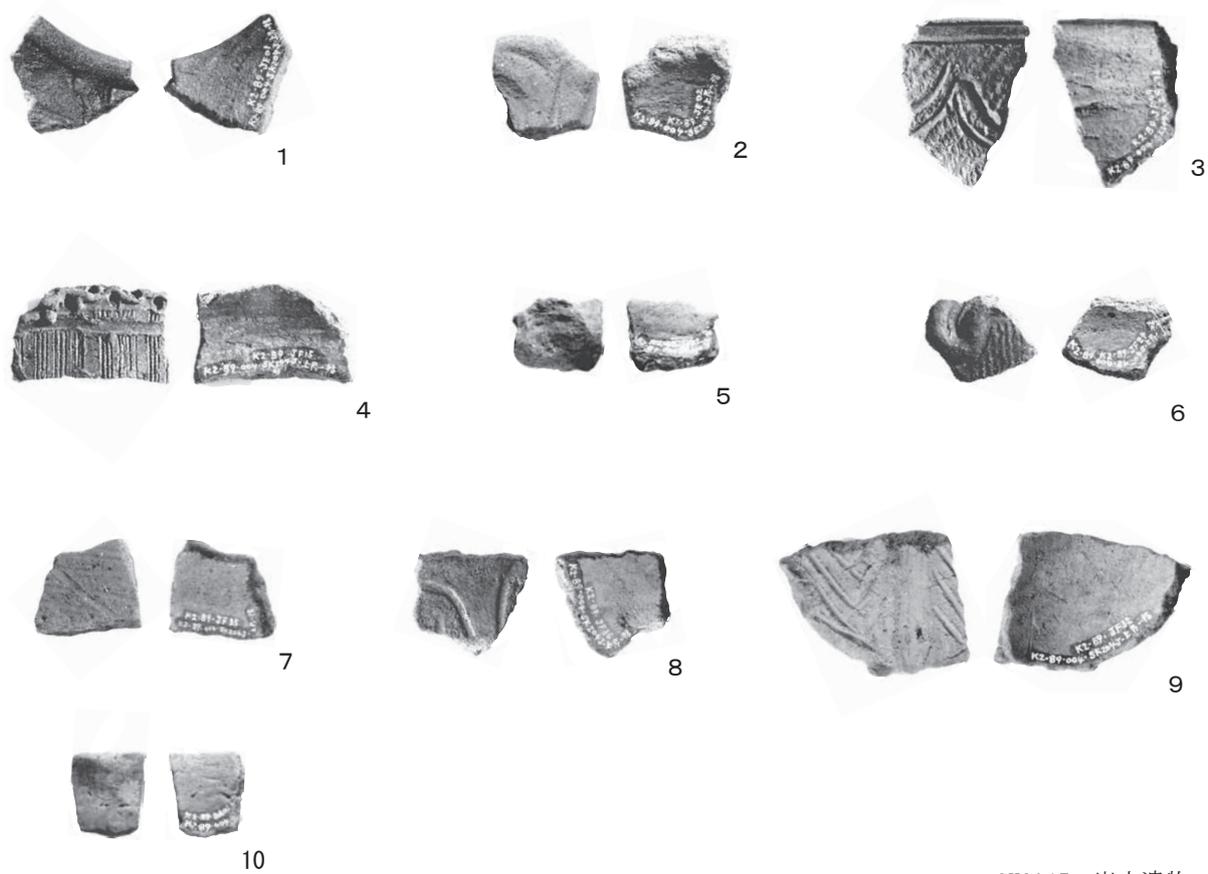


第52図 SK204J完掘状況(南から)

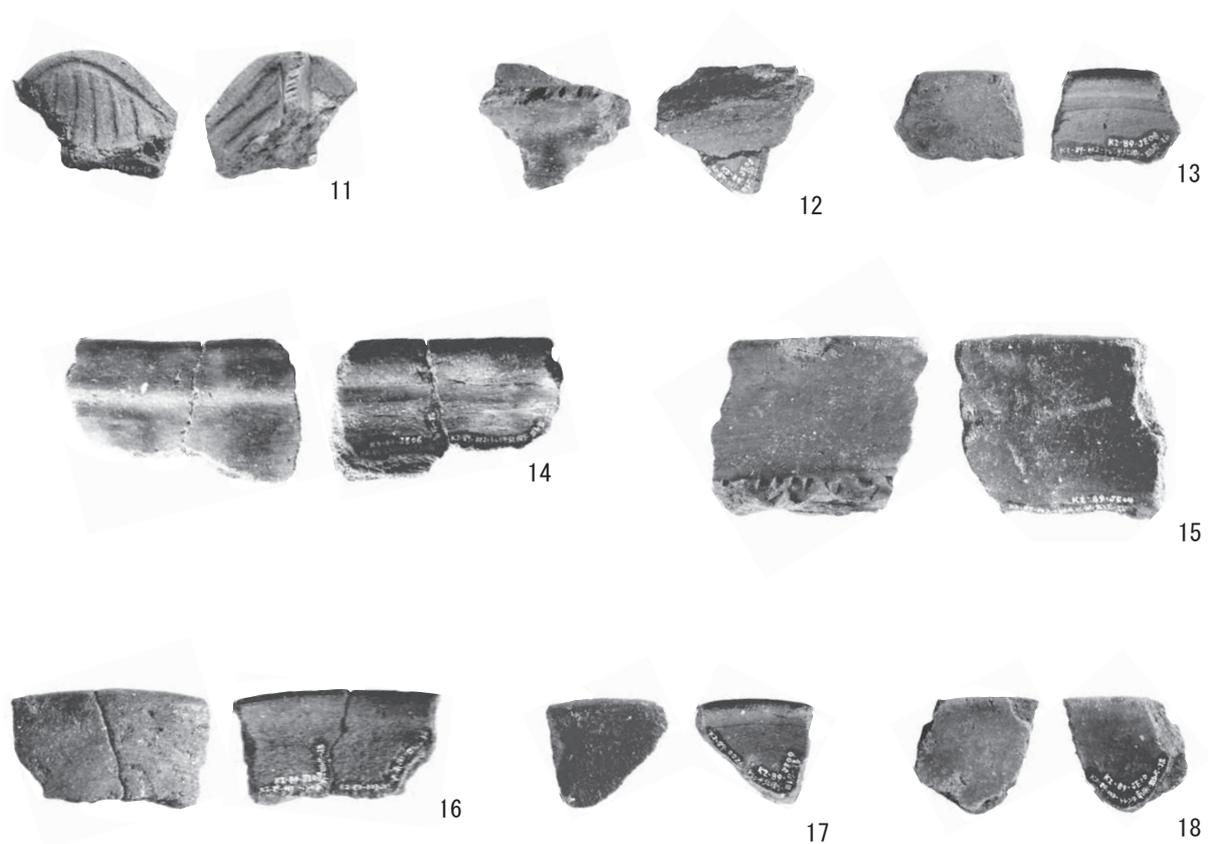


第53図 SK204J遺構断面(北から)

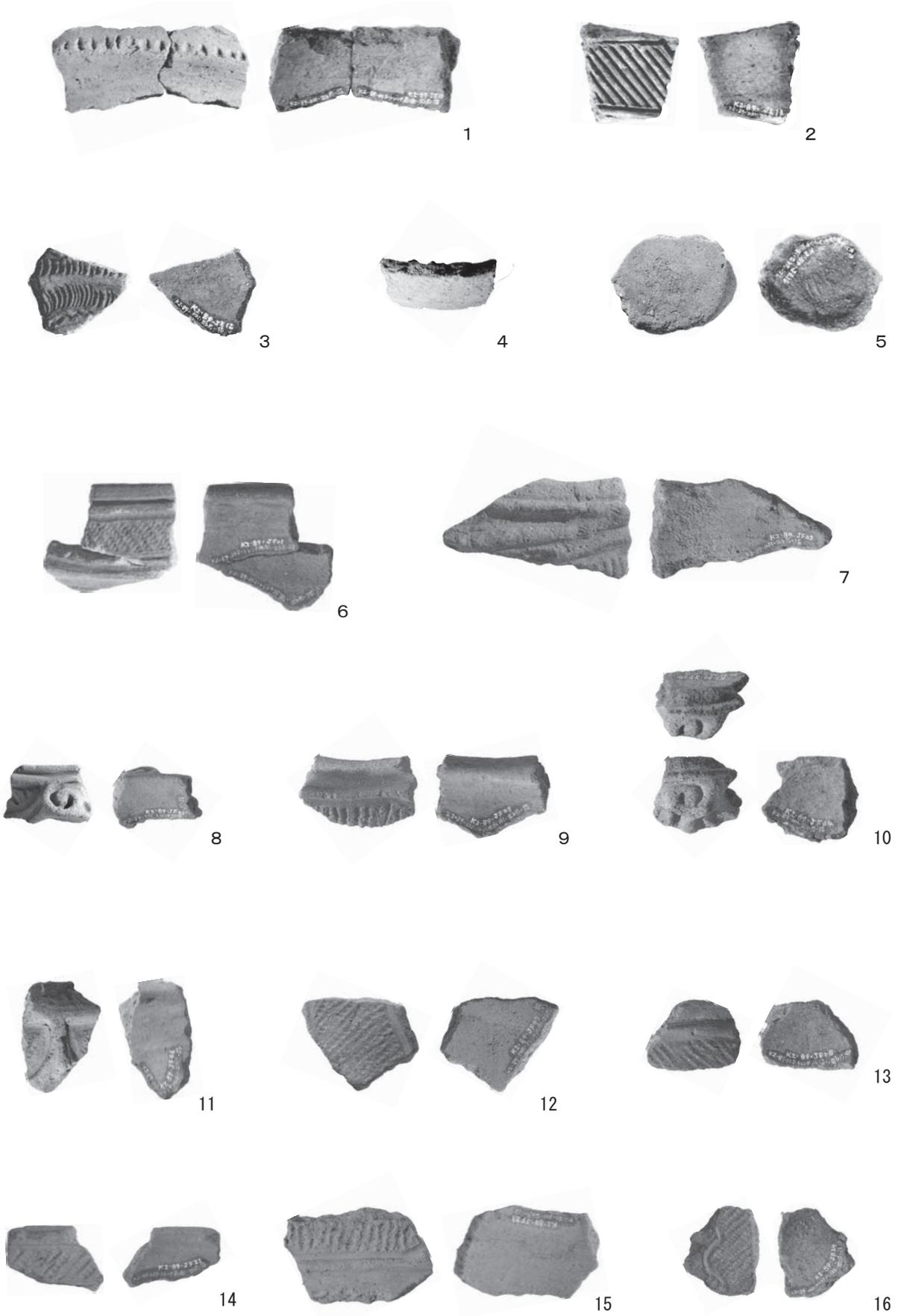
第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）



SK204J 出土遺物

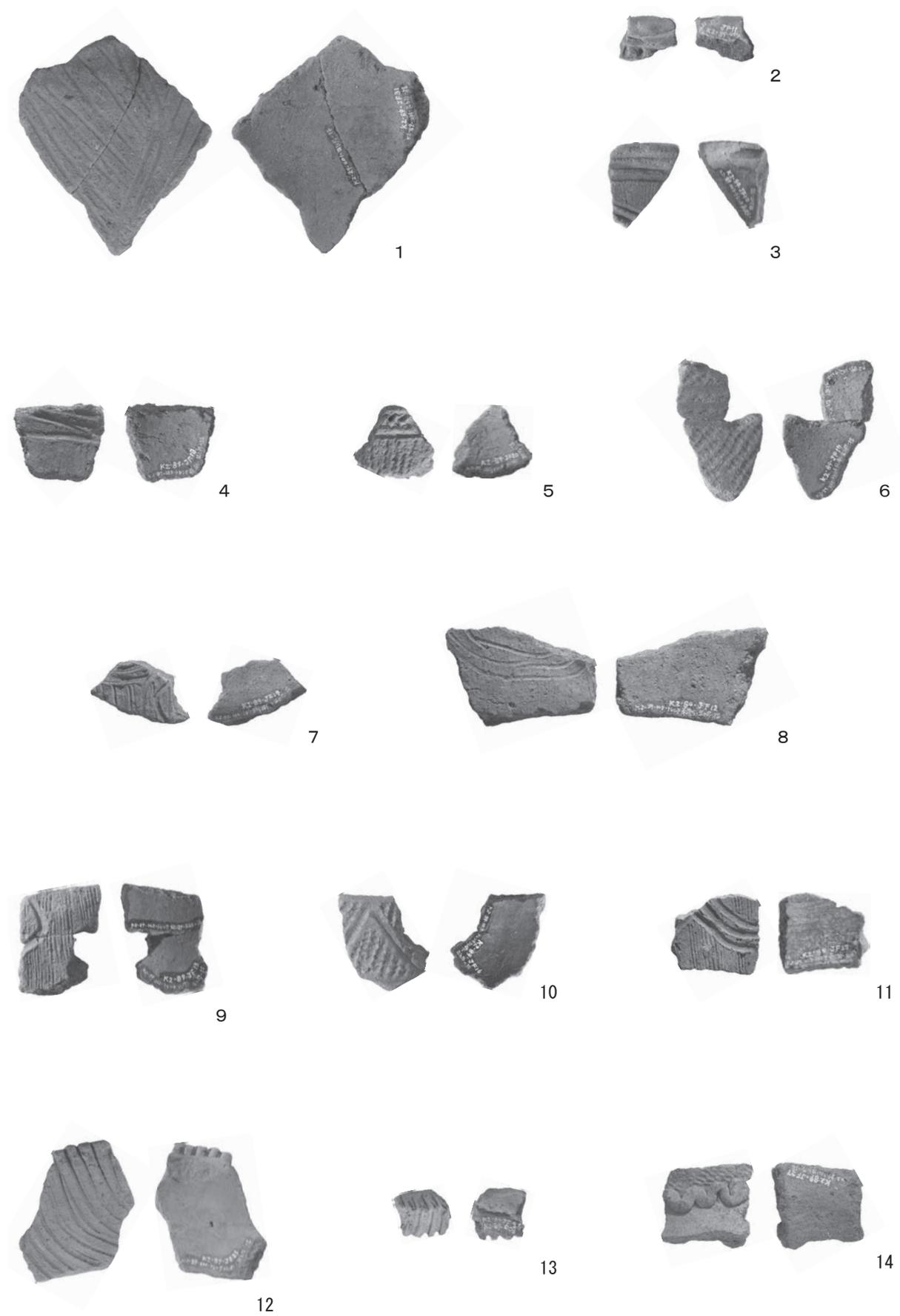


第54図 出土遺物写真1



第55図 出土遺物写真2

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）



第56図 出土遺物写真3



第57図 出土遺物写真4

（5）花沢東遺跡第13次

所在地	国分寺市南町3-2681-14		
調査原因	個人宅造		
調査期間	平成24年2月6日～3月6日		
調査面積	64.08 m ²	遺物箱数	2箱
検出遺構	PJ-1～PJ-3・ST19・SR25		
主な遺物	石器・礫		
調査員	小野本・上敷領		



第58図 K54-13 調査地位置図

調査地は、花沢東遺跡（No.54）に該当する。花沢東遺跡は、国分寺崖線の両側を谷に区切られ舌状に突き出した先端部の武蔵野段丘面に位置する。この舌状に突き出した先端部はいくつかの小さなノッチが入りくみ、そこには湧水点を確認されている。遺跡範囲はこの舌状台地の東側にある都立殿ヶ谷戸庭園内を中心に西へと広がっている。隣接する武蔵野段丘面の遺跡には北に本町（国分寺村石器時代）遺跡、東に殿ヶ谷戸遺跡、西に多喜窪遺跡D地点がある。南の崖線下には立川段丘面に八幡前遺跡があり、野川源流域における旧石器時代から縄文時代までの遺跡が密集する地域である。

昭和56年の都営住宅建設に伴う調査（第1調査地点）は、本調査地の北東側で崖線際からやや離れた比較的平坦な台地上に位置する。5,663 m²が調査され、IV層（立川ローム第III層）から第X層までのあいだに7枚の文化層が確認された。特にV層（立川ローム第IV層）下部からVI層（立川ローム第V層）上部にかけて分布する第3・4文化層において石器集中地点9箇所、礫群10箇所が検出され、黒曜石とチャートを主要石材とするナイフ形石器、角錐状石器、スクレイパー、彫器、石器等多様な石器群が出土し野川源流域における最も人類活動が盛んな時期を明らかにした。また、第7文化層（立川ローム第X層）からは局部磨製石斧が出土し、後期旧石器時代末の標式遺跡として知られるようになった。平成6年度第5次調査は、第1調査地点の南側に隣接する地点に位置する。39 m²が調査され、IV層中から礫群1箇所が検出され、チャートを石材とする槍先形尖頭器1点が出土した。第6次調査は本調査地の南側で崖線際の傾斜面に位置する。39 m²が調査され、IV層下部からチャートを主要石材とした石器集中地点1箇所と、石錐1点と石核2点が出検された。平成12年度第7次調査は本調査地の西側で、崖線際に近い傾斜面に位置する。341 m²が調査され、IV層下部から石器集中地点1箇所、礫群6箇所が検出された。ナイフ形石器、彫器、石核、台石、敲石等が出土した。以上のように花沢東遺跡はIV層下部からV層上部に遺構・遺物が集中することが知られていた。

本調査地は遺跡中心より外れた南側に当たり、崖線際からやや離れた比較的平坦な台地上に位置する。調査は3×3 mのトレンチを4箇所設定し、遺構・遺物の検出状況に応じて拡張やローム層の掘削を行うものとした。縄文時代の遺構は第III層上面でA・C・Dトレンチよりピットを1基ずつ検出したが、遺物は出土しなかった。旧石器時代の調査は、A・B・Cトレンチにおいてローム層の調査を行った。その結果Aトレンチにおいて、IV層上面より石器及び礫が出土し始めた。遺物の出土状況から分布の範囲がトレンチの北西側に広がることが予測された。

ことから、事業者の了解を得てトレンチの北西を約4.7 m²拡張した。遺物はV a層の下位（立川ローム第IV層下部）に集中し、礫群と石器集中地点を1箇所ずつ検出した。礫群は東西約0.9 m、南北約0.5 mの範囲に礫が集中し、いずれもよく被熱している。石器集中地点は東西約1.8 m、南北約2 mの範囲を測る。その位置関係は、石器集中地点の南東側に礫群がほぼ同一面上で、石器が北西方向に向かって広がるように見える。実際の規模はもう少し西側の隣地境界を越えて広がるものと推測される。なお、BトレンチはV a層の下位まで、CトレンチはX層（立川ローム第X層）まで掘削したが、遺構・遺物共に検出されなかった。

出土した遺物の総点数は123点である。その内石器は94点、礫は29点である。石器はナイフ形石器が1点（第71図4）、石核が3点（第71図1～3）、調整痕の見られる剥片が1点（第71図5）あり、その他は縦長剥片と不定形な剥片である。ナイフ形石器は黒色頁岩を石材としており、丁寧な二側縁加工を施した細身の茂呂型である。縦長剥片に分類したが第71図5は打面を除去し、両側縁に微調整を施して尖頭状に仕上げられており、調整剥片とも考えられる。

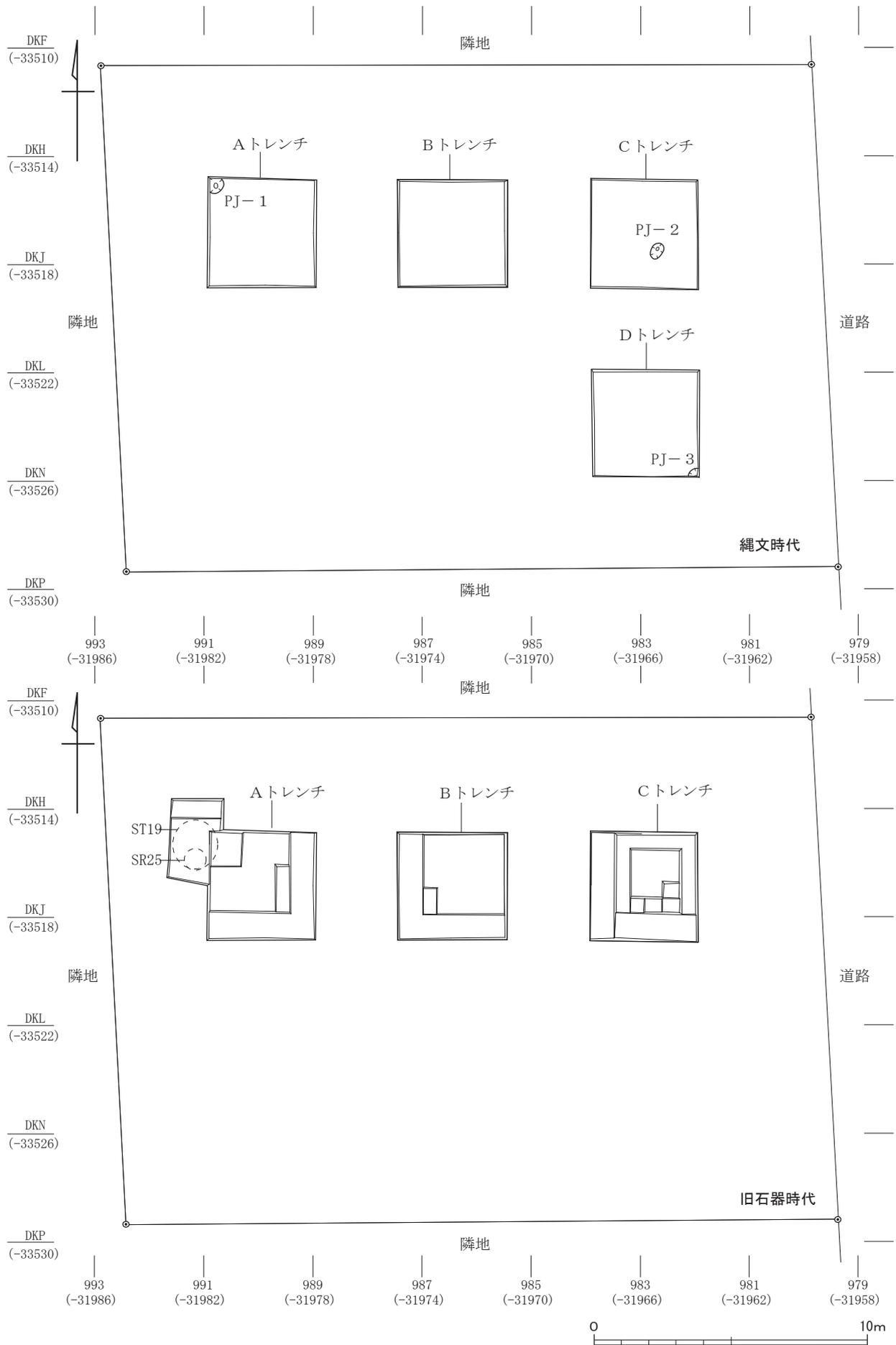
接合状況はチャートを石材とした石核を中心に縦長剥片が14点接合した（第71図1）。剥片剥離の状況は、上端を小口側から剥離し打面を整形した後、長さ5～6 cm、幅1 cm、厚さ0.5 cm程度のやや分厚い縦長剥片を連続して剥離する。ある程度剥離が進んだ後打面を転移し、下端に打面調整を加え、同様に縦長剥片を剥離する。接合によって復元された原石の形状は角礫を呈する。その他の石核と剥片の接合例はチャートを石材とした隅丸方形のやや薄い石核の上端に不定形の剥片が接合し（第71図2）、復元された原石の形状は楕円礫を呈すると考えられる。自然面を持つ黒色頁岩を石材とした縦長の石核の上端に不定形の剥片が接合し（第71図3）、復元された原石の形状は角礫を呈すると考えられる。

剥片の形態を観察すると、接合した縦長剥片のように狭長でやや分厚い剥片（第71図1）と、不定形でやや横長の剥片（第71図6・第72図1・3・4）と、やや寸詰まりの縦長剥片（第72図2・5～7）、先端部が尖頭状の剥片（第72図8）がある。母岩別分類は、この3点（第71図1～3）の接合状況から、当該石器集中地点には少なくともチャート2個体と黒色頁岩1個体の母岩を持つ石器製作の痕跡を認めることができる。

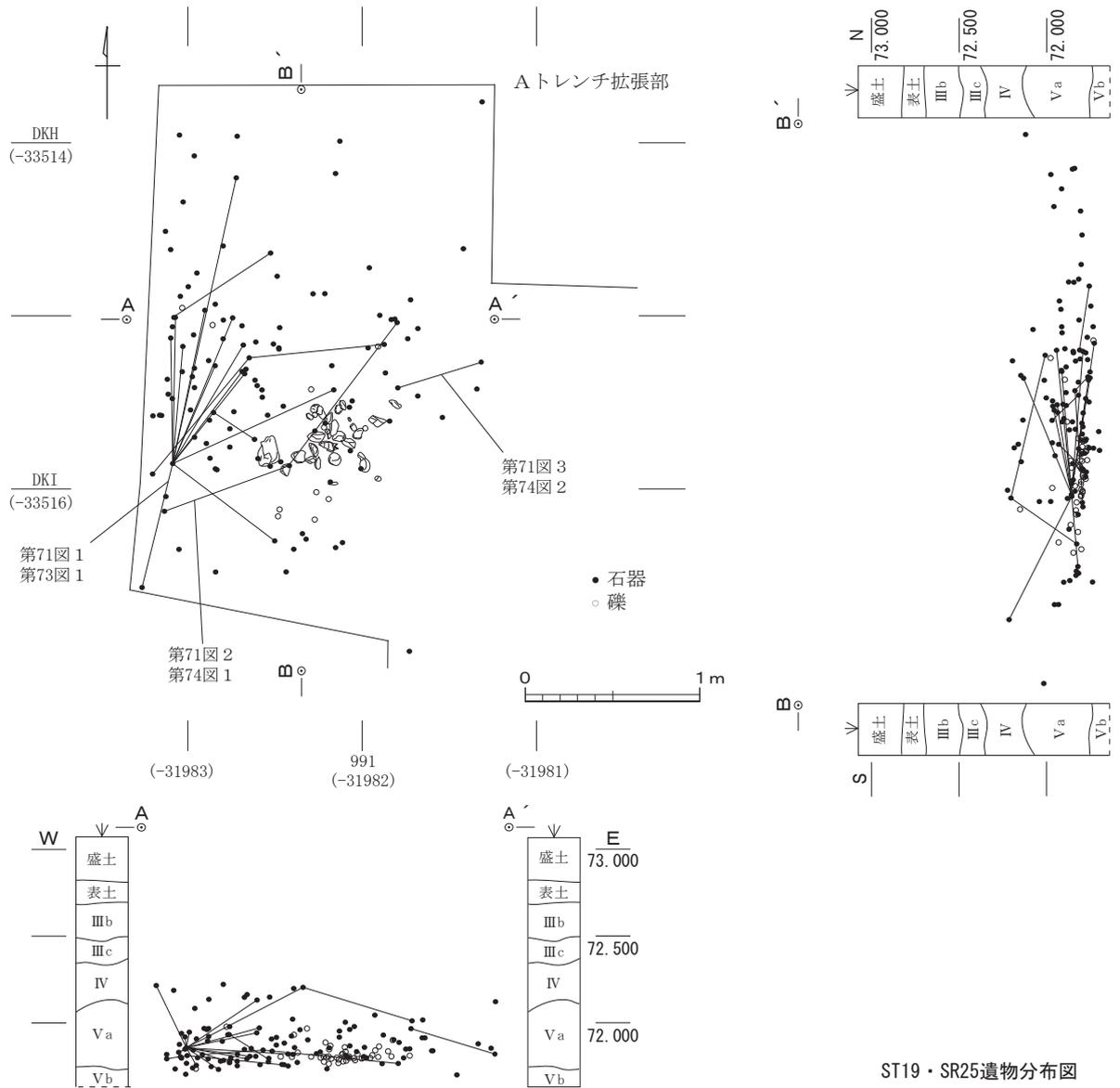
調査面積の問題から単純な比較はできないが、第1調査地点の調査では角錐状石器や彫器等の多様な石器が出土していたのに対し、石器集中地点の規模や剥片の数に比してナイフ形石器等の典型的な製品が少ないことも特徴的である。今次調査区で製作された製品は遺跡外に持ち込まれたものと考えられよう。

野川源流域における旧石器時代遺跡のあり方は、国分寺崖線の上面際である武蔵野段丘面及び崖線を深く切り込んだ谷の縁辺部に数多く立地しており、さらに湧水点の分布にも制約を受けていると考えられている。そうした地理的背景の中で花沢東遺跡は、多摩蘭坂遺跡とともに複数の層位にまたがって文化層が重なる重層遺跡として知られてきた。今次調査においては開発計画の状況から調査地点全てをX層まで調査するには至らず、Aトレンチの下層の状況は明らかではない。しかしながら、B・Cトレンチからは1点の礫、石器も出土しなかったことから見ると当該地区の西側に更なる石器集中地点が広がることが推測されよう。今次調査で検出された石器製作跡と考えられる遺構群と出土石器は、従来から言われてきた花沢東遺跡の中心的な文化層がV層（立川ローム第IV層）中にあることに、新たな資料を追加したことになった。

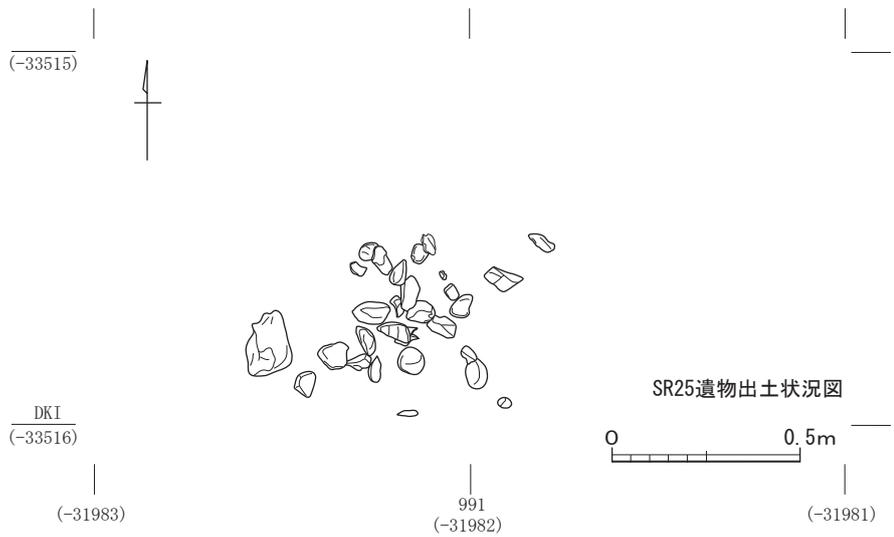
第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）



第59図 K 54 - 13 調査区平面図 (1 / 200)



ST19・SR25遺物分布図



SR25遺物出土状況図

第60図 遺物出土状況図 (1/40, 1/20)



第61図 Aトレンチ全景（南から）



第62図 Bトレンチ全景（西から）



第63図 Cトレンチ全景（南から）



第64図 調査前風景A・B・Cトレンチ（東から）



第65図 調査前風景C・Dトレンチ（北から）



第66図 Aトレンチ石器出土状況（南東から）



第68図 Aトレンチ拡張部全景（東から）



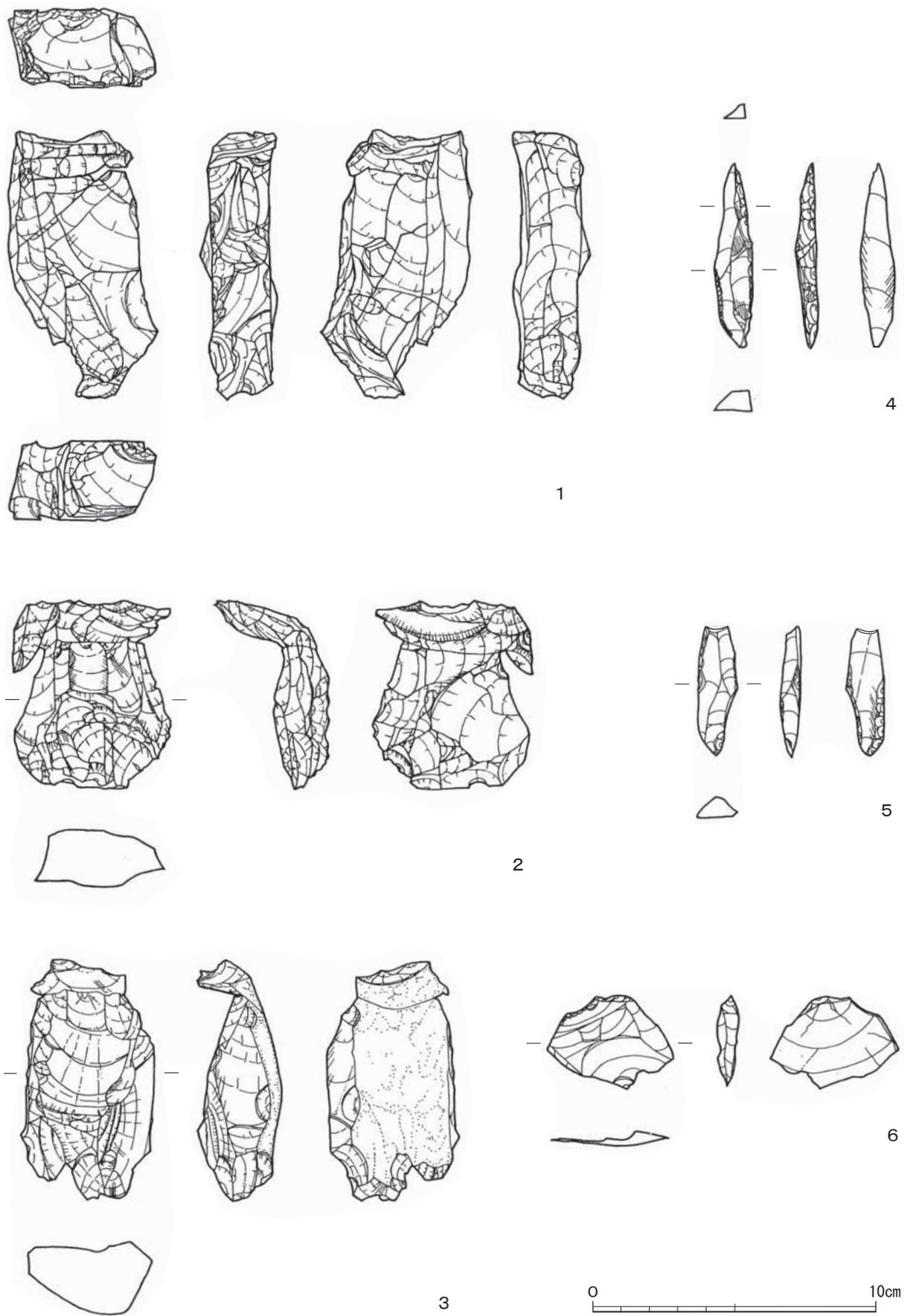
第67図 Aトレンチ石器出土状況（東から）



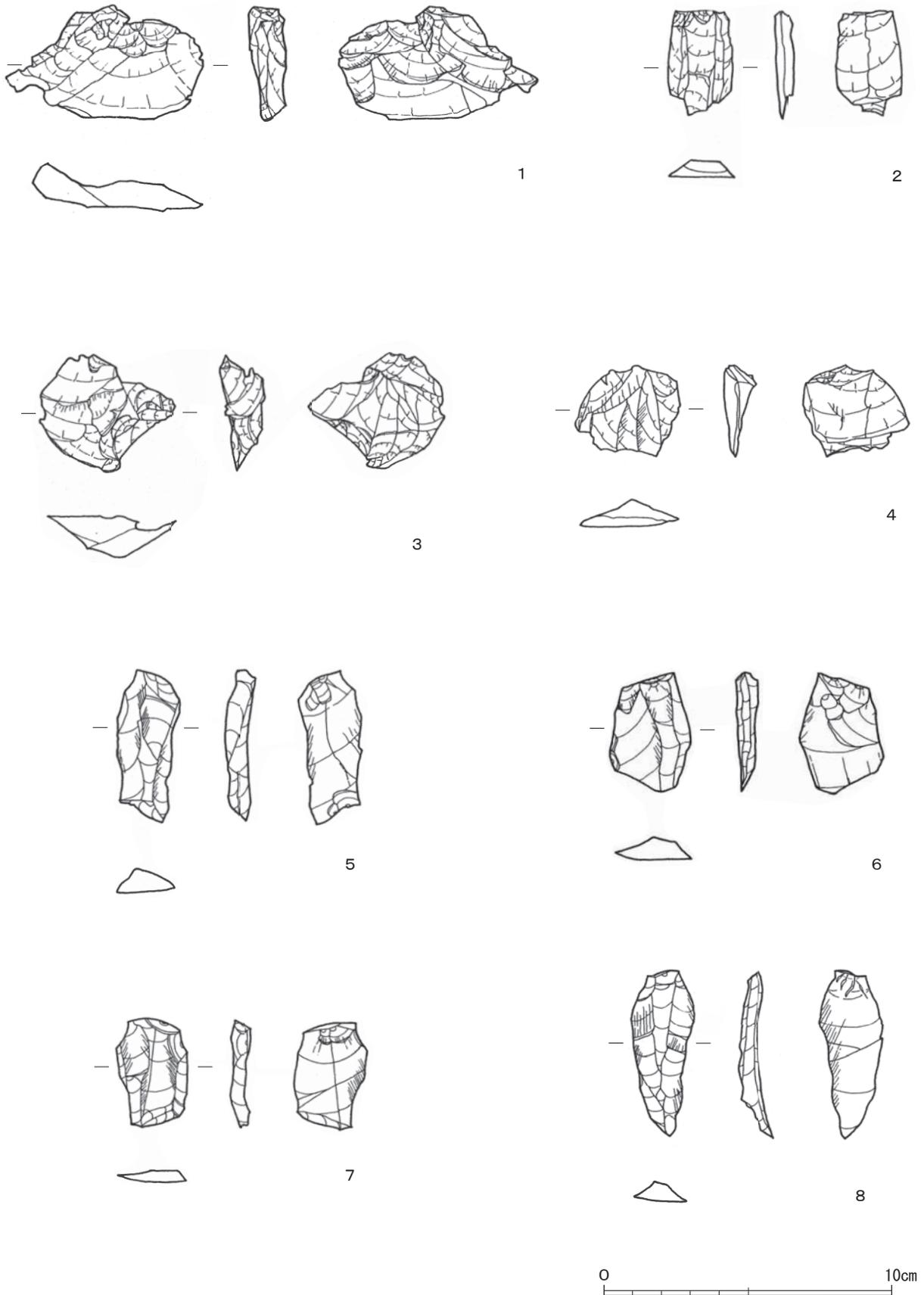
第69図 Aトレンチ拡張部礫群出土状況（東から）



第70図 Aトレンチ拡張部礫群出土状況（北から）



第71図 出土遺物実測図1（1／2）



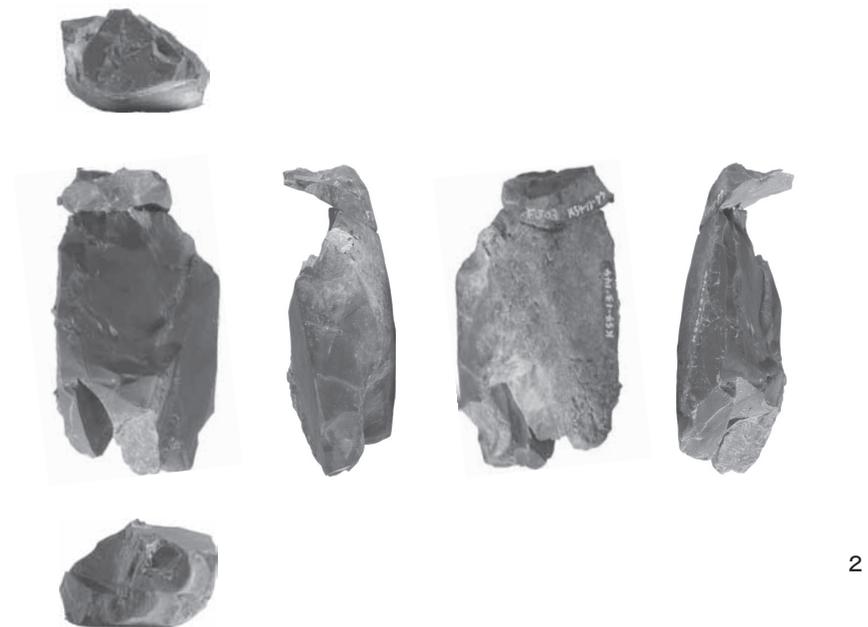
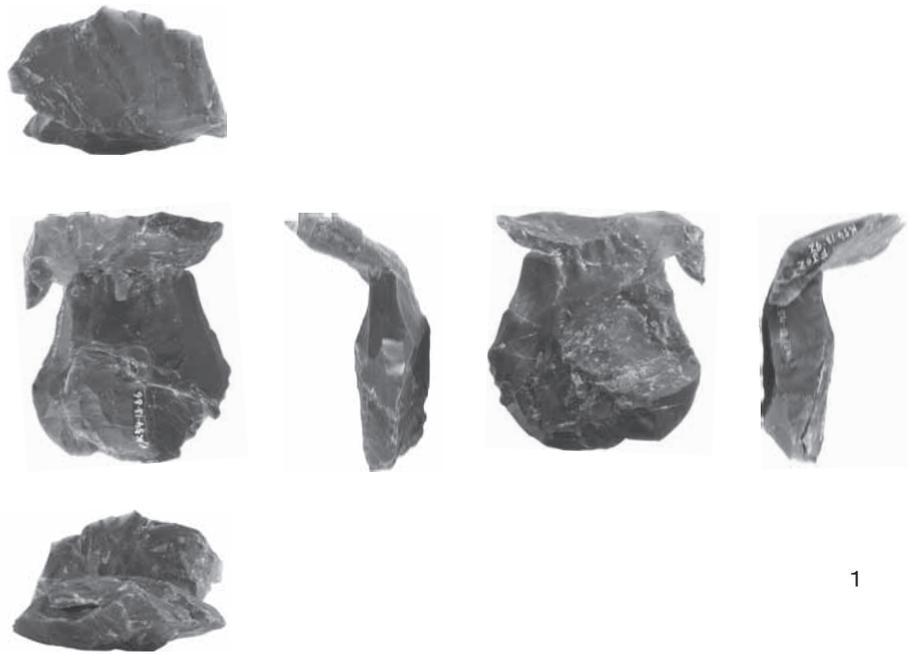
第72図 出土遺物実測図2 (1/2)

第11表 K54-13 遺物観察表（石器）

図面 図版	遺物 番号	種別 細分類	出土 位置	最大 長 (cm)	最大 幅 (cm)	最大 厚 (cm)	重量 (g)	残存 状態	石材	備考
第71図1 第73図1	FJ01	石核	V a層 ST19	9.6	5.2	2.8	145.1	—	チャート	石核を中心に縦長剥片・不定形剥片が14点接合。
第71図2 第74図1	FJ02	石核	V a層 ST19	6.8	5.5	2.0	90.6	—	チャート	不定形剥片と石核の2点が接合。
第71図3 第74図2	FJ03	石核	V a層 ST19	8.5	4.7	3.0	112.8	—	チャート	自然面を残す石核と剥片の2点が接合。
第71図4 第73図2	FA01	ナイフ 形石器	V a層 ST19	6.6	0.8	1.3	6.0	完形	黒色頁岩	二側縁加工の茂呂型。 FJ03と同一母岩か。
第71図5 第75図1	FL01	縦長 剥片	V a層 ST19	4.5	1.4	0.8	4.9	完形	チャート	打面を除去し、両側縁に微調整を加え、尖頭状に仕上げる。 FJ01と同一母岩か。
第71図6 第75図2	FL02	不定形 剥片	V a層 ST19	3.3	4.4	0.8	8.3	完形	チャート	横長の不定形剥片。打面は点打面。 FJ01と同一母岩か。
第72図1 第75図3	FL03	剥片	V a層 ST19	4.0	6.8	1.7	26.6	—	チャート	不定形剥片と縦長剥片の2点が接合。 FJ02と同一母岩か。
第72図2 第75図4	FL05	剥片	V a層 ST19	4.8	2.3	0.6	5.7	—	チャート	縦長剥片2点が接合する。連続して縦長剥片が剥離される。 FJ02と同一母岩か。
第72図3 第75図5	FL04	剥片	V a層 ST19	4.2	4.7	1.6	20.0	—	チャート	不定形剥片3点が接合する。 FJ02と同一母岩か。
第72図4 第75図6	FL06	剥片	V a層 ST19	3.2	3.5	1.2	8.3	—	チャート	巾広の横長剥片2点が接合。 FJ02と同一母岩か。
第72図5 第75図7	FL07	剥片	V a層 ST19	5.4	2.2	1.0	10.6	完形	チャート	打面単剥離の縦長剥片。 FJ02と同一母岩か。
第72図6 第75図8	FL08	縦長 剥片	V a層 ST19	4.2	2.9	0.8	9.4	完形	チャート	打面単剥離の寸詰まりの縦長剥片。 FJ02と同一母岩か。
第72図7 第75図9	FL09	縦長 剥片	V a層 ST19	3.7	2.5	0.6	6.9	完形	チャート	打面単剥離のやや巾広で寸詰まりの縦長剥片。 FJ02と同一母岩か。
第72図8 第75図10	FL10	縦長 剥片	V a層 ST19	5.8	2.2	0.8	8.9	完形	チャート	縦長剥片。先端部が尖る。

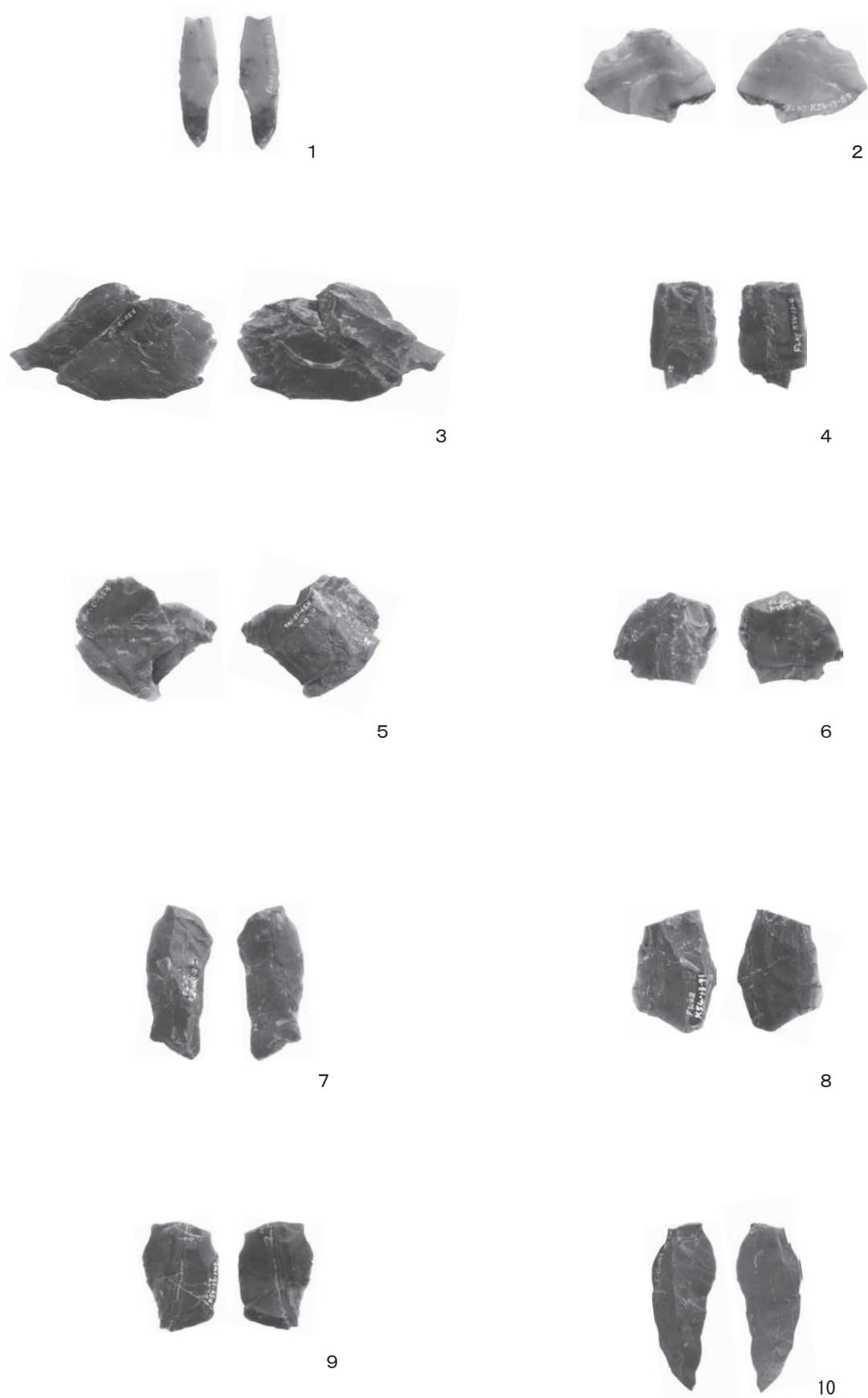


第73図 出土遺物写真1



第74図 出土遺物写真2

第2章第1節 本発掘調査（個人宅造）

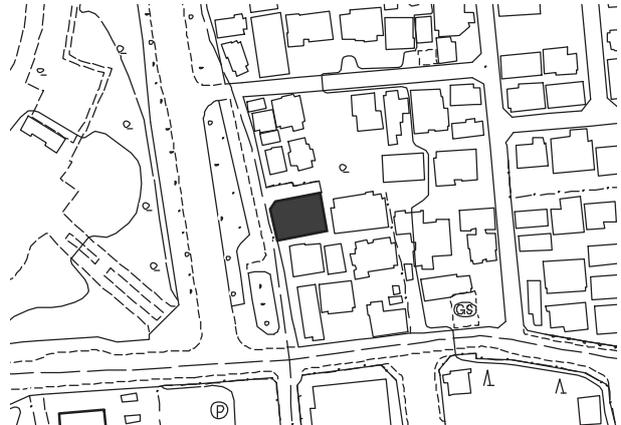


第75図 出土遺物写真3

第 2 節 確認調査

(1) 武蔵国分寺跡第 670 次

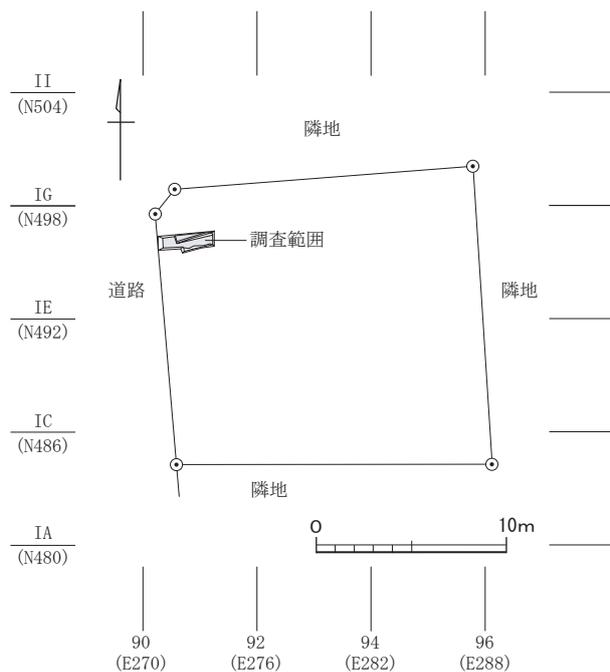
所在地	国分寺市泉町 1-8-8		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 23 年 5 月 9 日		
調査面積	2.45 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第 76 図 MK I - 670 調査地位置図

調査地は、武蔵国分寺跡 (No. 19) に該当する。周辺の調査状況からは、遺構の密集度はやや低いと予想されたが、当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代にあたる複数の遺構や遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として確認調査を行った。

調査区内はほぼ既設の下水管埋設時の埋め土の範囲にかかっており、掘削底面まで盛土に覆われており、遺構は検出されなかった。また、遺物も出土しなかった。



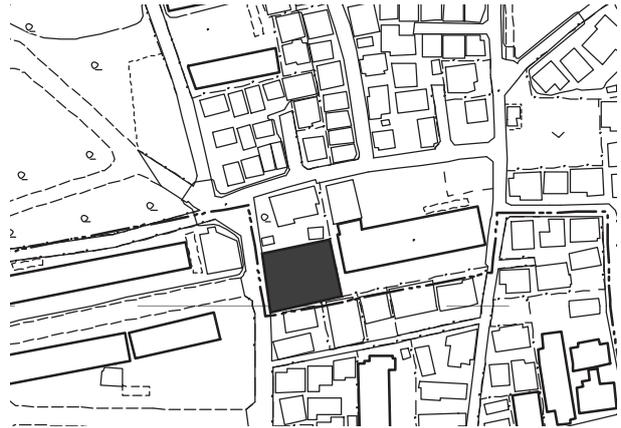
第 77 図 MK I - 670 調査区全体図 (1 / 400)



第 78 図 調査区全景 (東から)

(2) 武蔵国分寺跡第671次

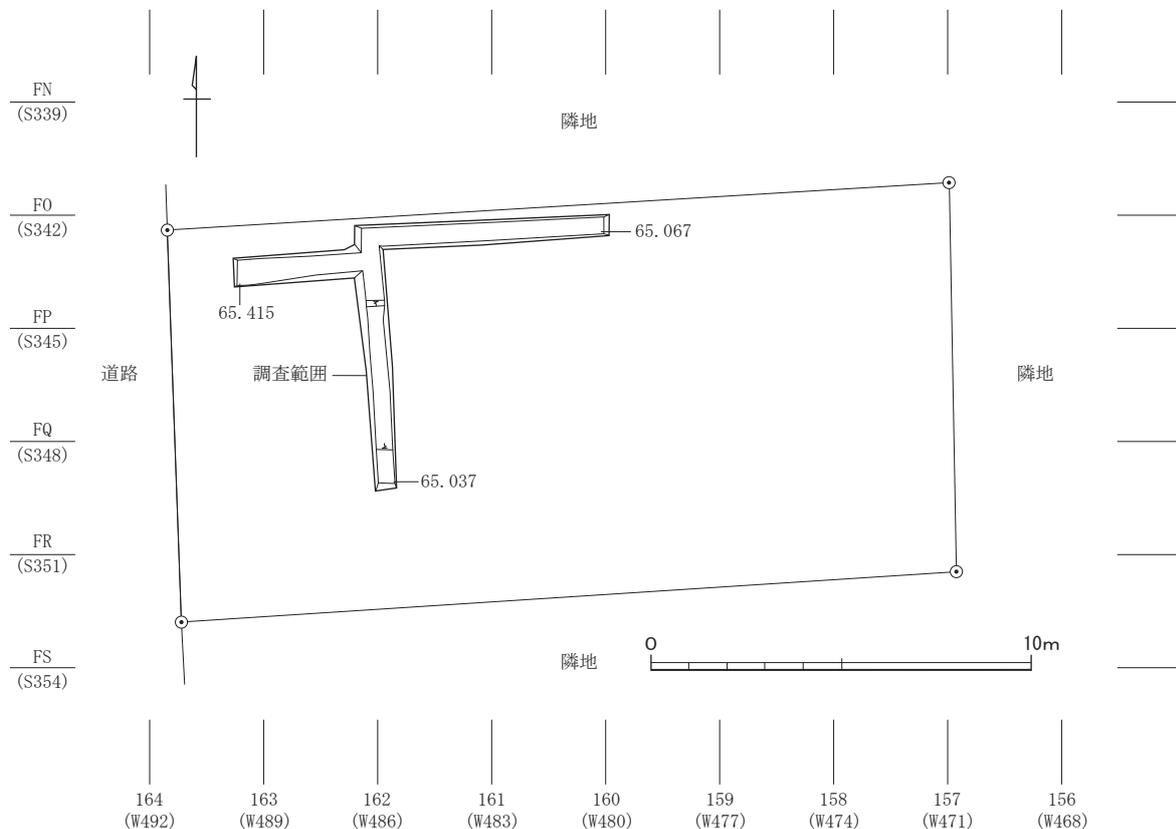
所在地	国分寺市西元町4-6-6		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成23年6月23日～6月24日		
調査面積	7.80 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第79図 MKⅢ-671 調査地位置図

調査地は、武蔵国分寺跡 (No.19) に該当する。市域の南西隅にあたり、南と西は府中市に隣接している。当該地は、武蔵国分寺跡 (尼寺) の伽藍地南西区画溝から約50m南西に位置しており、さらに伝鎌倉街道から約50m西にあたり、周辺では中世の遺構・遺物が発見されている。

調査地に隣接する東側では、都営住宅西元町団地建設に伴って本調査が行われており (第401次調査)、推定鎌倉街道の礫敷面のほか、古代の竪穴建物15棟や溝8条など、遺構・遺物ともに多数確認されている。また縄文時代は落とし穴や土坑が見られた (国分寺市遺跡調査会1999『武蔵国分寺跡発掘調査概報XⅢ』)。さらに、調査地の北約30mに位置する場所では、



第80図 MKⅢ-671 調査地全体図 (1 / 200)

1991 年・1993 年に相次いで調査が行われ（第 363・384 次調査）、未報告で詳細は不明であるが、9 世紀後半から 10 世紀前半代に位置づけられている竪穴建物 14 棟や土坑など、また縄文時代の遺構が確認されている。この第 363 次の南面道路で、調査地の北約 20 m の東西道路では公共下水道整備に伴って、尼寺西・南方地区の調査を 42 か所で行っている（国分寺市遺跡調査会 1996『(同) XX I』）。この調査では、古代の竪穴建物や溝、土坑などが小規模面積ながら多数確認された。

また、調査地の南側の府中市域は国府国分寺中間地域にあたり、都市計画道路建設に伴う調査によって 8 世紀後半から 9 世紀初頭の集落跡や粘土採掘跡、古代や中世の土坑、道路遺構が検出されている。

このように、既往調査を概観すると、古代の中でも 9 世紀後半が主体の時期となること、また、予定掘削深度が古代・中世の遺物包含層であるⅡ層内におさまることが想定されたことから、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として確認調査を行った。その結果、現地表面から約 70cm 掘り下げたところでⅡ層を確認したが、遺構は検出されなかった。遺物は、磨滅の激しい古代の瓦が 1 点出土した。なお、縄文土器の出土は見られなかったが、既往調査から当該地にも縄文時代の遺構が遺存する可能性はあると考えられる。



第 81 図 調査地全景（東から）



第 82 図 調査区土層断面（南から）



第 83 図 調査区北部（西から）



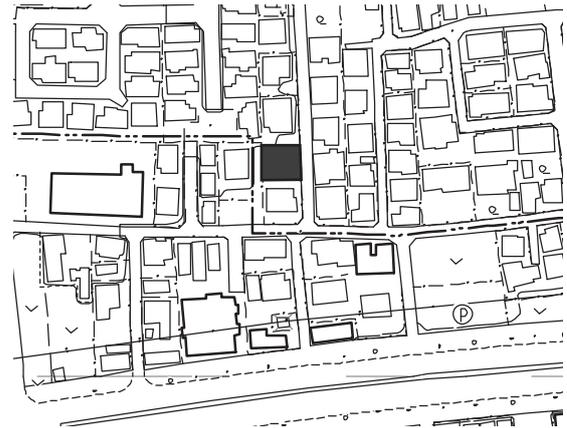
第 84 図 調査区西部（西から）



第 85 図 調査区南部（北から）

(3) 武蔵国分寺跡第674次

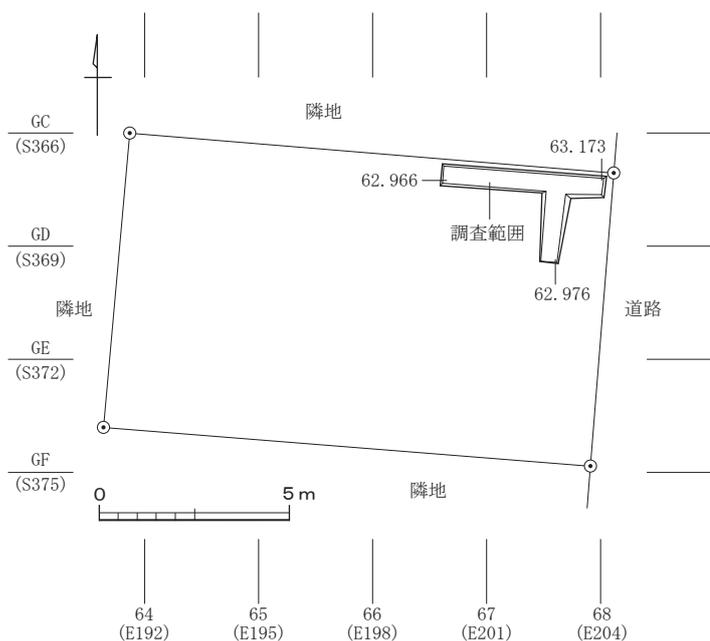
所在地	国分寺市西元町3-1897-8・9・10		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成24年1月30日		
調査面積	2.81 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第86図 MK II-674 調査地位置図

調査地は、武蔵国分寺跡（僧寺）の寺院地南辺区画溝から約50m南に位置し、調査地の西は府中市に隣接する。

当該地は、旧石器・縄文・奈良・平安時代等の遺構・遺物が存在する可能性があるため、給排水管の埋設によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として確認調査を行った。その結果、現地表面から約60cm下でⅢb層を確認したが、調査区内には遺構は存在せず、遺物も出土しなかった。



第87図 MK II-674 調査地全体図 (1/200)



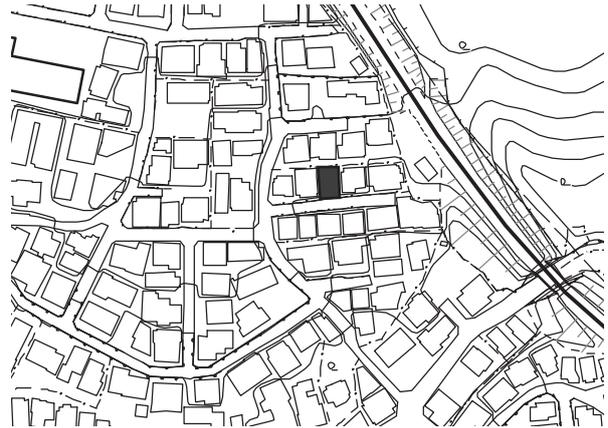
第88図 調査区全景（東から）



第89図 調査区南部（北から）

(4) 恋ヶ窪遺跡第 90 次

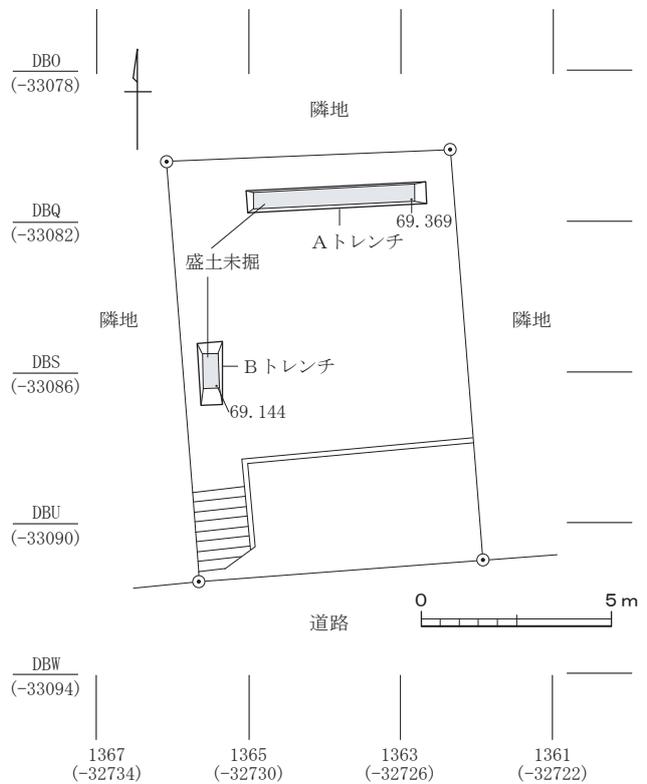
所在地	国分寺市西恋ヶ窪 1 - 1282 - 28		
調査原因	分譲住宅建設		
調査期間	平成 23 年 9 月 5 日～9 月 6 日		
調査面積	3.77 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	寺前		



第 90 図 K 2 - 90 調査地位置図

調査地は、恋ヶ窪遺跡 (No.2) に該当する。当該地は南に向かう急な斜面 (国分寺崖線) 上に位置し、旧石器・縄文時代の遺構が遺存する可能性があったため、建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲の一部を対象として、確認調査を行った。

現況はひな壇状に造成され、前面道路とも高低差が約 1.5 m 認められた。このうち、ひな壇の上段面を調査対象地としたが、南傾斜地のため南側は盛土が厚いと想定し、敷地の北に調査区を設定した。その結果、最深で 1.1 m まで掘削したが、すべて盛土内におさまっていたことが確認された。ただし、自然堆積層までは掘削が及ばなかったため、盛土下に遺構面が遺存する可能性がある。遺物の出土はなかった。



第 91 図 K 2 - 90 調査地全体図 (1 / 200)



第 92 図 A トレンチ完掘状況 (南西から)



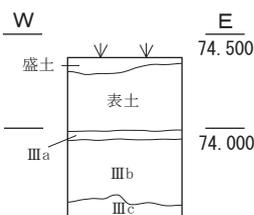
第 93 図 B トレンチ完掘状況 (北東から)

(5) 花沢西遺跡第22次

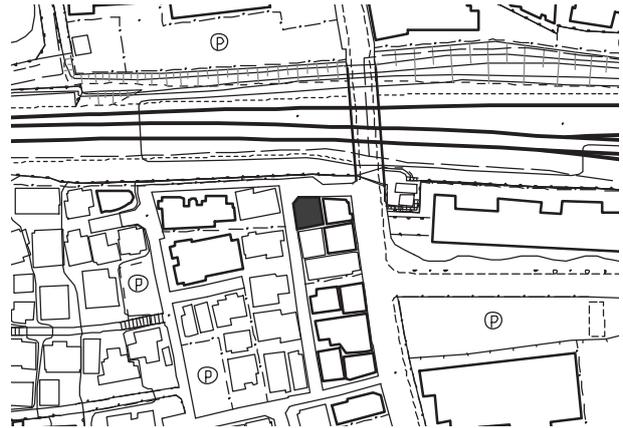
所在地	国分寺市南町3-28-12		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成24年2月1日～2月9日		
調査面積	12.60 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	SK29J		
主な遺物	縄文土器		
調査員	小野本・上敷領		

調査地は、花沢西遺跡（No.8）に該当する。花沢西遺跡（No.8）は武蔵野段丘の本多面に位置しており、JR国分寺駅の西側一帯に展開する。遺跡範囲はJR中央線によって南北に分断され、調査地は線路南側の東寄りに位置する。調査地北西には羽根沢遺跡にある日立中央研究所があり、その敷地内から流れ出る湧水は野川へと流れる。第18次調査では、後期旧石器時代の石器が多数出土している。北に位置する恋ヶ窪東遺跡からは、縄文時代中期後半から後期初頭にかけての集落が確認されている。花沢西遺跡は縄文時代中期が中心であるが、さんや谷を挟んで向かいの恋ヶ窪遺跡や羽根沢遺跡、北側の恋ヶ窪東遺跡に比べ遺構の分布密度は低い。

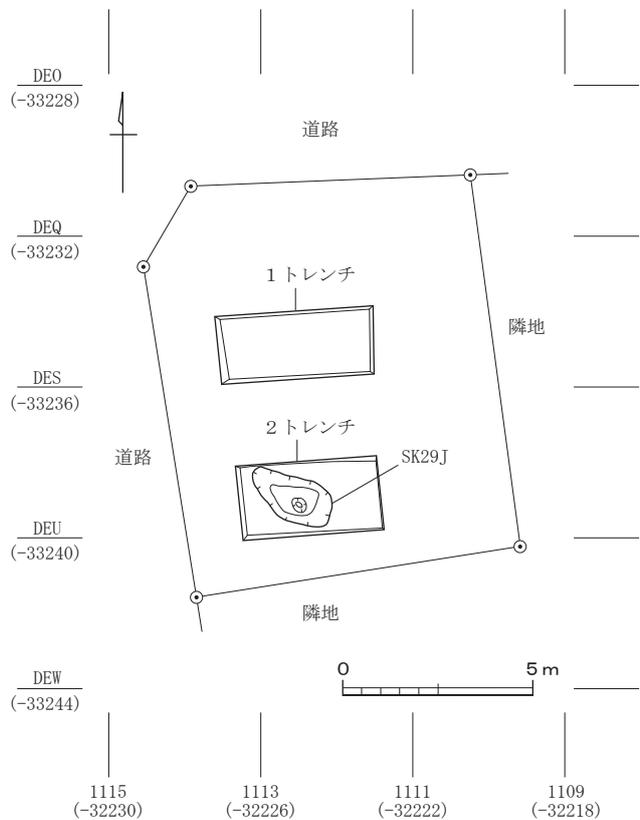
これまで21次にわたって調査が行われ、その大部分が未報告であるが、旧石器時代は礫群や石器集中部、縄文時代は中期を中心に竪穴住居や集石遺構などが確認されている（国分寺市遺跡調査会2007『花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ』）。



第96図 K8-22調査区
土層柱状図

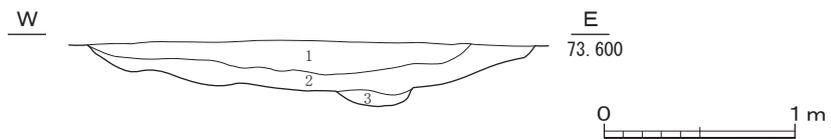


第94図 K8-22調査地位置図



第95図 K8-22調査地全体図（1/200）

SK29J北壁断面



- 1 黒褐色10YR2/2 赤色スコリア・ローム細粒を極微量含む。IIIb層に類似。しまり強い。粘性有り。
- 2 暗褐色7.5YR3/3 1層にIIIc層を4～5割混じる。しまりやや有り。粘性有り。
- 3 暗褐色7.5YR3/4 1層にIIIc層を7～8割混じる。しまり弱い。粘性有り。

第97図 SK29J北壁土層断面図（1/40）



第 98 図 調査地全景（北から）



第 99 図 No.2 トレンチ完掘状況（北西から）

このように調査地は、集落の周縁部の様相を示しているものの旧石器・縄文時代の遺構・遺物が遺存する可能性があるため、建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲の一部を対象として確認調査を行った。

その結果、現地表面から約 80cm 下の III c 層上面で遺構の確認を行い、No.2 トレンチで土坑 1 基 (SK29J) を検出した。SK29J は長軸 2.3 m の不整楕円形で、倒木等による自然のくぼみの可能性もある。この土坑内からは縄文時代中期中葉の勝坂式期の土製器台が、III b 層からは中期前葉の阿玉台式期の深鉢が出土している。



第 100 図 出土遺物実測図（1/3）

第 12 表 K8-22 遺物観察表（土器）

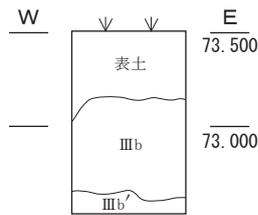
図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成形・整形の特徴	残存量	焼成 色調 胎土	備考
第 100 図 1 第 101 図 1	JE01	土製 器台	SK29J	— (2.8) (8.6)	欠損部が多く、全容不明。	透かし孔が入り、全体に丁寧なナデ。	1/4 弱	焼成良好。赤褐色。胎土は緻密。	勝坂式期
第 100 図 2 第 101 図 2	JE02	深鉢	III b 層	— (4.0) —	欠損部が多く、全容不明。頸部内面が「く」の字状に外反する。	口縁部下に結節沈線を 1 条廻らす。口唇部に刻目を施す。胴部にかけて、斜位の結節沈線を施す。	口縁部	焼成不良。茶褐色。胎土は粗く、2mm 大の小石と金雲母を多量に含む。	阿玉台式期



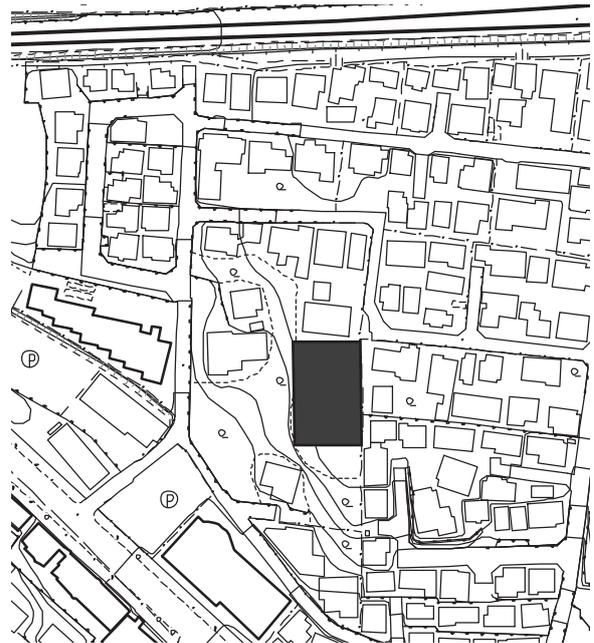
第 101 図 出土遺物写真

(6) 殿ヶ谷戸北遺跡第3次

所在地	国分寺市南町1-309-1の一部外		
調査原因	宅地造成		
調査期間	平成24年2月13日～2月20日		
調査面積	19.84 m ²	遺物箱数	1箱
検出遺構	なし		
主な遺物	縄文土器・石器		
調査員	上敷領		



第103図 K20-3
調査区土層柱状図



第102図 K20-3調査地位置図

調査地は、殿ヶ谷戸北遺跡（No. 20 遺跡）に該当する。殿ヶ谷戸北遺跡は、No. 29 遺跡と東京経済大学構内遺跡（No. 53）に隣接し、本多谷をはさみ殿ヶ谷戸遺跡の北段丘面に立地する。これまでに2次にわたる調査が行われている。

第1次調査は、民間開発に伴う本発掘調査で未報告であるが、調査地の南東約50mに位置し、旧石器時代の礫群、縄文時代の集石遺構が確認されている。第2次調査は平成18年に行われたもので、調査地の北約50mに位置する。この調査では約35m²を発掘し、旧石器(チャートの縦長剥片)を1点確認している(『平成20年度埋蔵文化財調査年報』)。

本遺跡では、これまでに縄文時代の目立った出土はないが、国分寺崖線上下を取り込む、東西にわたる遺跡を見渡すと縄文時代の集石や土坑、竪穴建物等



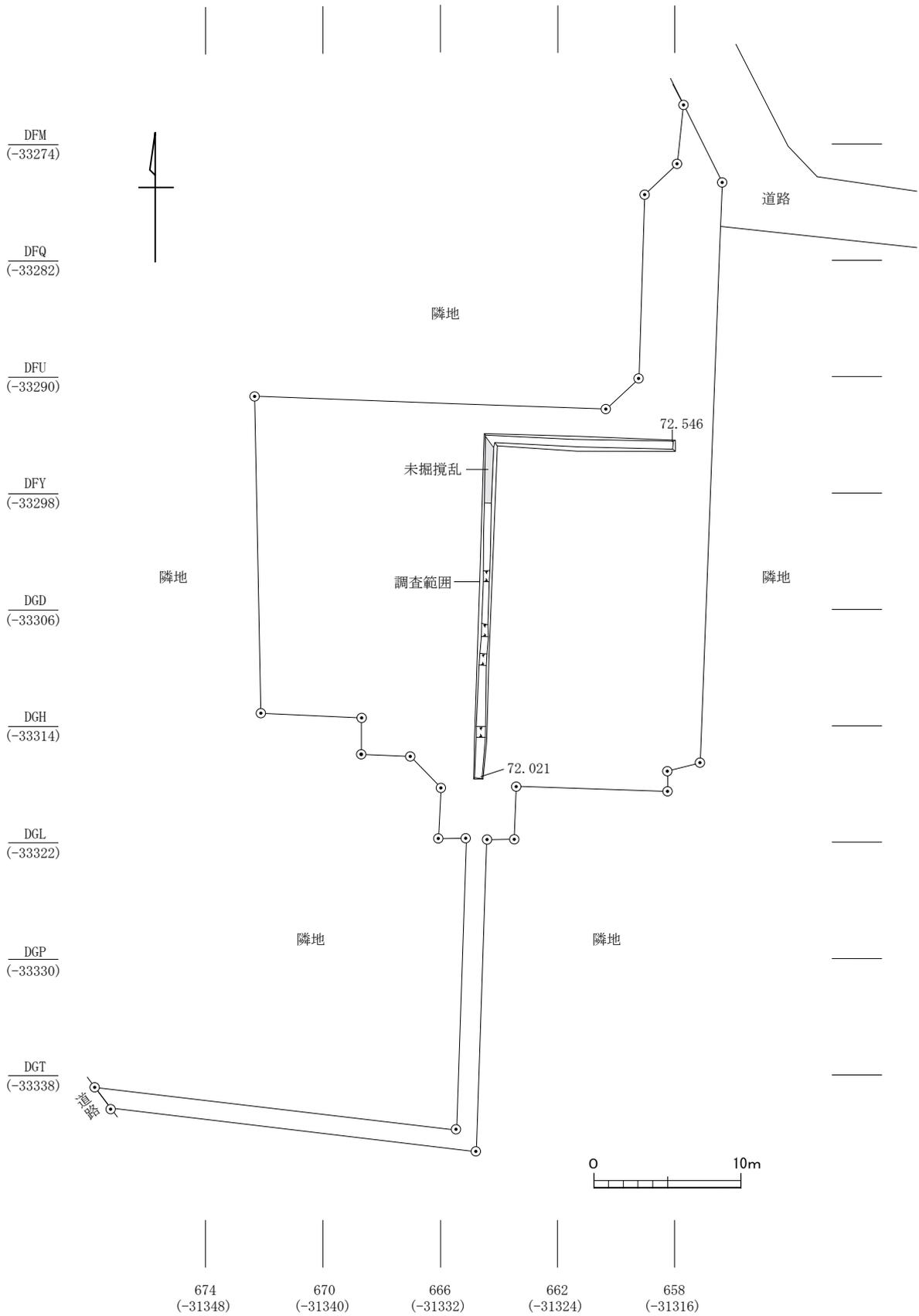
第104図 調査区全景（西から）



第105図 遺物出土状況1（西から）



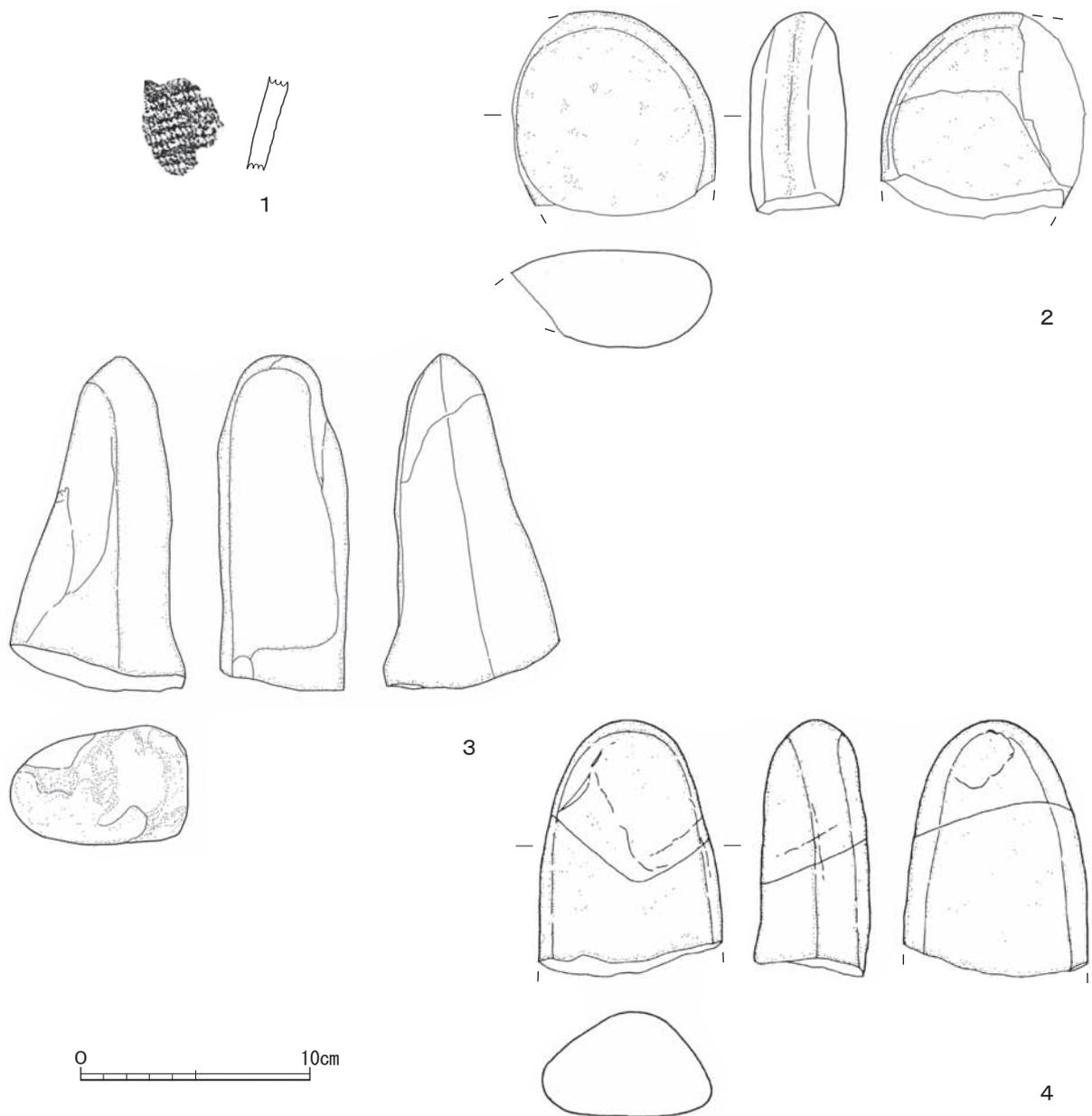
第106図 遺物出土状況2（西から）



第107図 K20-3調査地全体図(1/400)

が検出されていることから、位置指定道路下に埋設される給排水管によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象に確認調査を行った。

調査地の南端は国分寺崖線による急な斜面となり、調査地のほとんどはこれに続く緩やかな斜面上である。埋設による掘削であるため、この傾斜にかかわらず、深さ約1 m下まで調査を行った。その結果、地表面から一番浅いところで深さ約40 cm、平均すると深さ約60 cm下まで表土・盛土に覆われていたことから、その下の暗茶褐色土（Ⅲc層）、黄褐色土（Ⅳ層）において、縄文時代の遺構確認を行った。その結果、遺構は検出されなかったが、Ⅲb層より縄文時代早期と想定される土器片2点と磨石3点が出土した。出土した遺物は少量であったが、殿ヶ谷戸北遺跡の縄文時代の年代を知る上で貴重な資料を得た。なお、この遺構確認面より下は未調査であるため、当該地の旧石器時代の様相は不明である。



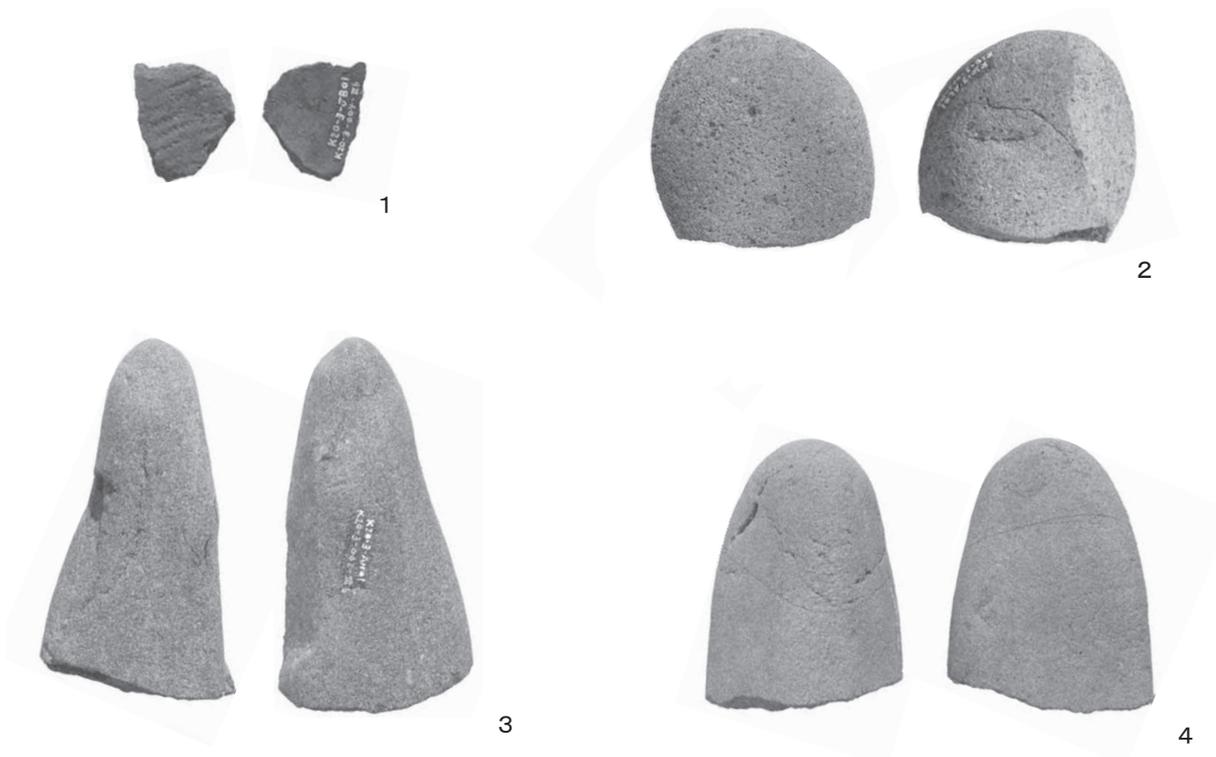
第108図 出土遺物実測図（1／3）

第13表 K20-3 遺物観察表(土器)

図面 図版	遺物 番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成形・整形 の特徴	残存量	焼成 色調 胎土	備考
第108図1 第109図1	JB01	深鉢	Ⅲb層	— (4.1) —	欠損部が多 く,全容不明。	撚糸文を施す。 内面調整は行 われていない。	胴部	焼成不良。赤褐色。 胎土は砂粒を多く 含む。	

第14表 K20-3 遺物観察表(石器)

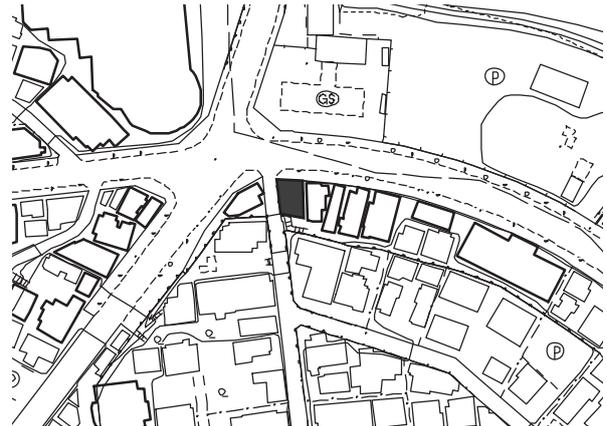
図面 図版	遺物 番号	種別 細分類	出土 位置	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存量 残存 状態	石材	備考
第108図2 第109図2	AL01	磨石	Ⅲb層	(8.9)	8.8	4.2	465.0	3/4	花崗岩	被熱による割れと ひび割れで一部欠 損。磨面は顕著で はない。
第108図3 第109図3	AN01	スタンプ 形石器 Ⅱ	Ⅲb層	14.7	7.6	5.8	800.0	完形	砂岩	磨面はあまり顕著 ではなく,右側面 に磨面を持つ。
第108図4 第109図4	AN02	スタンプ 形石器 Ⅲ-1	Ⅲb層	11.2	8.0	5.0	570.3	下部 欠損	砂岩	断面三角形。磨面 部が欠損してい る。



第109図 出土遺物写真

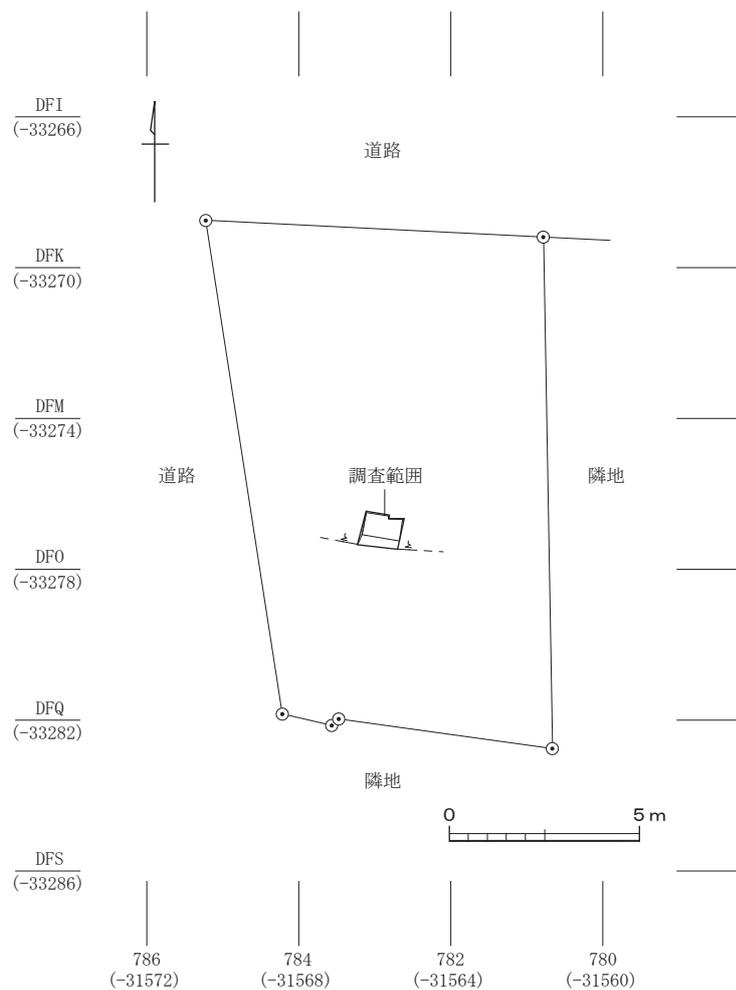
(7) 殿ヶ谷戸遺跡第13次

所在地	国分寺市南町二丁目 284 - 66		
調査原因	集合住宅建設		
調査期間	平成 23 年 4 月 25 日～ 4 月 26 日		
調査面積	0.90 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	なし		
調査員	小野本		



第110図 K 21 - 13 調査地位置図

調査地は、殿ヶ谷戸遺跡 (No. 21) に該当する。殿ヶ谷戸遺跡は北東へ延びる殿ヶ谷戸谷と北西へ延びる本多谷に挟まれ、南縁には野川が通る独立丘陵に立地する。遺跡範囲はその丘陵全体にわたり、その地形から以前は丸山 (円山) と呼ばれていた。現在の南町二丁目一帯に相当し、調査地は遺跡北端で北側へ降る斜面地に位置する (第110図)。



第111図 K 21 - 13 調査地全体図 (1 / 200)

殿ヶ谷戸遺跡はその発見が50年以上前にさかのぼり、これまでに様々な調査が行われている。遺跡の西部にあたる第12次調査地点の南約20mの地点 (南町2-4-8付近) では、昭和26年に本遺跡を貫く東西道路の切り通しによって露出したローム層中から剥片や石核が確認されている。また、この東西道路沿いでは、公共下水などに伴う調査では遺構が確認されなかったが、縄文時代の早期から後期にかけての土器が昭和30年頃に東西道路の広い範囲で採集されたことによって、台地全面を遺跡の範囲とした経緯がある。

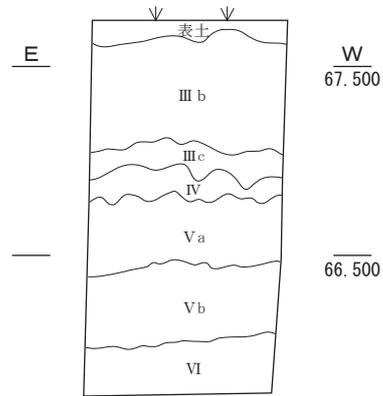
調査としてはこれまでに12次行われ、この5年ほどで急激に調査事例が増えた遺跡である。本調査地点から半径約100m内に位置する第2・4～9・

10・12次調査では、加曾利E2式期の竪穴建物や埋甕、土坑などが確認されている。

以上の状況から、調査地は旧石器・縄文時代の遺構や遺物が遺存する可能性があったため、建物基礎によって遺構に影響が及ぶ範囲を対象として、その一部の確認調査を行った。調査地は、ほぼ中央から北側を削平してひな壇状に造成され、断面にはすでに地山が露出している状態であったため、この部分を精査して土層の確認を行った(第112図)。その結果、当該地が北に向かって急激に傾斜し、遺構が存在する可能性が低いことが確認できた。また、遺物は出土しなかった。



第112図 調査区南壁断面(北から)



第113図 調査区南壁断面図(1/40)



第114図 調査地から近景を臨む(南から)



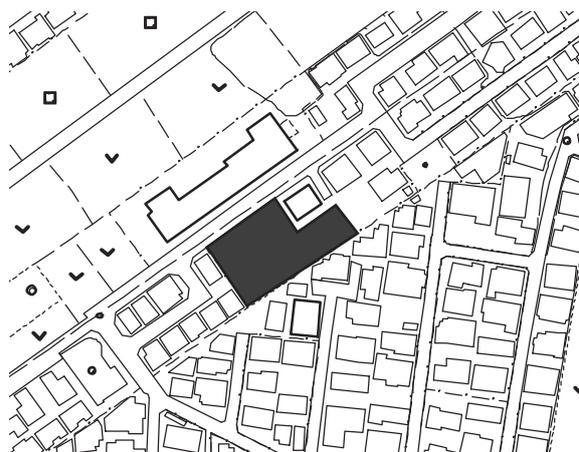
第115図 調査区近景(北から)

第3節 試掘調査

(1) 東恋ヶ窪6-23-2地点

(推定東山道武蔵路跡)

所在地	国分寺市東恋ヶ窪6-23-2		
調査原因	宅地造成・試掘		
調査期間	平成23年10月11日～10月19日		
調査面積	40.35 m ²	遺物箱数	なし
検出遺構	SD 5		
調査員	小野本		



第116図 東恋ヶ窪6-23-2地点調査地位置図

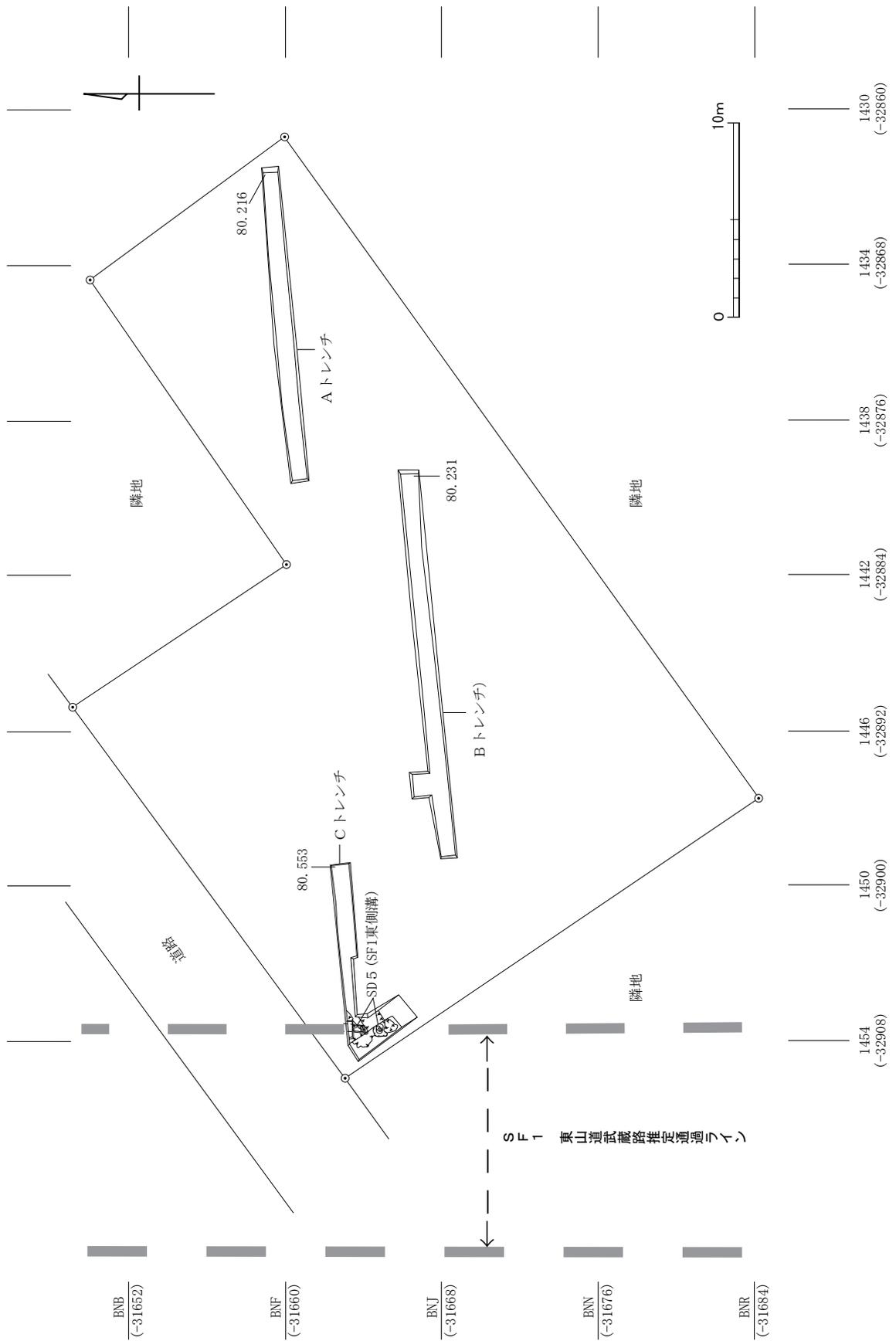
調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外であるが、東山道武蔵路（No.58 遺跡）の北側延長線上にあたる。

調査地は東山道武蔵路推定通過ラインに近いことから、事業者より開発に伴う埋蔵文化財取扱いの照会があった。これを受けて、市教委は平成23年9月16日付 国教教ふ発第61号をもって、開発事業者に対し、宅地造成工事計画と埋蔵文化財保護との調整について担当課であるふるさと文化財課と協議するよう依頼を行った。同9月20日には、国分寺市まちづくり条例に基づき、事業者より東恋ヶ窪六丁目23番2開発計画に関する各課事前協議書が提出された。これを受けて、同9月29日に市教委は事業者と協議を行った。その協議事項については、平成23年10月3日付 国教教ふ収第465号をもって、次のとおり回答している。まず、遺跡の有無を確認する試掘調査については、市教委作成の試掘調査計画書に基づき、工事に先立って試掘調査を実施する。次に、遺跡が存在した場合は、文化財保護法に基づき、東京都教育委員会に届け出（法第96条）、埋蔵文化財の保護に必要な指示を受けること。遺跡が存在しなかった場合は、調査終了後に事業を着手するというものである。

そこで市教委は、平成23年10月7日に市遺跡調査会に指示を行い、試掘調査を行った。調査区は、東山道武蔵路の推定通過ラインに直行するようにトレンチを3本東西に長く設定した。現在の地表面から約70cm下まで掘削したところ、近代以降の耕作によってIV層上面まで攪乱されていた（第122～124図）が、Cトレンチの西端において、黒色土を覆土にもつ遺構を確認したことから、調査区を一部拡張した。その結果、南北に延びる溝跡（SD5）を検出した（第120図）ことから、その形状や堆積状況を確認するために断割を行った（図119・126～128）。SD5は全長2.0m、幅0.75m、深さ31cmを測る。覆土はII層やローム層主体土で、古代の遺構覆土と類似しており、土坑を連結しているような掘方形状が確認された。これらの検出位置や堆積状況から東山道武蔵路の側溝である可能性が高かったため、SD5から道路幅である12m東側に相当するBトレンチ内を部分的に拡張し精査したが遺構は確認できなかった。したがって、SD5は東山道武蔵路の東側溝で、敷地外に西側溝が存在するものと判断した。

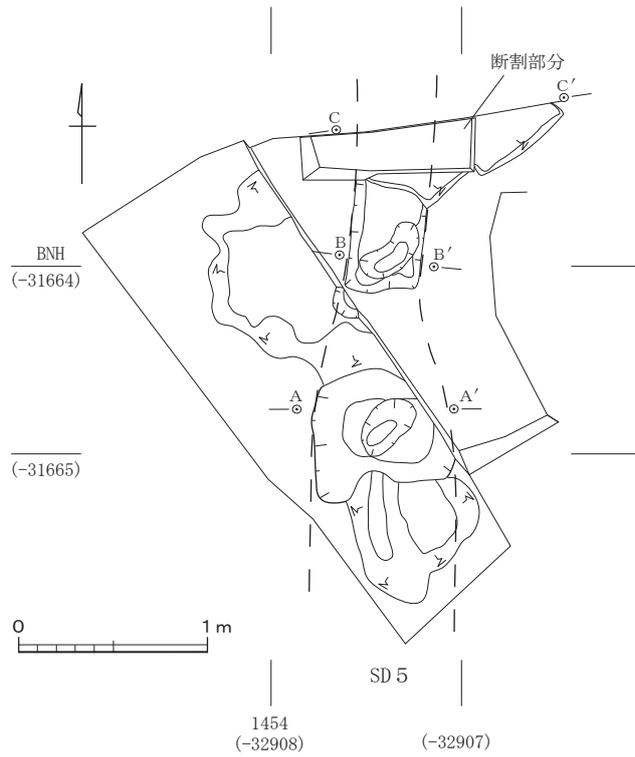
以上のように、これまでに確定していた恋ヶ窪遺跡（西恋ヶ窪一丁目）以北における東山道武蔵路の通過ラインを復元する上で重要な成果が得られた。しかしながら、東側側溝のみの検出であること、道路本体部分が未確認であること、遺物が出土しなかったことから確定できず、周知の埋蔵文化財包蔵地に指定するまでには至らなかった。

(1) 東恋ヶ窪6-23-2地点 (推定東山道武蔵路跡)



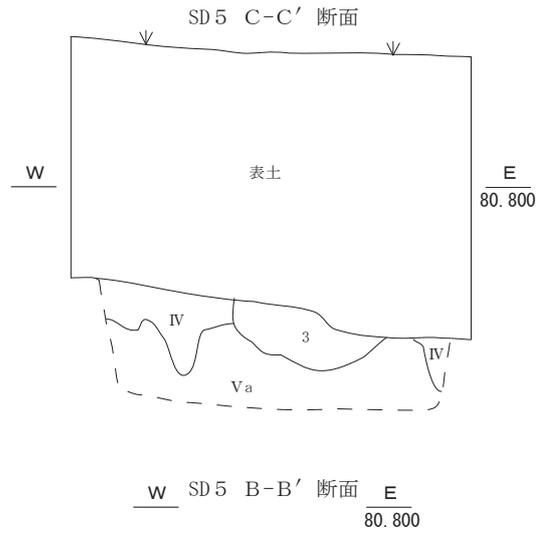
第117図 東恋ヶ窪6-23-2地点調査地全体図 (1 / 300)

第2章第3節 試掘調査

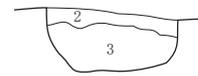


- 1 黒褐色10YR2/2 極細かいローム粒を少量含む。しまり、粘性弱い。
- 2 黒褐色10YR2/2 ~φ2cmのロームブロック、ローム粒を多く含む。(30~40%程度含む) 1と3の漸移層。
- 3 褐色10YR4/6 ソフトロームの埋め戻し層。黒色土をわずかに含む。しまり弱い。粘性あり。

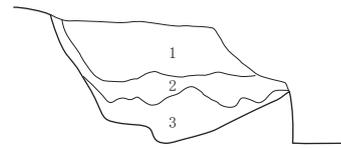
第118図 Cトレンチ西部平面図 (1/40)



SD 5 B-B' 断面
W E
80.800



SD 5 A-A' 断面
W E
80.800



0 1 m

第119図 SD 5北壁断面図 (1/20)



第120図 SD 5検出状況 (南から)



第121図 SD 5完掘状況 (南から)

(1) 東恋ヶ窪6-23-2地点 (推定東山道武蔵路跡)



第 122 図 試掘調査地点位置図と都市計画道路 3・2・8 号線の計画路線調査地点位置図 (1 / 10,000)



第123図 Aトレンチ全景（西から）



第124図 Bトレンチ全景（西から）



第125図 Cトレンチ全景（東から）



第126図 調査前状況（西から）



第127図 SD 5 A断面北壁（南から）



第128図 SD 5 B断面北壁（南から）



第129図 SD 5 C断面北壁（南から）

第3章 まとめ

以上、平成23年度中に実施した、各種の開発に伴う緊急発掘調査の成果について報告してきた。ここでは、これらの成果を今一度俯瞰するなかで、今後、市内所在遺跡の発掘調査にかかる幾つかの課題を整理しておきたい。

まず、個人宅造に伴う本発掘調査は5地点で実施した。このうち武蔵国分寺跡関連では、僧寺寺院地区画溝の外側南方にあたる第673次調査と、尼寺伽藍地内に位置する第675次調査の2地点で調査を行った。第673次調査では土坑3基と小穴4基を検出し、約25㎡程の小規模な調査のため不明な点は多いものの、規模の類似する小穴2基を柵列の可能性と指摘した。ここでの調査で注目されるのは、土坑SK3432の覆土中から出土した遺物に、白磁椀1点が含まれていることである（第16図1・第17図1）。小さな玉縁口縁を呈し、乳白色で均一な釉調は、太宰府出土の貿易陶磁器分類に照らせば白磁椀Ⅰ類に比定されるもので、約700次近くに及ぶこれまでの武蔵国分寺跡関連の発掘調査でも、古代の舶載磁器は越州窯青磁椀2点と同じ白磁椀1点の3点しか出土していないことから、貴重な追加事例となるものであった。なお、共伴する灰釉陶器は、肉厚な角高台をもつ黒笹14号窯式の段皿で、他に図示した遺物は南比企窯跡群産の男瓦片しかないが、いずれも9世紀中頃の廃棄年代を想定しておきたい。

今一つの第675次調査では、尼寺中門基壇を構成するSB142とその外側を東西に走行する溝SD44を検出したことが特筆される。SB142は、その検出位置から基壇の南東隅部分に相当するもので、地上の基壇部分と掘り込み地業の大半は、後世の攪乱・削平によって消失しており、基底部付近の掘り込み地業とそれに伴う4枚の版築層がかろうじて遺存している状況であった。しかし、既往の発掘調査結果と合わせると、中門基壇の掘り込み地業部は東西約12.5m、南北約9.7mの規模であったことが判明するに至り、遺存状況こそ悪いとはいえ貴重な成果であることに違いはない。一方、溝SD44は、既往の発掘調査区が分断されている状況のため、全体の様相は必ずしも明確ではないが、今回の調査で中門基壇の南側でも溝が途切れずに走行していることが予測された。よって、中門南側のSD44の上には、橋が構築されていた可能性も考えられるが、SD44が伽藍中軸線と交錯する部分は、今回の調査区（Aトレンチ）と敷地北側の市道間に挟まれた未発掘範囲であるため、今後の追究課題といえよう。なお、同溝の覆土上層からは、9世紀後半以降の土師器甕や再建期の女瓦が出土し、尼寺中枢部区画溝の埋没年代を考える上で貴重な指標を得た。

ところで、この市道を挟んだ北側は、平成5年度に尼寺地区史跡環境整備事業に伴う発掘調査が行われ、これらの遺構の延長部分を確認しており、発掘成果に基づいた復原・整備を経て、平成15年度に国分寺市立歴史公園武蔵国分尼寺として開園している。今回の調査地点は、現在、史跡の指定地外に位置しているが、市教育委員会では、平成24年4月に策定した『国指定史跡武蔵国分寺跡 附東山道武蔵路跡 保存管理計画（第2次）』において、史跡の追加指定は、尼寺跡は「伽藍地（寺域）全体の指定を目指す」こと、さらに、埋蔵文化財包蔵地の取扱いとして、「往時の武蔵国分寺の構成・性格を考えるうえで、学術的に極めて重要な発見があった場合には、遺跡の保存、史跡の追加指定等を検討していく」ことを標榜している。今次調査

第3章 まとめ

での発見遺構は、武蔵国分尼寺の主要遺構を構成する一部であることには相違がなく、追加指定の候補になる得る発掘成果といえるもので、住宅の建設にあたっては地権者の多大なるご理解とご協力のもと、中門基壇 SB142 については当初の給排水路の設計を変更して頂き、破壊されることなく現地にて保存が叶うこととなった。

この他、恋ヶ窪遺跡では、第 89 次の調査地点において土坑 1 基が発見された他、遺物包含層中からは多量の出土遺物が得られた。敷地の南東側は、平成 5 年度に第 40 次調査として公共下水道整備工事に伴って発掘調査が行われ、勝坂Ⅲ式期の竪穴住居 SI139J が確認されていたが（国分寺市遺跡調査会 1997『恋ヶ窪遺跡発掘調査報告Ⅷ』）、その後、第 44 次調査が今次調査の敷地を含んだ隣接地にも及んで実施され、どの発掘区も部分的ながら、縄文時代中期の竪穴住居が周囲一体に濃密に分布している状況を確認している（未報告）。今回の調査範囲は、ちょうどこれら竪穴分布の隙間に相当していたようで（第 44 図）、住居跡そのものの検出には至らなかったが、調査区北壁の堆積土層の断面観察所見では、遺物を含むⅢ b 層が緩く窪んでいる状況を確認しており、第 44 次調査の住居 SI133J の片鱗に相当していた可能性が考えられる。出土した遺物は、殆どが遺物包含層中のものであったが、小片であっても時期比定の基準となる資料については可能な限り図示するよう努めた（第 47～49 図）。それによると、土器は縄文時代中期中葉の勝坂Ⅰ～Ⅲ式、中期後葉の加曽利 E 1～2 式に加えて、中部高地系の曾利Ⅱ式が組成に含まれており、このうち数量的には勝坂Ⅲ式～加曽利 E 1 式が主体であった。なお、唯一発見された遺構である土坑 SK204J は、その覆土上層から加曽利 E 2～3 式および曾利Ⅲ式が出土しており、中期後葉に廃絶した遺構である可能性が考えられる。この他、土製円盤 3 点、打製石斧 5 点、磨製石斧 1 点を掲げたが、いずれも周辺での出土例の目立つ遺物組成であった。縄文時代中期の集落遺跡として知られる恋ヶ窪遺跡であるが、調査回数に照らして未報告の資料が蓄積されており、市教育委員会としても遺跡の全体的な様相、詳細な時期的動向の解明については今後の大きな課題としたい。

また、花沢東遺跡第 13 次調査では、4 箇所設定した試掘坑のうち最も西端に位置する A トレンチで、立川ローム層の第Ⅳ層下部から礫群および石器集中をそれぞれ 1 箇所ずつ確認し、チャート 2 個体、黒色頁岩 1 個体の母岩を持つ石器製作の痕跡を捉えることが出来た。同遺跡では、昭和 56 年度に都営住宅建設に伴う第 1 次調査として、本地点の北東約 100 m 程隔てた、殿ヶ谷戸谷を望む台地東縁辺部に対して、約 5,600 m²もの広大な敷地が発掘調査されている。その時の調査では、立川ローム層第Ⅲ～Ⅹ層までの間に 7 つの文化層が確認され、このうち第 3 文化層に相当する第Ⅳ層下部からは、調査区の東側に張り出す形で南北 60 m にも及ぶ円弧状に展開する石器集中地点 3 箇所、礫群 4 基を検出している。それに比べると、調査区の制約から、今次調査地点の遺構は全体形状こそ掴めなかったが、台地の奥まった場所にも礫群や石器集中が展開することが改めて確認された意義は大きい。また、盛土を除いて旧表土から約 2 m 足らずのレベルで旧石器時代の文化層に到達するため、今後、周辺で深い地下構造物を伴う工事においては注意を払う必要がある。さらに、今次の調査地点のⅤ層以下は、予定されていた工事の深度が及ばなかったことから、発掘調査のさらなる追究は行わなかったが、第 1 次調査では立川ローム層第Ⅹ層（第 7 文化層）からも局部磨製石斧が出土していることから、さらに古い時期の文化層が存在することも否定出来ない。合わせて、今後周辺における調査の蓄積

を重ねていくなかで検討することとしたい。

次に、確認調査であるが、平成23年度は武蔵国分寺跡で3地点、恋ヶ窪遺跡で1地点、花沢西遺跡で1地点、殿ヶ谷戸北遺跡で1地点、殿ヶ谷戸遺跡で1地点の、計7箇所を実施した。結果的には、遺構・遺物等が発見されて、その後の工事計画に影響が及ぶ調査内容ではないものが多かったが、このうち唯一、花沢西遺跡第22次調査では、縄文時代の土坑1基を検出した。ただし、当該土坑以外には遺構は確認されず、また遺物の出土も疎らであったため、確認調査の中で記録保存の措置をとった。出土遺物から本土坑の所産時期は中期中葉の勝坂式期と思われるが、周辺の包含層中からは中期前葉の阿玉台式の土器も出土している。また、殿ヶ谷戸北遺跡第3次調査では、遺物包含層中から縄文時代早期の土器・石器が出土した。いずれも、今後付近の発掘調査を行うに際して参考となる資料が得られたといえよう。

ところで、国分寺市では市内における開発手続きとして、まちづくり条例に基づく各種申請行為が定められており、ふるさと文化財課では個別の開発案件に対して、埋蔵文化財包蔵地及び国指定史跡の範囲内外の確認を行っている。その過程で、平成23年度は、埋蔵文化財包蔵地外ではあるが、国分寺市No.58遺跡（東山道武蔵路）の北側想定延長線上にあたる地点で、1箇所の開発申請があった。そこで、地権者および施工業者のご協力のもと、工事に先駆けて埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を行うこととした。詳細は第2章第3節で述べたとおり、敷地内の西際で東山道武蔵路の東側溝の一部と思われる、土坑を連結したような溝状の遺構1条を発見したものの、西側溝はおろか道路の路面を明確に捉えることは出来ず、今回の試掘結果をもって遺跡発見の手続きは行うまでには至らなかった。東山道武蔵路は、市内では西恋ヶ窪一丁目および東恋ヶ窪三丁目地内で、平成19年度に都市計画道路3・4・6号線建設に伴い実施した発掘調査を北限に（国分寺市遺跡調査会2008『東山道武蔵路発掘調査概報Ⅰ』）、それより北側の様相が未だ明確には掴めていない。今後、付近での試掘調査を重ねていくなかで、包蔵地の確定作業を進めていく必要がある。

この他、本書には収載していないが、当該年度には国分寺市内を縦貫する都市計画道路3・2・8号線建設に伴う第一期試掘調査、さらに計画路線にあたる国分寺市No.36遺跡地内では東京都埋蔵文化財センターが本発掘調査を実施している（試掘調査地点は第122図を参照）。いずれの箇所も、これまで市内では遺跡の発掘調査があまり及んでいない場所において調査を行う機会を得たが、遺構・遺物の検出状況は総じて少ないものであった。とはいえ、縄文時代の遺跡として周知されているNo.36遺跡で、遺構には伴はないが、かわらけや鍋島焼等の肥前磁器が出土しており、近世の国分寺市域における考古学的情報が少ない状況下にあつて、貴重な調査成果が得られたといえる。経緯・調査内容等の詳細は、東京都埋蔵文化財センターの刊行物にて別途報告される予定であるが、事業者の用地取得の関係から、引き続き第二期以降の試掘調査も平成24年度に行うこととなっており、今後の調査動向が注目される。

最後になりましたが、本書に収載した個々の緊急発掘調査にあたっては、地権者の皆様ならびに施工業者様のご理解とご協力なくしては到底実施し得なかったものです。調査に関係されました皆様方には、改めて感謝の意を表します。

報告書抄録

ふりがな	へいせい23ねんどこくぶんじしまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう							
書名	平成23年度国分寺市埋蔵文化財調査年報							
編著者名	寺前めぐみ(編)・依田亮一・上敷領久・中道誠							
編集・発行機関	国分寺市教育委員会							
所在地	〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL 042-300-0073							
発行年月日	平成25(2013)年3月31日							
規格／部数	A4判横組1段 42文字×38行 92頁／300部							
資料の保存 問い合わせ先	国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課 〒185-0023 東京都国分寺西元町1-13-10 武蔵国分寺跡資料館内 TEL: 042-300-0073 FAX: 042-300-0091 E-mail: bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第670次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 いづみちよう 泉町	13-214	19	35° 41' 49"	139° 28' 26"	20110509	2.45	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		なし		なし	掘削底面まで盛土。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第671次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	19	35° 41' 19"	139° 28' 00"	20110623 ～ 20110624	7.80	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		なし		なし	古代の土層堆積を確認。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第673次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	19	35° 41' 20"	139° 28' 16"	20111202 ～ 20111208	25.15	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		土坑3基 (SK3430～3432) 小穴4基(P-1～P-4)		土器 瓦 白磁	SK3431 覆土中から土器・瓦 が出土。市内では類例の少ない 白磁が注目される。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡 (第674次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	19	35° 41' 21"	139° 28' 27"	20120130	2.81	分譲住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
むさしこくぶんじあと 武蔵国分寺跡	集落跡 道路跡		なし		なし	掘削底面で縄文時代の遺物包 含層を確認。		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
むさしこくぶんじあ 武蔵国分寺跡 (第675次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町	13-214	10 19	35° 41' 21"	139° 28' 05"	20120306 ～ 20120323	41.51	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
むさしこくぶんじあ 武蔵国分寺跡 (僧尼寺)	寺院跡		礎石建物 (SB142) 溝 (SD44)		須恵器 土師器 瓦	武蔵国分尼寺中門 (SB142), 南辺区画溝 (SD44)を確認。 中門は現地保存を行った。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡 (第88次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42' 12"	139° 28' 09"	20110512 ～ 20110513	7.40	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡	集落跡		なし		なし	掘削底面で縄文時代の遺物 包含層を確認。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡 (第89次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42' 10"	139° 28' 11"	20110824 ～ 20110905	7.96	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡	集落跡	縄文時代 中期後半	土坑 (SK204J)		縄文土器 石器	縄文時代中期後半の土坑 (SK204J)を確認。包含層か らは遺物が多く出土した。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡 (第90次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくぼ 西恋ヶ窪	13-214	2	35° 42' 04"	139° 28' 18"	20110905 ～ 20110906	3.77	分譲住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
こいがくぼ 恋ヶ窪遺跡	集落跡		なし		なし	掘削底面まで盛土。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
はなざわにし 花沢西遺跡 (第22次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちよう 南町	13-214	8	35° 42' 00"	139° 28' 38"	20120201 ～ 20120209	12.60	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
はなざわにし 花沢西遺跡	集落跡	縄文時代	土坑 (SK29J)		縄文土器	土坑 (SK29J)を確認した。 倒木等による自然のくぼみ の可能性もある。		
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
とのがやときた 殿ヶ谷戸北 遺跡 (第3次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちよう 南町	13-214	20	35° 41' 58"	139° 29' 14"	20120213 ～ 20120220	19.84	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
とのがやときた 殿ヶ谷戸北 遺跡	集落	縄文時代	なし		縄文土器 石器	少量の縄文土器と石器が出 土した。		

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
とのがやと 殿ヶ谷戸遺跡 (第13次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちやう 南町	13-214	21	35° 41' 58"	139° 29' 04"	20110425 ～ 20110426	0.90	集合住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
とのがやと 殿ヶ谷戸遺跡	集落跡		なし		なし		北に急激に傾斜し、遺構が存在する可能性が低い。	
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
はなざわひがし 花沢東遺跡 (第13次)	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 みなみちやう 南町	13-214	54	35° 41' 50"	139° 28' 48"	20120206 ～ 20120306	64.08	個人宅造
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
はなざわひがし 花沢東遺跡	集落跡	縄文時代 旧石器時代	ピット3基 (PJ-1～3) 石器群 (ST19) 礫群 (SR25)		石器 礫		ハードローム中から石器群が、その直下から礫群が検出された。石器群は主にチャート剥片であり、石器製作跡と考えられる。	
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 ひがしこいがくぼ 東恋ヶ窪	13-214		35° 42' 51"	139° 28' 11"	20111011 ～ 20111019	40.35	宅地造成 試掘
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	道路跡	古代	溝 (SD5)		なし		東山道武蔵路東側溝の可能性のあるSD5を確認した。	

平成23年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報

発行日 平成25年(2013)3月31日
 編著者 国分寺市教育委員会・国分寺市遺跡調査会
 発行者 国分寺市教育委員会 教育部 ふるさと文化財課
 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
 武蔵国分寺跡資料館内
 TEL 042-300-0073
 印刷会社 株式会社 プリントショップ国分寺
 〒185-0021 東京都国分寺市南町2-10-8
 TEL 042-327-4311

紙質

表紙：アートポスト 菊判 125 kg 本文：マットコート A判 44.5 kg

表紙写真：花沢東遺跡第13次調査出土 旧石器(約3/4)

令和4年(2022)3月2日 デジタル版作成